岩手県文化財調査報告書　第122集

岩手の製鉄遺跡

平成18年３月

岩　手　県　教　育　委　員　会

岩手県文化財調査報告書　第122集

岩手の製鉄遺跡

平成18年３月

岩手県教育委員会

序　文

当教育委員会では、私達の祖先より受け継いできた貴重な歴史遺産である埋蔵文化財を保護するため、各種開発事業との調整を日常的に行っておりますが、埋蔵文化財包蔵地の中には特殊な性格や意味・内容を持つものがあり、それらは、可能な限り現状で保存するべきであると考えております。そのためには、その位置と範囲について、十分に関係機関に周知しておく必要があります。

ところが、埋蔵文化財包蔵地の中には特殊な性格や意味・内容を持つものがあり、それらは、可能な限り現状で保存するべきであると考えております。したがって、その位置と範囲について十分に関係機関に周知しておく必要があります。

このような趣旨にのっとり、当教育委員会では、これまで、中世城館、貝塚、洞穴遺跡の分布調査を実施し、報告書を刊行してまいりました。今回の製鉄遺跡調査事業は、これらに続くものであります。

当事業においては、平成14年度より３カ年計画で詳細分布調査を実施し、新に多くの製鉄関連遺跡を発見・確認することができましたが、その大半が山間部に所在していることから、位置や範囲を正確に把握することが難しい箇所が多くありました。また、製鉄関連遺跡のみならず、遺跡から出土する様々な遺物は、過去の日常生活を復元するための有効な手がかりとして、極めて重要な意味を持っています。

本報告書は、３カ年の調査成果をまとめたもので、従来周知されていた製鉄関連遺跡の他に、今回新たに遺跡として登録したもの等を含んでおります。本報告書が活用されることで、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位からご協力・ご指導を賜りましたことに対し、心より感謝申しあげます。

平成18年３月

岩手県教育委員会
教育長　照井　　崇

例　言

1　本書は岩手県教育委員会が平成14年度から平成16年度にかけて実施した県内製鉄関連遺跡調査事業に係わる調査結果の報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。事業額は以下のとおりである。

平成14年度	621,720円	平成16年度	566,673円
平成15年度	1,369,215円	平成17年度	報告書刊行

2　本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県教育委員会が委嘱した製鉄調査員が主として現地調査を行い、関係市町村教育委員会の協力を得ながら実施している。委嘱した調査員は次のとおりである。

全県担当	佐々木 清文	(財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター)
	濱田　宏	(財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター)
	阿部　勝則	(財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター)
岩手・盛岡地区担当	佐々木清文	(財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター)
紫波・稗貫地区担当	〃	
和賀・胆江地区担当	佐藤　良和	(財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター)
両磐地区担当	後藤　円	(花泉町教育委員会)
気仙地区担当	遠藤　勝博	(陸前高田市教育委員会)
上閉伊地区担当	花石　公夫	
下閉伊地区担当	佐々木　健	
九戸・二戸地区担当	大畑　英明	(九戸村教育委員会)

3　地区概観は、各地区の歴史的背景と、製鉄遺跡の分布状況について略述している。各地区分は教育事務所の所在地区によるもので、これは歴史的背景と大略一致する区分である。

4　製鉄遺跡位置図は国土地理院発行の1/50000地形図を原図として使用した。

5　本調査で対象とした製鉄遺跡については近世・近代までの時代に属するものである。

6　製鉄遺跡の名称については、周知の遺跡については基本的に岩手県遺跡基本台帳によっているが、一部変更したものもある。その場合、本報告書記載の名称等を正しいものとし、岩手県遺跡基本台帳についてはおって改訂することとする。新規発見の遺跡については地名・文献資料に載っている名称等を使用している。

7　各地区の市町村の名称は平成17年４月１日現在のものとする。(製鉄遺跡一覧表には平成18年３月31日現在の新市町村名欄を設けている。)

8　本事業の報告書編集等は、平成14年度～平成16年度までは岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の日下和寿専門学芸員、平成17年度は溜浩二郎文化財行政研究員が担当した。

なお、調査及び整理については下記の方々のご協力をいただいた。

県内各市町村教育委員会、㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、八木光則（盛岡市中央公民館）、 酒井久男（種市町図書館、歴史民俗資料館長）

9　本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

目　次

序文
例言
第１章　岩手県における製鉄遺跡研究史……1
第２章　岩手県内製鉄遺跡の概要……3
⑴　全体概要……3
⑵　盛岡・岩手地区の概要……3
⑶　紫波・稗貫地区の概要……5
⑷　和賀・胆江地区の概要……6
⑸　両磐地区の概要……7
⑹　気仙地区の概要……7
⑺　上閉伊地区の概要……9
⑻　下閉伊地区の概要……10
⑼　九戸・二戸地区の概要……10
第３章　調査結果から見た岩手県の製鉄関連遺跡……60
第４章　製鉄遺跡調査のまとめ……63

図版目次

第１図　岩手県内製鉄遺跡分布図……22
第２図　岩手県内製鉄遺跡位置図１……23
第３図　岩手県内製鉄遺跡位置図２……24
第４図　岩手県内製鉄遺跡位置図３……25
第５図　岩手県内製鉄遺跡位置図４……26
第６図　岩手県内製鉄遺跡位置図５……27
第７図　岩手県内製鉄遺跡位置図６……28
第８図　岩手県内製鉄遺跡位置図７……29
第９図　岩手県内製鉄遺跡位置図８……30
第10図　岩手県内製鉄遺跡位置図９……31
第11図　岩手県内製鉄遺跡位置図10……32
第12図　岩手県内製鉄遺跡位置図11……33
第13図　岩手県内製鉄遺跡位置図12……34
第14図　岩手県内製鉄遺跡位置図13……35
第15図　岩手県内製鉄遺跡位置図14……36
第16図　岩手県内製鉄遺跡位置図15……37
第17図　岩手県内製鉄遺跡位置図16……38
第18図　岩手県内製鉄遺跡位置図17……39
第19図　岩手県内製鉄遺跡位置図18……40
第20図　岩手県内製鉄遺跡位置図19……41
第21図　岩手県内製鉄遺跡位置図20……42

写真図版……66～69

表目次

第１表　岩手県内製鉄遺跡一覧表⑴……12
第２表　岩手県内製鉄遺跡一覧表⑵……13
第３表　岩手県内製鉄遺跡一覧表⑶……14
第４表　岩手県内製鉄遺跡一覧表⑷……15
第５表　岩手県内製鉄遺跡一覧表⑸……16
第６表　岩手県内製鉄遺跡一覧表⑹……17
第７表　岩手県内製鉄遺跡一覧表⑺……18
第８表　岩手県内製鉄遺跡一覧表⑻……19
第９表　岩手県内製鉄遺跡一覧表⑼……20
第10表　岩手県内製鉄遺跡一覧表⑽……21
第11表　岩手県内製鉄遺跡関連文献一覧表⑴…64
第12表　岩手県内製鉄遺跡関連文献一覧表⑵…65

第１章　岩手における製鉄遺跡研究史

北上山地は近世後半に東日本最大の鉄生産地となり、江戸時代の産業を支える大きな役割を果たしてきた。その後、安政四年（1857）12月１日に鉄鉱石利用の洋式高炉の操業に我が国初の成功を収めた。それから今日まで僅か１世紀半しか経過していない。我々の４～５世代前のことであるが、新しい情報があふれる現代社会では、１～２世代前の記憶も途絶えつつあり、記録も十分に残されている状況にはない。まして、江戸時代前期や中世・古代に遡ると手がかりは極端に少ない。

しかし、いつの時代でも、先人の業績を研究し、伝える努力をした人がおり、その成果のいくつかは研究報告や市町村史等の発刊事業などに利用されている。また、活字印刷物としての記録は残されていなくても石碑や伝承が残っており、先人の熱意と努力に敬意を表する。1950年代から各方面の研究活動も復興し、考古学の分野でも製塩遺跡や窯跡などの生産遺跡調査も全国的に盛んに行なわれ始め、現在では多くの学問が交流協力して大きな成果を上げている。そういう流れの中で、岩手県の鉄の生産に関連した研究活動は概ね以下のようになると思われる。

新日本製鐵所釜石製鐵所の前身富士製鉄や釜石市の職員が、近代製鉄開始100年を記念して釜石市橋野高炉を国指定史跡にするという計画をたて、実施された総合調査は、森嘉兵衛・板橋源・田中喜多見各氏の協力と、さらには日本鉄鋼連盟の後援を得て行われた。発掘調査は昭和30（1955）年11月～31年９月まで数次に亘り行われた。その報告が昭和32年に刊行され、橋野高炉跡は、昭和32（1957）年６月３日に国指定史跡となった。その年には鉄の記念日が12月１日に制定され、記念切手も発行された。

報告書は考古学・歴史学が協力してできたすばらしい内容で、高く評価された。東北地方の鉄産業の歴史を遡り、釜石に橋野高炉ができる以前から北上山地に製鉄業が栄えており、その基盤の上に高炉による製鉄が成り立ったことが明らかにされた。橋野高炉は、この発掘のほぼ70年前の1894（明治27年）まで操業されていたことを思えば、記録・記憶がいくらかでも残っているうちに検証し、評価され、史跡として現在に形を留めることになり、関係者の努力に改めて敬服する。

森・板橋両氏は、その後1959年に栗林銭座の調査を行い、高炉銑による鋳銭事業や遺跡状況を明らかにした。板橋氏はその後も仙台藩の製鉄遺跡である文久山鉄山や舞草製鉄遺跡の発掘調査等も行っている。一方、森氏は県内各地に残る古文書を調査し、江戸時代の産業・経済、中でも北上山地北部および仙台藩の製鉄産業のもたらした商業経済の発達、生活構造の大きな変革などを明らかにした。

1950年代頃から全国的に各学会の研究活動も復興し、岩手県内でも多くの研究発表が報告されるようになる。いくつか例を挙げると、新渡戸仙岳氏の密鋳銭遺跡の研究、伊藤清司氏の近世鉱山経営における木炭の研究、伊東信雄・昆勇郎氏等による大槌町ヤグラ沢・門脇沢遺跡の調査、千葉房夫氏の旧仙台藩領の製鉄に関連する研究発表など県内各地で研究が行われている。

1960年代以降になると、たたら研究誌上（たたら研究会は1958年結成）などに文献や現地踏査を通じての研究成果が多く発表されるようになり、製鉄関連の研究者の増加が伺える。特に東北大学岡田廣吉氏による調査研究は、遠野市佐比内高炉の発掘調査を含め、原料鉱石から製鉄技術、歴史的背景など多岐に亘り、砂鉄から鉄鉱石利用の製鉄の実態を明らかにしている。

ほかにも文献研究のみにとどまらず、現地調査や復元実験を積極的に行った人も多い。八戸藩の製鉄史を追跡した斎藤潔氏、気仙郡の製鉄遺跡をまとめた梅木卓二氏、東磐井郡の製鉄史を研究し

ている芦丈八郎氏、県内全域ならず隣接県まで足跡を残した菊池春雄・萩野馨両氏、久慈砂鉄の開発史を追究した田村栄一郎氏、磁鉄鉱の一種餅鉄を刀剣材料とする研究をした新沼鐵夫氏など、ほかにも多くの方々が様々な形で鉄に関連した研究に取り組み、現在に至っている。

1970年代以降は公共事業に伴う発掘調査により鉄の生産加工に関わる遺跡の調査も増加し、踏査だけではわからなかった遺跡の具体的内容も明らかになってきた。東北縦貫自動車道の関連で、志波城の所在が明らかになり、石鳥谷町大瀬川Ａ遺跡では古代製鉄炉が検出されるなど、９世紀代には内陸部でも大規模な鉄の生産加工の痕跡が確認されている。一方、三陸沿岸でも宅地開発や道路建設などの大規模開発に伴い、古代の遺跡調査が増加し、８世紀代から始まり10世紀に最盛期を迎える製鉄関連遺跡の実態が明らかになってきている。

近世東日本を代表する製鉄地である八戸藩の玉山鉄山や盛岡藩の江川鉄山、また伊達藩領のドウメキ沢鉄山の操業や生活の具体的内容が明らかになってきた。赤沼英男氏も科学分析による鉄素材の原料や加工技術・遺物の保存処理技術などの研究を進めている。そうした中で1990年には岩手県立博物館開館10周年記念事業として「北の鉄文化展」が開催され、鉄に関連する各方面の研究成果が総合的に示された。

その後も開発に伴う発掘調査の事例が追加され、また、市町村教育委員会でも詳細分布調査等を実施し、古代から現代に至る多くの遺跡が確認されている。特に下閉伊地方では500箇所を超す遺跡の存在が明らかになった。東磐井地方では鉄穴流しやスガネ道の調査もされている。また鉄製品の形状分析や編年研究も進んでいる。このように調査資料や調査方法の充実に伴い、研究会活動も盛んに開催され、製鉄史の実態解明の体制も整いつつある。

この製鉄関連遺跡悉皆調査により、遺跡の現状を把握し、今後の調査研究基本資料が整理されたことになる。今後も発掘調査例の増加や分析調査の研究手法が多彩になり、鉄の生産加工の状況がより具体的に明らかになると思われる。なかでも、三陸地方古代の製鉄炉のルーツや伝搬経路、そして中世の鉄生産の状況が、その背景となっている歴史とともに解明されることが期待される。

第２章　岩手県内製鉄関連遺跡の概要

（１）全体概要

先に事業の概要及び本報告書の作成要項について述べておく。

本事業は、岩手県内の製鉄関連遺跡の周知を目的とした、野外分布調査を行ったもので、調査は平成14年～平成16年度まで３カ年にわたって実施し、整理は調査と平行し、平成17年度まで行った。

野外分布調査の対象は、古代から近代とし、周知の製鉄関連遺跡の現況及び、遺跡の可能性の高い、あるいは近い将来、開発による破壊を受ける可能性のある箇所を調査した。

実際の調査では、周知の製鉄関連遺跡以外は、文献資料等などをもとに遺跡のある箇所を調査した。

野外分布調査は、県教育委員会が委託した製鉄関連遺跡調査員が主として行った。調査員は、例言に示したように各地区ごとに任命し、１カ所につき１～３回の踏査を行い、計400に近い数の場所で調査を実施した。

調査員には、事前に調査計画書を、終了後は調査日誌、調査カード、撮影したフィルムを提出してもらった。調査の際は複数行動を基本とし、写真は35㎜カラーフィルムを使用した。

調査カードはＡ４版両面刷りで、表面は文章記載、裏面は図（1/25,000位置図、遺跡までの略図、平面模式図）を貼付するようになっている。表面に記載した調査項目は、43頁以下の表に掲げたものに加え、土地所有者、周囲の状況である。

報告書の主体をなす本章の遺跡表は、上記の調査カードに基づいて事務局が作成した。その他の章は、基本的に各担当者が執筆した。遺跡表は、今回分布調査を行ったすべての箇所を掲載した一覧表と、別に遺物の出土量や遺跡の特徴などから取り上げた表とを作成した。

製鉄関連遺跡は山間部や急斜面地形に存在することが多く、今回行った調査で多くの新規遺跡を発見できたことは１つの成果ではあるが、一方で未発見の製鉄関連遺跡が多く存在する可能性は大きく、今後継続した調査が必要であろう。

次に本書で報告する製鉄関連遺跡は全部で386箇所である。県内に存在する製鉄関連遺跡の一部と考えられる。なお、第１～10表に記載したものについては周知の遺跡以外にも遺跡隣接地や新規発見となったものもあり、遺跡名のないものについてはコード名で示した。

今回の報告を地区別にみると盛岡・岩手地区４、紫波・稗貫地区３、和賀・胆江地区45、両磐地区47、気仙地区63、上閉伊地区58、下閉伊地区73、九戸・二戸地区93となり九戸・二戸地区が最も多い。

（２）盛岡・岩手地区の概要

盛岡・岩手地区は、岩手県中央部北部に位置し、盛岡市・雫石町・滝沢村・玉山村・岩手町・西根町・松尾村・安代町・葛巻町の１市５町３村からなり、面積は約3,466.69㎢で県土の約22.7％を占める。

盛岡市永福寺山遺跡の続縄文時代の土壙墓から出土した鎌・刀子から３～４世紀に鉄の文化に接したことがわかる。それに続く盛岡市薬師社脇遺跡からも５～６世紀の遺跡とともに斧・鎌・鏃などが検出されるなど、続縄文時代・古代遺跡の調査例の増加とともに鉄製品が急速に普及していった状況がわかる。

７～８世紀の古墳や集落遺跡からは、砥石だけでなく、鍛冶滓が検出されることもあり、研磨加工だけでなく鍛冶加工が行われていた可能性がある。鉄を加工した明らかな痕跡が現れるのは９世紀初頭の城柵官衙遺跡である志波城が築かれてからである。

志波城跡からは、鍛冶工房や鋳造工房の一部と見られる溶解炉の一部が見つかっている。志波城という駐屯地には政府から派遣された多くの技術者がおり、その技術が周辺住民の生活や開拓事業にも大きな役割を果たしたと思われる。中でも鉄の加工技術は重要で、鞴を使い加熱して鍛打加工する鍛冶技術は急速に広がったものと思われ、９世紀以降、椀形鉄滓や羽口片が出土する遺跡が増加している。矢巾町徳丹城からも鉄製品は出土しているが、志波城のように積極的に鉄の加工を行った痕跡は今のところ見られない。

製鉄についても石鳥谷町大瀬川Ａ遺跡で９世紀前半の製鉄炉が検出されている。旧都南村羽場遺跡でも１トン近い鉄滓が出土したといわれ、製鉄が行われた可能性がある。炉の形状は不明瞭であるが、長円形の炉跡のような報告から長方形箱形炉の可能性がある。しかし、送風装置や作業場の構造などは不明である。沿岸部で多く確認されている小型の竪形炉とは異なり、中央の技術者による官製の製鉄技術の可能性も考えられる。

鉄の素材となる砂鉄は花崗岩の風化地帯に多いが、非花崗岩地帯でも砂鉄は存在し、ある程度の量であれば、条件の良い場所では容易に採集できる。しかし、大瀬川Ａ遺跡や羽場遺跡では、その後も積極的に製鉄を行った痕跡はみられないので、十分な砂鉄の継続確保はできないなど別の要因があったようである。

９～10世紀になると、安代町関沢口遺跡などのように集落ごとに鍛冶加工を専門に行った遺構が現れる。村はずれの鍛冶屋のような存在である。10世紀末の西根町暮坪遺跡や子飼沢山遺跡など山上に築かれる集落にも鉄製品が残されることがあるが、定住期間が短いせいか、鉄加工の痕跡は見られない。西根町荒木田山には沢沿いにガラス質の滓と炉壁が散在する遺跡があり、金属加工の工房跡と思われるが、時代や業種を特定できる資料が伴出していない。

前九年の役・後三年の役・藤原氏の時代と鉄製品の需要が急速に増大し、素材・製品の流通とともに高度な加工技術も確立されたことは、すぐれた刀剣類や祭祀具等が多く残存することから明らかである。紫波町比爪館からは羽口片など鍛冶工房に関する遺物も出土している。

製鉄地と離れたところに鍛冶加工あるいは鋳造加工の工房が分離し、それぞれ専門の製品を生産していたと思われるが、工房群の発掘例は乏しく、工房は必ずしも密集して営まれていなかったようである。また、鉄製品は貴重品でもあり、古鉄のリサイクルが当然の時代でもあり、鍛造・鋳造を問わず破損した製品の残存状況は少ない。また鉄床や鉄鋏・鉄槌などの加工道具の残存例も少ない。

盛岡城築城やその他の城下の整備に関しても多量の鉄製品が使用されている。美術品にしても、鍛造・鋳造ともに優れた作品を今に伝えている。近世の製鉄の中心地は九戸地方と下閉伊地方であるが、その中の八戸藩の大野六カ鉄山のひとつに数えられた平庭鉄山が葛巻町に存在する。鉄山では鉄素材である粗鉄（銑鉄）やシナ鉄を生産するだけでなく、延鉄（軟鉄）や刃金も作っている。延鉄は大鍛冶場で作られ、大鍛冶場は鉄山内にある場合が多い。葛巻町三浦家では鉄の流通業を営んだだけではなく、鎌などの加工職人を雇い、製品の製作販売も行っている。城下町には職人がまとまって居住していたことが町名に残っている。

江戸後期に銅が海外に多量に流出したことにより銅不足に陥った幕府は、元文四年（1739）から鉄銭の鋳造を始める。岩手県でも慶応二年（1866）に大迫銭座が許可され、釜石の銑鉄を使用して

鉄銭の鋳造を行う。贋金作りはお金の誕生とともに始まったといわれるが、密鋳銭の製作は鉄銭の流通とともに増加し、岩手県にも製鉄地帯に近い軽米町や岩泉町・住田町等でいくつかの工房跡が知られている。岩手郡内では雫石町高松沢や葛巻町鷹巣に私炉があったことが有名で、ほかにも多くの製作工房があったようである。

近世以降、鉄製品の需要はさらに高まり、また、鉄道開通後は素材・製品とも輸送能力が高まり、市場が拡大し、鋳造鉄器・鍛造鉄器とも民生用だけではなく工業用製品も増産されたが、現在ではその工房や遺跡の残存は極めて少ない。

（３）紫波・稗貫地区の概要

紫波・稗貫地区は岩手県のほぼ中央に位置し、紫波地区は紫波町・矢巾町の２町、稗貫地区は花巻市・石鳥谷町・大迫町・東和町の１市３町からなり、面積は約1,214.63㎢で県土の約7.9％を占める。南に隣接する北上市岩崎台地遺跡群の続縄文時代の墳墓から刀子・鉄鏃・砥石などが出土したほか、和賀川流域江釣子古墳群や豊沢川流域の熊堂古墳群などから刀剣類や馬具類など多くの鉄製品が出土している。７・８世紀の周辺の集落からも鉄製品や砥石の出土が確認され、鉄製品の普及が伺える。

９世紀前半の石鳥谷町大瀬川Ａ遺跡からは、大量の鉄滓とともに箱型炉と思われる製鉄炉の痕跡が確認されている。高地開拓の道具等に使用する大量の鉄を自前で生産することを目論んだと思われるが、砂鉄の供給等に難があったのか、継続操業されていない。

古代の集落である北上市本宿遺跡からは鍛冶工房跡が検出されている。また北上南部工業団地遺跡からは製炭用穴窯が数基確認されており、大量の木炭を生産していたことがわかる。

笹間館跡など中世城館遺跡からは多種多量の鉄製品が出土しており、製作技術の向上と製品の流通量の増加が垣間見える。

近世になり九戸･下閉伊地方の製鉄が盛んになると、火の神や鉱山の神を祀る神社に鉄山の繁栄を願って初湯の奉納等が行われるところも出てくる。東和町丹内山神社などにもその扁額が奉納されているが、地元あるいは近隣の鉄山のものではない。

一方、大迫町内川目には、慶応２年（1866）に盛岡藩で初めて公式に鉄銭鋳造所として開設された大迫銭座跡がある。釜石橋野高炉で生産された銑鉄を利用して生産を行ったが、５年後に焼き討ちにあい壊滅した。遺跡にはおびただしい鉄滓とともに煉瓦の破片もあり、橋野高炉同様に近代化した生産施設が整備されていたことを裏付けている。

近世後半には無許可の鉄銭の鋳造も行われ、湯田町湯草沢などでは打ち壊しなどが行われたことが湯田町史にも記載されている。西和賀地方は藩政時代以前から鉱山開発が盛んに行われ、金や銅などが主に生産されたが、砂鉄や鉄鉱石の開発も行われている。

明治時代に操業された和賀仙人鉱山は、明治33年（1900）に12トン高炉を築き、大正９年（1920）まで木炭で低リン銑を生産して、釜石鉱山・栗木鉄山に次ぐ民間の製鉄所として栄えた。当時の写真等を見ると高炉の位置は、日本重化学工業の高炉付近にあたり、昭和13年の日本重化学工業の高炉建設の際に破壊されたようである。高炉西側の敷地は排滓場を整地したようで、鉄滓が散在している。川岸の斜面には、木の根に巻き込まれた鉄滓や煉瓦が認められる。

そのほかに次代は不明であるが、東和町向田瀬の田瀬湖湖畔に鍛冶炉跡の存在や、紫波町土館の新山神社にも周辺から出土した鉄滓が祀られているなど、認知されていない遺跡もある。

（４）和賀・胆江地区の概要

和賀・胆江地区は岩手県南部に位置し、和賀地区は北上市・湯田町・沢内村の３市町村、胆江地区は水沢市・江刺市・金ヶ崎町・前沢町・胆沢町・衣川村の２市３町１村からなり、面積は約2,201.45㎢で県土の約14.4％を占める。西を奥羽山脈、東を北上山地に挟まれている。北上地方は北上川を挟んで西部の扇状地性台地群と、東部の小起伏山地を含む丘陵地域とに分かれる。西部は扇状地や北上川の旧河床が段丘化したもので、和賀川等の東流する河川によって刻まれている。胆江地方は胆沢町市野々を扇頂とする扇状地に広がる。北を胆沢川、南を北股川、東を北上川に接する。北上川東岸は北上川によって形成された沖積平野と北上川支流沿岸に広がる盆地状地形からなる。

和賀・胆江の両地区ともに、製鉄遺跡は現在までの調査からは確認されてはいない。江戸時代末期、東磐井郡京津畑に開いた製鉄所が明治２年に北上山地域の江刺郡米里字古歌葉に移転し、明治18年に同郡栗木沢（後の栗木鉄山）に移転した記録がある。古歌葉については現地踏査を実施したが、明確な遺構は存在せず、現地の方からいただいた情報をもとに写真撮影をしたのみであった。周辺には赤金鉱山の坑道（試掘坑か？）や金の採掘跡など他の鉱山跡も存在する。

一方奥羽山系では、北上市和賀町仙人に明治27年仙人鉱山が操業を開始、同31年には精錬を開始した。これ以前の製鉄遺跡は確認できなかった。

近世以前で和賀・胆江地区で主に確認される製鉄関連遺跡は鍛冶、鋳物に関係する遺構・遺物である。鍛冶関連遺物の最も古い事例は7世紀代まで遡ることができる。北上市猫谷地遺跡の竪穴住居跡から、少量の鉄滓が出土している。8世紀後半頃になると水沢市熊野堂遺跡の竪穴住居跡からは先端にノロが付着した羽口片が出土している。遺物の出土が極少量のことから、集落内鍛冶の可能性が考えられる。

平安時代になり胆沢城が成立すると、胆沢城内はもとより、鍛冶関連の遺物が出土する遺跡が拡大する。水沢市域で２遺跡、北上市域で９遺跡、江刺市域で７遺跡である。そのうち、工房跡と思われる遺構が見つかっているのが、水沢市の伯済寺遺跡、北上市の上鬼柳Ⅲ遺跡、同市上川岸Ⅱ遺跡である。他の遺跡からは住居跡の埋土から鉄滓や羽口、椀形滓、鉄床石等が出土するのみで、はっきりとした炉跡、工房の確認はされていない。

中世から近世では江刺市の岩谷堂城跡や水沢市の鹿野遺跡、衣川村の鍛冶屋敷跡、前沢町の田高Ⅱ遺跡などから関連遺物が出土している。江刺市寺田遺跡から南の羽田町にかけて鉄滓を採取できる地域が点在しているが、発掘調査がなされていないため時期は特定できない。水沢市史（近世下）には「口碑によると田茂山鉱山業は、江刺郡岩谷堂寺田部落松ノ木に起源し、羽黒堂村を経て田茂山村に移ったことを伝えている。」「それを始めたのは平安末期豊田館主藤原清衡で、江州から職人を呼び鋳造させたというが、それを証する資料はない。」「年代等は不明であるが、この地方に鋳物場があったことは、認めなければならない。」と記されている。

近代になると羽田町での鋳物生産が定着し、現代にまで至ることとなる。定着の礎となったのは栗木鉄山、仙人鉱山から供給される原鉄であった。

発掘調査で得られた製鉄、鍛冶関連遺物のほとんどは鉄滓で共伴遺物が少なく、時期を特定できていないのが現状である。北上市２遺跡、水沢市４遺跡、江刺市３遺跡、前沢町１遺跡を数える。鉄滓の出土量が非常に少ないことから製鉄というよりも、精錬を含めた鍛冶遺構の可能性が高いであろう。

（５）両磐地区の概要

両盤地区は岩手県の南端に位置し、秋田、宮城両県に隣接し、１市６町２村（一関市、花泉町、平泉町、大東町、藤沢町、千厩町、東山町、室根村、川崎村）で構成する。同地区は北上川中～下流域に所属し、面積は約1,319.6㎢で県土の約8.6％を占める。

当地区磐井郡の製鉄関連遺跡の分布は、北上川を境にその東側（東磐井郡、北上山地）に非常に多く、西側（西磐井郡）にはほとんど見当たらない。これらの遺跡の発掘調査は、ほとんど行われていないため、その時代や内容についてほとんど分かっていないが、文献等により、その多くは仙台藩の「炭屋」・製鉄の操業地跡と見られている。藤沢町大籠は、隣の宮城県本吉町馬籠とともにこの地方における「炭屋」・製鉄の始まりの地とされており、藤沢町、千厩町、大東町、室根村には多くの製鉄関連遺跡が分布する。これらの遺跡地では、鉄滓がほとんど露出した状態で堆積・散乱している所が少なくない。また、室根村では30ヶ所余りの砂鉄山（砂鉄生産地）も知られている。製鉄の原料は砂鉄であるが、その供給源は花崗岩であり、東磐井郡には前期白亜紀花崗岩類の大小の岩体が存在する。千厩町から大東町にかけて千厩岩体が、室根村に折壁岩体があり、また内野岩体、東稲岩体の小岩体もある。多くの製鉄関連遺跡はこれらの岩体におよそ重なるように分布している。

これまで、磐井郡では２ヶ所で製鉄遺跡の調査が行われた。ドウメキ沢製鉄遺跡（藤沢町大籠）の発掘調査は1980年に行われた。その結果、製鉄炉地下構造の本床（内面3.3×1.6m、深さ1.0m、楕円形）とそのすぐ北側に溝５列（排水施設）が確認された。出土遺物の磁器碗の破片と寛永通宝により、江戸時代後期と報告されている。また、寺沢遺跡（花泉町老松字寺沢）の発掘調査は1997年に行われた。その結果、製鉄炉地下構造の本床（2.7×2.6m、深さ0.5m以上、方形）と石組排水路、溝３列（石組排水路から施設外へ続く１列とその両側に２列）が確認された。出土遺物の陶器片と出土炭化材の^{14}C年代測定により、江戸時代中期と報告されている。

（６）気仙地区の概要

１　時期

気仙地区は本県南東部に位置し、太平洋に面する大船渡市、陸前高田市と内陸に位置する住田町の２市１町からなり、合計面積は890.18㎢で県土の約5.8％を占める。

気仙地区では、古代から中世にかけての製鉄関連遺跡の存在はまだ確認されていない。しかし、上閉伊地区で近年続々発見された古代の製鉄遺跡の存在を考慮すると、当地区にも中世以前に遡る時期に製鉄事業が存在した可能性は十分考えられる。また、陸前高田市高田町中和野にある貝畑貝塚の平安時代住居跡で、小鍛冶の痕跡と思われるものが確認されている。

今のところ、文献や伝承によって製鉄の存在がほぼ確実と思われるのは、江戸時代初期、17世紀前半からである。すなわち、寛永10（1633）年、幕府巡見使による大股（住田町世田米）での荒鉄吹方の視察の記録と、寛永から延宝年間（1624～1680）に中里（陸前高田市小友町）で藤原治平・治五平父子が製鉄を行ったという伝承と関連遺物の存在などが最古の例である。以後、盛衰はあったものの、江戸時代を通じ気仙地区の各地で製鉄事業が断続的に行われている。

17世紀前半、大股で始まった製鉄は、南に隣接する生出（陸前高田市矢作町）にも広まった。一方、大股・生出から離れている中里でも製鉄が行われたが、40年間操業しただけで後を絶った。17世紀後半、住田町西部の種山に当時の製鉄業先進地である馬籠（宮城県本吉郡本吉町）や大籠（岩手県東磐井郡藤沢町）などから多数の製鉄業先達が入って盛んに製鉄が行われ、生産量の急増と共に技術革新が進行し、地元への技術移転も進んだ。日頃市村（大船渡市日頃市町）ではこの時期に

製鉄業が最盛期を迎えている。さらに、飯森山（陸前高田市矢作町の南部）や小坪山（陸前高田市横田町）でも製鉄が始まった。

18世紀前半、砂鉄資源が枯渇した日頃市の生産が衰退し、生出が、隣接する種山と並び、気仙地区製鉄業の中心地として繁栄した。なお、世田米村（住田町世田米）の製鉄地は西部の種山から東の方へ広がり、嘉（加）労山、折壁、さらに下有住村（住田町下有住）金沢山でも製鉄が始まった。

18世紀後半、前期から栄えていた種山、生出地区で木炭原木の枯渇が進み、気仙全体の製鉄産業が一時衰退した。一方では、生出地区の南に隣接する黒森山、小黒山、宝鏡山などで製鉄が盛んになった。また、千歳（大船渡市三陸町吉浜）や毛無森山（大船渡市立根町）など、飛び地のような場所においてもごく短期間製鉄が行われた。なお、製鉄が主要産業となっていた矢作村では、仏像や梵鐘などの鋳造も盛んであった。19世紀前半、生出に仙台藩直営の宝勝山製鉄所や峠山精錬所、飯森に飯森山精錬所が設置されるとともに、生出から黒森山、宝鏡山、飯森山にかけて民間の製鉄が引き続き盛んに行われた。また、篠倉山（住田町世田米）、小松峠山（住田町上有住）などでも製鉄が行われた。19世紀後半は幕末から明治にいたる大変革期であるが、気仙地区の製鉄業にも大変動が起きている。従来の技法による製鉄が続く中、慶応元（1865）年、子飼沢（住田町世田米）に京津畑（東磐井郡大東町中川）から高炉が移築され操業を始めた。他に、実現はしなかったが、峠の沢（陸前高田市矢作町生出）に高炉建設計画があった。子飼沢高炉は移設後まもなく廃山となったが、翌年藩直営となり、さらに明治２（1869）年、古歌葉（江刺市米里）に移築。さらに、明治18（1885）年頃種山（住田町世田米）に移動した。この年、小牧倉（住田町世田米）に別の高炉が開業した。気仙の製鉄業は、小規模で断続的なたたら製鉄から、高炉による大規模で連続的な近代工業へと飛躍したのである。なお、栗木沢高炉は、大正７（1918）年に最盛期を迎えたが、大正11（1922）年、鉄価暴落を契機に休廃業に追い込まれた。

2　立地

気仙地区は、地形（水系）上大きく三分される。西側にはほぼ南流する気仙川があり、中央には南東流する盛川がある。東側には、北から南に並びいずれも東に開口する、吉浜湾、越喜来湾、綾里湾に西から流入する小河川がある。気仙川の流域は広く、地区全体の約６割を占める。残りの４割ほどの面積の半分位ずつを盛川と三陸地区の小河川の流域が占める。気仙川流域は、現在行政上、上流側約６割が住田町、下流側約４割が陸前高田市である。盛川流域と三陸地区の小河川の流域は大船渡市である。

気仙地区で現在確認されている60余ヶ所の製鉄関連遺跡の大部分は、気仙川流域にある。盛川流域には10余ヶ所、三陸地区にはわずかに２ヶ所だけである。気仙川流域では、下流側の陸前高田市に30余ヶ所余り、上流側の住田町に20余ヶ所弱と、面積比とは逆になっている。遺跡の分布状況を概観すると、地区の南西部（住田町の気仙川支流大股川流域と陸前高田市の気仙川支流矢作川流域）、北西部（住田町の気仙川支流新切川流域）、中心から東に寄った部分（盛川上流部）の３ヶ所に集中している。

遺跡の集中・偏在の要因として、木炭原木山林と鉄資源の２つがある。気仙地区は、豊かな山林に加え、かなり広範囲にわたって石灰岩と並び花崗岩層が分布しており、鉄資源にも恵まれている。だが、鉄資源（主として砂鉄）は、埋蔵量の多寡と輸送距離に加え、いわゆる公害問題の有無が利用の可否を決めた。気仙地区南西部の種山から原台山にかけて広がる奥深い山林一帯は、隣接する内野（東磐井郡大東町大原）の砂鉄資源と結びついて、気仙地区の製鉄業の中心地帯として、江戸

時代全般にわたって繁栄した。内野の砂鉄は風化花崗岩の残留砂鉄鉱床から採取されていたが、埋蔵量は厖大で、16世紀後半から19世紀後半まで、岩手県南部から宮城県北部にかけて供給され続けていた。盛川上流部は、元禄期に27ヶ所の鉄山が繁栄していたとされるが、ここでは現地の砂鉄に加え、三陸地区大窪山産の砂鉄を使用している。しかし砂鉄資源が枯渇したため18世紀に入ると衰退した。気仙川上流部（住田町下有住）の製鉄は、現地の荒川山産砂鉄を使用していたが、河川に濁水が流入するため江戸時代からしばしば紛争の種になっており、明治、大正期にも大騒動が起こっている。このほかに、小坪沢（陸前高田市横田町、17世紀末頃）と吉ヶ沢（同前、18世紀前半）の砂鉄も短期であったが利用された。また、大船渡市日頃市町坂本沢、住田町世田米合地沢、陸前高田市矢作町生出仏地野沢、陸前高田市矢作町飯森磯積沢では、鉄鉱石の使用の伝承や岩片が残されている。

砂鉄原料産地から製鉄炉までの距離についてみると、内野からは10km内外の範囲に種山(大股)から、生出、黒森、飯森などが入る。荒川山の場合は、５km圏内に下有住の製鉄炉がほぼ入る。大窪山では、10km少々の中に日頃市の製鉄炉群が収まる。

製鉄遺跡の多くは、河川の傍らに立地している。沢の合流点に多く見られるが、製鉄用水の確保と交通の便から当然の選択である。しかし、中には、山奥深すぎたり、沢から離れた、悪条件の場所を選んでいる例も数カ所ある。このような遺跡には密鉄、密銭の伝承を伴うことがある。

（７）上閉伊地区の概要

上閉伊地区は釜石市、遠野市、大槌町、宮守村の２市１町１村で構成され、総面積は1,467㎢で県土の約9.6％を占めている。この地区はほぼ中央に遠野･栗橋岩体、下閉伊方面から延びて海岸部を占める田野畑・宮古岩体、そして五葉山の岩体などと帯磁率の非常に高い北上山地の白亜紀花崗岩が露出していて、かつそれらは風化が進んだなだらかな山容を呈していることが多い。

岩手県内、特に南部の古代から近世までの製鉄産業は、主としてこの風化花崗岩帯のなかや、そこから流下して堆積した河川や海浜の砂鉄（マサ）堆積層をめぐっておこなわれてきたと考えられる。たとえば釜石市の和山高原から大槌町の新山高原にかけて、「七カ山」と呼ばれる規模の大きな製鉄遺跡が存在するとされ、それらの幾箇所かについては、いま確認・特定されつつある。

一方、釜石市の大橋・栗橋一帯にかけては、富溢な磁鉄鉱床が存在して、それはあるいは露頭となり、あるいは餅鉄（べえてつ）となって渓間に漂積した。これらいわゆる岩鉄についても、初めは旧式の製鉄炉（たたら）を用いて製錬しようとしたという。

以上のような、当地方に継続して培われてきた製鉄技術と、富裕な資源とが、やがて釜石における高炉製鉄の確立、いわば近代日本の産業基盤をなすことになったと理解されている。

県内の製鉄遺跡の発掘をともなった調査は、まず昭和27（1952）年に大槌町櫓沢遺跡でおこなわれていた。奥羽史料調査部（東北大学伊東信雄教授）によるもので、製鉄炉は三分の一ほどが遺存しており、祝部（須恵器）･土師器を伴って、奈良から平安初期頃のものであると、岩手日報紙には掲載されていた。(調査報告書は刊行されていない)。

次いでその３年後には、同町史談会が門脇沢遺跡を調査していた。

その後、夏本（1987大槌町）・沢田Ⅱ（2000釜石市）・川原（2002同）・室浜（2002、3同）など各遺跡調査において鉄生産関連遺構が相次いで検出されるなど、調査例は急速に増加しつつある。

一方、近世末から近代初頭にかけて、鉄鉱石を原料とし溶鉱炉（高炉）を用いるようになっていった、いわゆる近代製鉄業への転換期の遺跡群については、板橋源氏によって釜石市の橋野高炉跡(そ

の後国史跡に指定）が昭和31（1956）年に、栗林高炉跡（銭座跡）が同34年に調査され、遠野市の佐比内高炉跡は岡田広吉氏によって同57、58年に調査されている。

今回の調査では、沿岸部の釜石市・大槌町において、遺跡確認数の増加が顕著であった。この地域では、今後も各種調査のなかで、あるいは「開発」行為のなかでも、遺跡数はさらに増加していくことが確実と思われる。

他方遠野市については、旧調査資料がなかったわけではなく、それらに依拠しつつ相当なヒヤリング・踏査をおこなった。しかし規模の大きな「上の山」、中程度と思われる「張山」のほかには２～３箇所の遺跡を確認できたに過ぎなかった。この地域の鉄需要は、前記の「七カ山」や盛行する沿岸部の鉄生産・加工産業に、伝統的に依存してきたというのであろうか。今後の調査に期待したい。

宮守村については、鉄滓散布地（内楽木峠付近）のことが伝えられており、また大正７（1918）年の岩手製鉄株式会社創立のことなどもありながら、今回調査の及ばなかったことは、遺憾なことであった。

（８）下閉伊地区の概要

下閉伊地区は岩手県沿岸の中央部に位置し、北から田野畑村、岩泉町、田老町、宮古市、新里村、川井村、山田町の７市町村からなり、総面積が約2,400㎢にもおよび、岩手県全体の面積の約15％を占める。2005（平成17）年度１月末現在の下閉伊郡宮古地区における製鉄関連遺跡は548で、時代区分別の内訳は古代60・中世12・近世32・不明444であった。

立地は宮古花崗岩層と田野畑花崗岩層およびその辺縁に属す525遺跡が95.8％の高率を占め、さらに大浦花崗岩層の7遺跡、その他の地層に団塊状に分布する花崗岩の辺縁に立地する岩泉4遺跡・新里村の6遺跡を含めた花崗岩にかかわる遺跡総数は542遺跡に達している。田野畑花崗岩層とその辺縁岩泉帯に立地する24遺跡はすべてが文献資料のある近世鉄山（岩泉町15・田野畑村９）であり、宮古花崗岩層の時代区分がなされた78遺跡では、古代58（宮古市43・山田15）中世12（宮古市５・山田町６・岩泉町１）近世８（宮古市４・岩泉町４）と分散する。

時代区分については確認できない444遺跡があり、遺跡分布とその性格などの考察は更なる調査の進展を待たなければならない。

区分された僅少資料から見る下閉伊郡宮古地方の動向としては、南部宮古花崗岩層に立地して古代中世の産鉄が発達し、北部田野畑花崗岩層に江戸時代中期以降の近世大規模鉄山が発達したのではなかったかと、一応は考えられる。

（９）九戸・二戸地区の概要

岩手県北部に位置する九戸・二戸地区は２市４町５村（九戸地区：久慈市・種市町・大野村・山形村・野田村・普代村　　二戸地区：二戸市・一戸町・浄法寺町・軽米町・九戸村）で構成されている。両地区の面積は2,176.972㎢で県土の約14.2％を占めている。

製鉄関連遺跡は九戸地区及び軽米町に多く分布しており、軽米町教育委員会による分布調査（1996～2000年）において48ヶ所、田村栄一郎氏の調査（1986年）によると、種市町15・大野村41・山形村51・久慈市42・野田村７・普代村10の166ヶ所になっている。そして特に軽米町、山形村、大野村の境界付近に遺跡が集中している。これらの製鉄関連遺跡は製鉄遺跡と鍛冶遺跡、鋳物鍛冶遺跡と分けられるが、なかでも製鉄遺跡は他の遺跡に比べて規模が大きく、大量の鉄滓や炉壁

が残されている。

八戸藩政期に「大野六カ鉄山」として知られる玉川鉄山（軽米町）、葛巻鉄山（軽米町）、大谷鉄山（種市町）、水沢鉄山（大野村）、金取鉄山（山形村）、滝山鉄山（久慈市）は、八戸藩内鉄山経営の核であった大野村を中心とするこの地域に存在していた。

この地域は山林が広がり燃料となる木炭生産に適した場所であり、また洪積世の段丘砂鉄（山砂鉄）が豊富に埋蔵されている。また鉄山経営に関しては「砂鉄七里に木炭三里」と言われているとおり、基本的にこれら原料が確保できる場所に立地していることが分かる。

つぎに九戸・二戸地区製鉄関連遺跡の発掘調査状況であるが、二戸地区では、一戸町の大平遺跡（1994年）発掘調査で、平安時代の半地下式竪型炉が検出されている。

軽米町の近世たたら製鉄跡玉川鉄山（1985～1991年）と梅の木沢遺跡（2001～2003年）の発掘調査では、高殿、製鉄炉、排滓場、湯溜跡等が確認されている。
なお検出された製鉄炉は、木炭充填のみで小船に相当するものを持たない地下構造となっている。

また同町駒板遺跡の発掘調査（1982～1983年）では鋳銭場跡と炭窯28基が検出され、近世の密銭鋳造遺跡であったことが確認されている。

九戸地区では、久慈市の大芦Ⅰ遺跡の発掘調査（1997年）で近世の鍛冶炉が３基検出されており、また山形村の猪瀬鉄山の試掘調査（1990年）では、明治初期の水車フイゴを使用した製鉄炉が確認されている。

遺跡表凡例

12頁以下の表に記載された遺跡については、第１図で大体の位置を確認し、第２図以下で遺跡の位置（ドッドは地点を示し、範囲を表すものではない）を確認していただきたい。また、今回の調査で遺跡の位置や状況の詳細を確認できず、再度調査を必要とするものについては、第10表のとおりで、図中では番号丸囲いで区別している。なお、43～59頁に記載した遺跡の概要については以下のとおりである。

No.；今回調査を行った岩手県内製鉄関連遺跡の通し番号。第１～10表の番号と同じ。
遺跡名；岩手県遺跡基本台帳に登録されている遺跡名。遺跡名の次にある（　）内はよみがな。
遺跡コード；岩手県遺跡基本台帳に登録されているコード名。〔　〕内に記載。
遺跡位置；岩手県遺跡情報検索システムにおける位置情報。＜　＞内に記載。
別称；遺跡名としたもの以外の呼び方。
所在地；遺跡の所在する市町村字名地番等。市町村名は平成17年４月現在の名称によるものである。
図幅；国土地理院発行1/25000地形図番号。
標高；遺跡範囲における海抜高度。
立地・目印；河川、沢などを中心とした立地条件。目的地点までのルート・標識など。
時期；製鉄関連の遺構・遺物の時期。
残存状況；良好、一部破壊、壊滅に区分して記載。
遺構；過去の調査および今回の調査で確認された遺構を記載。
遺物；過去の調査および今回の調査で確認された遺物を記載。
文献；関連文献を、巻末の文献一覧表の番号で記載。
備考；他の欄に入れられなかったことで、特筆すべき事項を記載。

第１表　岩手県内製鉄遺跡一覧表（１）

NO	遺　跡　名	よ　み　が　な	県遺跡コード・位置コード（　）	所　　在　　地	新市町村名	現　　況	時　　代	遺　構・遺　物	新規、周知の区別
1	西嶽鉄山	にしだけてつざん	(JE68-0293)	二戸郡一戸町小繋下田子ぬかり沢	変更なし	原野、道路	近世	鉄滓	新規
2	浄法寺山内銭座（付近）	じょうぼうじさんないぜにざ	(JE44-1376)	二戸郡浄法寺町大清水湯沢	二戸市	原野、水田	近世	排滓場、鉄滓、羽口片、炉壁	新規
3	平庭鉄山	ひらにわてつざん	(JF74-1169)	岩手郡葛巻町江刈１地割　江刈川	変更なし	山林	近世	排滓場、整地面、鉄滓、炉壁	新規
4	レンタイ鉄山	れんたいてつざん	(JF94-0169)	岩手郡葛巻町押田内レンタイ	〃	荒地、原野	近世	鉄滓、炉跡	新規
5	雫石鋳銭場	しずくいしいせんば	(LE61-1374)	岩手郡雫石町南畑レン滝上流	〃	一部道路	近世	鋳銭場跡、排滓場	新規
6	荒木田山製鉄	あらきだやませいてつ	(JE94-1372)	岩手郡西根町寺田字荒木田	八幡平市	山林	不明	排滓場、炉壁、鉄滓	新規
8	白山	はくさん	LE99-2360	稗貫郡大迫町大迫字向山根	花巻市	山林	不明	鉄滓	周知
9	田瀬湖鍛冶炉	たせこかじろ	(MF50-1272)	和賀郡東和町向田瀬	〃	ダム、人造湖	不明	炉跡、排滓場、鉄滓、羽口	新規
11	八木畑	やぎはた	ME76-2003	北上市相去町字ロノ木27-1ほか	変更なし	一部新幹線	不明	鉄滓	周知
12	成沢	なりさわ	ME74-1329	北上市相去町字下成沢54-1ほか	〃	一部道路	平安	羽口、炉壁	周知
13	北上南部工業団地内	きたかみなんぶこうぎょうだんちない	ME75-1175 ME75-1278	北上市相去町字高前檀ほか	〃	工場	平安	椀形滓、坩堝、羽口、鉄滓	周知
14	成沢Ⅱ	なりさわⅡ	ME75-1013	北上市相去町字中成沢26-1	〃	住宅	平安	鉄床石	周知
15	西野	にしの	ME76-0096	北上市相去町字西野12ほか	〃	一部新幹線	不明	鉄滓	周知
16	比久尼沢	びくにさわ	ME75-1057	北上市相去町字比久尼沢	〃	農業倉庫	平安	鉄滓	周知
17	森下	もりした	ME45-0204	北上市飯豊町飯豊19地割	〃	住宅	平安	羽口、鉄滓、砥石	周知
18	上鬼柳Ⅲ	かみおにやなぎⅢ	ME65-2066	北上市鬼柳町字上鬼柳第2地割90番地ほか	〃	一部道路	平安	羽口、鉄滓	周知
19	猫谷地古墳群	ねこやちこふんぐん	ME65-0290	北上市上江釣子	〃	一部道路	7世紀	鉄滓	周知
20	牡丹畑	ぼたんばたけ	ME66-1222	北上市黒沢尻町字里分第7地割87-1ほか	〃	一部道路	平安	羽口	上川岸Ⅱ遺跡として過去に調査（周知）
21	煤孫	すすまご	ME63-2318	北上市煤孫5地割	〃	一部道路	不明	鉄滓	周知
22	岩崎台地遺跡群	いわさきだいちいせきぐん	ME65-2020	北上市和賀町岩崎第13地割29-1ほか	〃	一部道路	平安	羽口、椀形滓、鉄滓	周知
23	和賀仙人製鉄所	わがせんにんせいてつしょ	(ME51-2221)	北上市和賀町仙人2-14-1	〃	工場	近代(19～20C)	鉄滓、炉壁、耐火レンガ、レンガ	新規
24	力石・兎Ⅰ	ちからいしうさぎⅠ	NE07-2273	江刺市愛宕字兎	奥州市	一部新幹線	平安	鉄滓、羽口	周知
25	落合Ⅰ	おちあいⅠ	NE07-1292	江刺市愛宕字落合	〃	一部新幹線	不明	鉄滓、羽口	周知
26	宮地Ⅲ	みやじⅢ	NE07-1134	江刺市愛宕字観音堂沖	〃	住宅	不明	鉄滓	周知
27	宮地西	みやじにし	NE07-1104	江刺市愛宕字観音堂沖	〃	住宅	平安	鉄滓	周知
28	宮地	みやじ	NE07-1104	江刺市愛宕字観音堂沖66	〃	一部新幹線	平安	鉄滓	周知
29	未命名		(NE18-0031)	江刺市愛宕字田原石山	〃	水田	不明	鉱滓	新規
30	力石Ⅱ	ちからいしⅡ	NE07-1134	江刺市愛宕字力石	〃	一部新幹線	平安	鉄滓、羽口	周知
31	鴻ノ巣館	こうのすだて	NE17-0215	江刺市愛宕字力石地内	〃	一部新幹線	平安	鉄滓	周知
32	未命名		(NE17-1179)	江刺市愛宕字二子町夕暮	〃	水田	不明	鉱滓	新規
33	未命名		(NE17-0254)	江刺市愛宕字二子町金谷	〃	水田	不明	鉱滓	新規
34	広岡前	ひろおかまえ	ME96-0399	江刺市稲瀬字広岡前地内	〃	一部道路	不明	羽口、鉄滓、鍛造剥片	周知
35	岩谷堂城跡	いわやどうじょうあと	ME97-2281	江刺市岩谷堂字館下	〃	原野	中世・近世	坩堝	周知
36	反町	そりまち	NE16-1238	江刺市岩谷堂字反町	〃	農協施設	平安	鉄滓	周知
37	寺田	てらだ	NE07-1266	江刺市岩谷堂字寺田207	〃	水田	近世	甑、鋳型片、鉄滓、羽口	周知
38	松川下	まつかわした	NE17-0329	江刺市田原字松川下	〃	水田	平安	鉄滓	周知
39	古歌葉製鉄	こかようせいてつ	(MF91-2067)	江刺市米里字古歌葉	〃	山林	近世	炉壁、流出滓	新規
40	重王堂索道駅跡	じゅうおうどうさくどうえきあと	(NF01-0154)	江刺市米里字重王堂	〃	道路、水田	近代	軌道跡、鉄鉱石	新規
41	鍛冶屋敷跡	かじやしきあと	NE53-0359	胆沢郡衣川村大字上衣川字下大森43、45、171-2	〃	水田	近世	鉱滓	周知
42	田高Ⅱ	たこうⅡ	NE46-1375	胆沢郡前沢町白山字田高	〃	一部施設	近世	鉄滓	周知
43	水ノ口	みのくち	NE37-2033	胆沢郡前沢町白山字水ノ口57ほか	〃	水田	不明	羽口	周知
44	林前Ⅱ	はやしまえⅡ	NE27-2024	水沢市姉体町字林前地内	〃	宅地	不明	羽口、椀形滓、鍛冶滓	周知
45	膳性	ぜんしょう	NE06-1133	水沢市佐倉河字膳性地内	〃	一部道路	不明	鉄滓	周知
46	中半入	なかはんにゅう	NE15-0282	水沢市佐倉河字半入地内	〃	水田	不明	鉄滓、羽口	周知
47	伯済寺	はくさいじ	NE06-1294	水沢市佐倉河字薬師堂67、68、69	〃	宅地	平安	鉄塊、椀形鍛冶滓、鍛造剥片、粒状滓	周知
48	熊野堂	くまのどう	NE27-0048	水沢市真城字熊ノ堂47-2	〃	住宅	奈良	羽口	周知
49	林前南館	はやしまえみなみたて	NE27-2202	水沢市真城字向畑地内	〃	道路・住宅	平安	羽口	周知

第２表　岩手県内製鉄遺跡一覧表（２）

NO	遺　跡　名	よ　み　が　な	県遺跡コード・位置コード（　）	所　　在　　地	新市町村名	現　　況	時　　代	遺　構・遺　物	新規、周知の区別
50	杉の堂	すぎのどう	NE27-0100	水沢市神明町2-58-45ほか	奥州市	道路・住宅	不明	羽口、椀形滓	周知
51	鹿野	かの	NE17-1360	水沢市羽田町字御山下196	〃	一部道路	近世	溶解炉、羽口、鋳型	周知
52	未命名		(NE17-1285)	水沢市羽田町字田茂山麦屋	〃	水田	不明	鉱滓	新規
53	未命名		(NE17-1374)	水沢市羽田町字羽黒堂岩脇	〃	水田	不明	踏鞴	新規
54	未命名		(NE18-1013)	水沢市羽田町字羽黒堂松原	〃	水田	不明	鉱滓、鋳型	新規
55	天梅炯屋	てんばいどうや	ＮＦ82-2315	東磐井郡千厩町奥玉字川崎1-11	一関市	山林、原野	近世	高殿、排滓場、流出滓、炉壁	周知
56	萱刈場鍛冶場（鍛冶屋前遺跡）	かやかりばかじば	(NF82-2291)	東磐井郡千厩町奥玉字萱刈場100番地	〃	荒地	近世、近代	荒神祭祀跡、鍛冶滓	新規
57	小林ドウヤ	こばやしどうや	0F02-2280	東磐井郡千厩町小梨字小林	〃	道路、水田		鉄滓	周知
58	又ヶ沢ドウヤ	またがさわどうやあと	0F12-1118	東磐井郡千厩町小梨7区又ヶ沢	〃	山林、道路	近世	排滓場、精錬滓	周知
59	尖ノ森炯屋	とげのもりどうや	0F12-0148	東磐井郡千厩町小梨9区尖ノ森	〃	山林	近世	精錬滓	周知
60	大登炯屋	おおのぼりどうや	(0F02-1108)	東磐井郡千厩町小梨10区大登	〃	山林	近世	高殿、排滓場等、精錬滓	新規
61	折戸沢炯屋	おっとざわどうや	(NF91-2167)	東磐井郡千厩町千厩字上駒場折戸沢	〃	山林、荒地	近世	排滓場、整地面、祭祀跡、鉄滓	新規
62	関上製鉄	せきがみせいてつ	(NF80-2108)	東磐井郡千厩町磐清水22区関上	〃	水田、道路	近世	精錬滓	新規
63	岩脇炯屋	いわわきどうや	(NF52-1368)	東磐井郡大東町大原字岩脇	〃	住宅、水田	不明	鉄滓、炉壁	新規
64	橡沢山炯屋	とちさわやまどうや	(NF52-0319)	東磐井郡大東町大原字高森	〃	住宅、水田	不明	鉄滓、炉壁	新規
65	高森鍛冶	かたもりかじ	(NF43-2085)	東磐井郡大東町大原字高森89？	〃	草地		鍛冶場跡？	新規
66	当摩鍛冶	たいまかじ	(NF53-1174)	東磐井郡大東町大原字当摩60番地	〃	荒地、畑地	近世	鍛冶場跡、椀形滓、羽口片	新規
67	山口山炯屋Ⅰ	やまぐちやまどうやⅠ	(NF63-1098)	東磐井郡大東町大原字山口	〃	山林	不明	排滓場、平場、鉄滓、炉壁	新規
68	山口山炯屋Ⅱ	やまぐちやまどうやⅡ	(NF63-1085)	東磐井郡大東町大原字山口	〃	水田	不明	排滓場、鉄滓、羽口片	新規
69	霞沢炯屋	かすみさわどうや	(NF51-2065)	東磐井郡大東町霞沢	〃	山林	不明	排滓場、鉄滓	新規
70	関の沢炯屋	せきのさわどうや	(NF21-0397)	東磐井郡大東町中川字上ノ山	〃	山林	不明	排滓場、鉄滓、流出滓	新規
71	大林炯屋	おおばやしどうや	(NF52-0101)	東磐井郡大東町中川字清水	〃	住宅、水田	不明	炉跡、排滓場、鉄滓	新規
72	右名沢鍛冶場	うなざわかじば	(0F42-2128)	東磐井郡藤沢町大籠字右名沢	変更なし	住宅、畑地、沢	近世	鍛冶滓、精錬滓	新規
73	沢入炯屋Ⅰ	さわいりどうやⅠ	0F42-1222	東磐井郡藤沢町大籠字大籠	〃	山林	不明	排滓場、石組遺構、鉄滓	周知
74	沢入炯屋Ⅱ	さわいりどうやⅡ	(0F42-1211)	東磐井郡藤沢町大籠字沢の入（沢、川梨？）	〃	原野	近世	高殿、排滓場、石垣等、精錬滓	新規
75	大穴沢炯屋	おおあなさわどうや	(0F32-2276)	東磐井郡藤沢町大籠（大穴沢）	〃	一部道路	近世	排滓場、鉄滓、炉壁	新規
76	千松沢炯屋	せんまつさわどうや	(0F42-0363)	東磐井郡藤沢町大籠（千松沢）	〃	道路、水田	不明	排滓場、鉄滓、炉壁	新規
77	千松長崎炯屋	せんまつながさきどうや	(0F42-1327)	東磐井郡藤沢町大籠（長崎沢）	〃	荒地	近世	排滓場、高殿等、鉄滓、炉壁	新規
78	炯屋の沢炯屋	どうやのさわどうや	(0F42-2212)	東磐井郡藤沢町大籠字左利沢	〃	荒地、畑地	近世	精錬滓、羽口片、炉壁	新規
79	沢内炯屋	さわうちどうや	(0F31-2319)	東磐井郡藤沢町大籠字沢内	〃	道路、住宅	近世	排滓場、精錬滓	新規
80	クラスミ炯屋	くらすみどうや	(0F42-1211)	東磐井郡藤沢町大籠字沢の入	〃	山林	近世	精錬滓、炉壁	新規
81	天の穴炯屋	てんのあなどうや	(0F42-0084)	東磐井郡藤沢町大籠字天の穴	〃	道路、水田	近世	排滓場、精錬滓	新規
82	走沢砂鉄山	はしりざわさてつやま	(0F03-1138)	東磐井郡室根村	一関市	山林	近世	残礫が石塁状に残る	新規
83	板取砂鉄山	いたどりさてつやま	(0F03-0279)	東磐井郡室根村折壁字温坪走沢	〃			すがね堰跡	新規
84	笠松砂鉄山	かさまつさてつやま	(0F03-0179)	東磐井郡室根村折壁字笠松	〃			残石を寄せた石塁？	新規
85	田山砂鉄山	たやまさてつやま	(0F04-1036)	東磐井郡室根村折壁字笹森3	〃	原野、水田、草地	近世	緩い凹凸、水路跡？、残円礫	新規
86	荒田沢山炯屋	あらたさわやまどうや	(NF93-1314)	東磐井郡室根村折壁字新館前	〃	水田	近世	鉄滓	新規
87	室根山炯屋	むろねやまどうや	(NF83-1332)	東磐井郡室根村折壁字田茂木213	〃	荒地、原野、道路、住宅	近世	池？、炭窯、木炭置場？、砂鉄流跡、流動滓、炉壁	新規
88	天神下炯屋	てんじんしたどうや	(NF93-0042)	東磐井郡室根村折壁字天神下30番地	〃	山林、荒地		排滓場、整地面、多量の鉄滓	新規
89	葛ヶ森砂鉄山	くずがもりさてつやま	(0F04-1012)	東磐井郡室根村折壁字樋口	〃	住宅、水田	近世	巨円礫	新規
90	横欠製鉄	よこがけせいてつ	(0F04-0075)	東磐井郡室根村折壁字樋ノ沢	〃	山林	近世	排滓場、整地面、排滓	新規
91	中里砂鉄山	なかさとさてつやま	(0F03-1358)	東磐井郡室根村折壁字中里、笹森	〃	山林	近世	巨円礫	新規

第３表　岩手県内製鉄遺跡一覧表（３）

NO	遺　跡　名	よ　み　が　な	県遺跡コード・位置コード（　）	所　　在　　地	新市町村名	現　　況	時　　代	遺　構・遺　物	新規、周知の区別
92	浮野製鉄	うきのせいてつ	(0F12-2357)	東磐井郡室根村津谷川字浮野	一関市	山林、原野	近代	排滓場、整地層、鉄滓、炉壁	新規
93	荒谷沢炯屋	あらやさわどうや	(0F33-1059)	東磐井郡室根村津谷川字上千代ヶ原	〃	道路、住宅	近世	排滓場の一部、流出滓、炉壁	新規
94	千代ヶ原炯屋	ちよがはらどうや	(0F33-1069)	東磐井郡室根村津谷川字下千代ヶ原	〃	水田、畑地	近世	排滓場、鉄滓、炉壁	新規
95	中井沢炯屋	なかいざわどうや	(0F33-2018)	東磐井郡室根村津谷川字下千代ヶ原	〃	山林	近世	整地面、流出滓、炉壁	新規
96	喜木出炯屋Ⅰ	きぎでどうやⅠ	(0F22-0374)	東磐井郡室根村津谷川字竹野下	〃	荒地、水田	近世	排滓場、鉄滓、炉壁	新規
97	喜木出炯屋Ⅱ	きぎでどうやⅡ	(0F22-0385)	東磐井郡室根村津谷川字竹野下	〃	住宅、水田	近世	排滓場、鉄滓、炉壁	新規
98	糠沢炯屋Ⅰ	ぬかざわどうやⅠ	(0F32-0298)	東磐井郡室根村津谷川字糠沢	〃	原野	近世	排滓場、整地面？、鉄滓	新規
99	糠沢炯屋Ⅱ	ぬかざわどうやⅡ	(0F32-0338)	東磐井郡室根村津谷川字糠沢	〃	原野、住宅	近世	排滓場、鉄滓、炉壁	新規
100	後藤山炯屋	ごとうやまどうや	(0F32-1329)	東磐井郡室根村津谷川字平原（上千代ヶ原）	〃	原野	近世	排滓場、整地面、鉄滓、炉壁	新規
101	白堀炯屋	しらほりどうや	(0F02-1257)	東磐井郡室根村矢越馬場白堀	〃	水田	近世	流出滓、精錬滓	新規
102	後ノ入炯屋Ⅰ	のちのいりどうやⅠ	(NF39-2395)	大船渡市赤崎町字後ノ入85-3	変更なし	住宅	近世・不明	鉄滓	新規
103	後ノ入炯屋Ⅱ	のちのいりどうやⅡ	(NF39-2354)	大船渡市赤碕町字後ノ入	〃	山林、道路	近世	鉄滓	新規
104	千歳炯屋	せんざいどうや	(NG02-2384)	大船渡市三陸町吉浜字千歳	〃	山林	近世	平場、石垣、鉄滓	新規
105	平通炯屋	ひらかようどうや	(NF29-0158)	大船渡市立根町字萱中平通	〃	荒地、住宅、畑地	近世	火箸	新規
106	大森炯屋Ⅰ	おおもりどうやⅠ	(NF27-2288)	大船渡市日頃市町字大森	〃	一部水田、畑地、草地	近世	鉄滓	新規
107	大森炯屋Ⅱ	おおもりどうやⅡ	(NF27-2199)	大船渡市日頃市町字大森	〃	原野	近世	鉄滓	新規
110	赤坂峠炯屋	あかさかとうげどうや	(NF09-1176)	大船渡市日頃市町字上甲子赤坂峠	〃	山林	近世(18C)	鉄滓	新規
111	坂本炯屋（上坂本炯屋場）	さかもとどうや（かみさかもとどうやば）	(NF27-0216)	大船渡市日頃市町字上坂本48付近	〃	道路、住宅跡地、畑地	近世(17～18C)	鉄滓	新規
112	平山炯屋	ひらやまどうや	(MF28-1221)	大船渡市日頃市町字平山6-4	〃	原野、住宅、盛土地	近世？	鉄滓、フイゴ	新規
115	奥火の土炯屋	おくひのつちどうや	(MF94-0049)	気仙郡住田町奥火の土	〃	山林、牛舎跡	近世	鉄滓	新規
116	男瀧山炯屋	おたきやまどうや	(NF23-1007)	気仙郡住田町木地山篠倉沢	〃			鉄滓	新規
117	荒川砂鉄山	あらかわさてつやま	(MF85-1156)	気仙郡住田町下有住字奥新切	〃	山林	近世(20C)	選鉱用石組水路数条、造成地石垣、選別済砂鉄の推積	新規
118	横沢炯屋	よこさわどうや	(MF84-2219)	気仙郡住田町下有住字奥新切	〃	山林	近世	凹地、平場、溝、石積、鉄滓	新規
119	金沢山炯屋	かねざわやまどうや	(MF85-1072)	気仙郡住田町下有住字金沢山黒森口	〃	荒地、道路、水田	近世(18C)	鉄滓	新規
120	廻館炯屋	まだちどうや	(NF89-1140)	気仙郡住田町下有住字十文字	〃	水田	近世(20C)	鉄滓	新規
121	大鷹山炯屋	おおたかやまどうや	(NF24-0172)	気仙郡住田町世田米字折壁	〃	山林、水田	近世	鉱滓	新規
122	折壁沢炯屋	おりかべざわどうや	(NF24-0172)	気仙郡住田町世田米字折壁	〃	住宅、畑地	近世	鉄滓	新規
123	判官山炯屋	はんがんやまどうや	(NF24-0151)	気仙郡住田町世田米字折壁	〃	山林、荒地、旧水田	近世	鉄滓	新規
124	合地沢炯屋	かっちざわどうや	(NF25-2056)	気仙郡住田町世田米字合地沢	〃	荒地、道路	近世	鉄滓、餅鉄	新規
125	篠倉沢炯屋	しのくらざわどうや	NF 23-0134	気仙郡住田町世田米字木地山	〃	山林、道路	近世	鉄滓	周知
126	小牧倉製鉄所	おまきぐらせいてつしょ	NF 13-0092	気仙郡住田町世田米字木地山小牧沢	〃	山林	近世	炉底部が残存している	周知
128	子飼沢高炉跡	こかいざわこうろあと	NF13-0143	気仙郡住田町世田米字子飼沢	〃	住宅、水田、畜舎等	近世、近代	鉄滓、鉱滓	周知
129	嘉労山炯屋	かろうやまどうや	(MF94-2060)	気仙郡住田町世田米字畷畑	〃	山林	近世(18C)	平場、木炭	新規
130	巣金口炯屋	すがねぐちどうや	(MF94-1347)	気仙郡住田町火の土巣金口	〃	山林、荒地、道路	近世	鉄滓	新規
131	千野沢炯屋	せんのさわどうや	(NF22-1009)	気仙郡住田町中川	〃	原野	近世	排滓場、整地、流出滓	新規

第４表　岩手県内製鉄遺跡一覧表（４）

NO	遺　跡　名	よ　み　が　な	県遺跡コード・位置コード（　）	所　　在　　地	新市町村名	現　　況	時　　代	遺　構・遺　物	新規、周知の区別
132	中里炉屋	なかさとどうや	(NF78-2109)	陸前高田市小友町字中里	変更なし	山林	近世	鉄滓、羽口、金槌	新規
133	大祝鍛冶場	おおいわい	NF89-1140	陸前高田市広田町字大祝	〃	荒地、畑地	不明	羽口、鉄滓、炉壁？	周知
134	大陽鍛冶場	おおようかじば	(NF78-2149)	陸前高田市広田町字大陽	〃	荒地	不明	木炭片	新規
135	七度釜炉屋	しちどかまどうや	(NF65-1199)	陸前高田市矢作町字小黒山	〃	草地	近世	水路跡、鉄滓	新規
136	宝鏡精鋼場	ほうきょうせいこうじょう？	(NF64-2086)	陸前高田市矢作町字小黒山11	〃	道路、水田	近世(18～19C)	鉱滓	新規
137	磯積炉屋	いそずみどうや	(NF65-2178)	陸前高田市矢作町字飯森	〃	牧草地	近世(17C～)	採掘跡、鉄滓	新規
138	（大）飯森炉屋	（おお）いいもりどうや	(NF65-1192)	陸前高田市矢作町字飯森	〃	山林、荒地、道路	近世(17～19C)	鉄滓	新規
139	カタガネ鍛冶跡	かたがねかじあと	(NF65-2055)	陸前高田市矢作町字飯森	〃	山林、道路	近世	鉄滓	新規
140	すみより鍛冶場	すみよりかじば	(NF65-1230)	陸前高田市矢作町字飯森3-2	〃	住宅、水田、畑地	近世	鉄滓	新規
141	越猪沢炉屋Ⅰ	おっちょざわどうやⅠ	(NF34-1090)	陸前高田市矢作町字越猪沢	〃	山林	近世	削平地（数段）、池（凹地）？、鉄滓	新規
143	仏地野炉屋	ぶっちのどうや	(NF54-0233)	陸前高田市矢作町字木戸口仏地野沢	〃	道路、水田	近世	鉄滓	新規
144	鎌田炉屋	かまたどうや	(NF53-1352)	陸前高田市矢作町字坂下	〃	山林、道路	近世(17C？)	鉄滓	新規
145	米ノ木炉屋	こめのきどうや	(NF53-1382)	陸前高田市矢作町字坂下	〃	山林、道路、旧畑地	近世(17C？)	精錬滓	新規
146	坂下炉屋	さかしたどうや	(NF64-0231)	陸前高田市矢作町字坂下	〃	水田	不明	鉄滓、水路跡？	新規
147	釣切炉屋	つりきりどうや	(NF54-2054)	陸前高田市矢作町字坂下37-75	〃	山林、道路	不明	鉄滓	新規
148	高日向炉屋	たかひなたどうや	(NF53-2334)	陸前高田市矢作町字坂下57	〃	山林、住宅、畑地	不明	鉄池、水路跡、炭層、鉄滓	新規
150	三軒鍛冶屋	さんげんかじや	(NF54-2150)	陸前高田市矢作町字坂下57-8	〃	住宅、畑地	不明	鉄滓	新規
151	鍛冶屋敷跡	かじやしきあと	(NF44-0216)	陸前高田市矢作町字清水川	〃	水田	不明	炉壁、鉄滓	新規
152	久保木鍛冶跡	くぼきかじあと	(NF44-0201)	陸前高田市矢作町字清水川32	〃	住宅、水田	不明	鉄滓	新規
153	信内鍛冶場	のぶないかじば	(NF65-0166)	陸前高田市矢作町字信内	〃	水田	近世	鉄滓	新規
154	馬越鍛冶屋	まごしかじや	(NF55-1014)	陸前高田市矢作町字馬越24	〃	住宅	近世、近代		新規
155	峠の沢炉屋	とうげのさわどうや	(NF34-0275)	陸前高田市矢作町字的場	〃	山林、道路	近世(19C)	鉄滓	新規
156	的場炉屋	まとばどうや	(NF34-2126)	陸前高田市矢作町字的場	〃	山林、原野、道路、水田	近世(17C)	鉄滓	新規
157	金山橋鍛冶跡	かなやまばしかじあと	(NF34-1006)	陸前高田市矢作町字的場97	〃	山林、荒地、道路	近世	鉄滓	新規
158	宝生（勝）山炉屋	ほうしょうやまどうや	NF23-2329	陸前高田市矢作町字的場97	〃	山林、道路	近世(19C)	削平地（数段）、用水池？、鉄滓（大量）	新規
159	あしざ鍛冶跡	あしざかじあと	(NF34-2149)	陸前高田市矢作町字的場、あし沢	〃	道路、水田	近世	鉄滓	新規
160	山崎Ⅰ遺跡	やまざきかじやあと	NF65-0120	陸前高田市矢作町字山崎	〃	道路、水田	近世	鉄滓	周知
161	湯漬畑鍛冶跡	ゆづけばたけかじあと	(NF66-0030)	陸前高田市矢作町字湯漬畑	〃	荒地	不明	鉄滓	新規
163	吉が沢砂鉄山	よしがさわさてつやま	(NF36-2109)	陸前高田市横田町字南行	〃	山林、荒地、原野水田	不明	擂り鉢状地形、鉄滓	新規
164	佐野炉屋	さのどうや	(NF58-2056)	陸前高田市米崎町字佐野	〃	山林、水田	不明	鉄滓、石垣等	新規
165	未命名		(MG22-1196)	上閉伊郡大槌町大槌渋梨付近	〃	畑地	不明	鉄滓	新規
166	門脇沢	かどわきさわ	MG22-0152	上閉伊郡大槌町大槌6地割	〃	山林、杉植林	不明	鉄滓	周知
168	三十刈	さんじゅうかり	(MG22-2108)	上閉伊郡大槌町大槌9地割（小松野）	〃	畑地	不明	鉄滓	新規
169	渋梨の沢（仮称）	しぶなしのさわ	(MG22-1292)	上閉伊郡大槌町大槌10地割23（渋梨）	〃	山林、畑地	不明	鉄滓、羽口	新規
170	大カロ沢	おがくちさわ	(MG32-0208)	上閉伊郡大槌町大槌第11地割	〃	山林、草地	不明	鉄滓	新規
172	ただこえ	ただこえ	(MG22-2266)	上閉伊郡大槌町大槌第11地割	〃	山林、荒地	不明	鉄滓、羽口	新規
173	柾内	まさない	(MG22-2217)	上閉伊郡大槌町大槌第12地割	〃	住宅、畑地	不明	鉄滓	新規
174	向い口	むかいくち	(MG22-2229)	上閉伊郡大槌町大槌第12地割	〃	工場	不明	鉄滓、羽口	新規
175	源水	げんすい	(MG32-1338)	上閉伊郡大槌町大槌第14地割	〃	山林、荒地、原野	不明	鉄滓、炉壁	新規

第５表　岩手県内製鉄遺跡一覧表（５）

NO	遺　跡　名	よ　み　が　な	県遺跡コード・位置コード（　）	所　　在　　地	新市町村名	現　　況	時　　代	遺　構・遺　物	新規、周知の区別
176	曲沢	まかさわ	(MG32-1325)	上閉伊郡大槌町大槌第14地割	変更なし	山林、杉植林地	不明	鉄滓	新規
177	屋敷	やしき	(MG32-0380)	上閉伊郡大槌町大槌第14地割	〃	荒地、原野	不明	鉄滓、炉壁、羽口	新規
178	沢山	さわやま	MG33-0097	上閉伊郡大槌町大槌第24地割	〃	畑地	不明	鉄滓、羽口	周知
179	夏本	なつもと	MG33-1008	上閉伊郡大槌町大槌第24地割	〃	住宅、畑地	不明	鉄滓	周知
180	滝の沢（ワカバ沢）（オガクチの沢）	たきのさわ	ＬＦ99-0339	上閉伊郡大槌町金沢第9地割	〃	原野、道路、沢、棄場、小屋	不明	鉄滓	周知
181	カジヤ前（仮称）	かじやまえ	(MG10-0290)	上閉伊郡大槌町金沢第34地割48	〃	畑地	不明	鉄滓	新規
182	未命名		(MG34-1000)	上閉伊郡大槌町吉里吉里 吉里吉里中学校東側	〃	畑地	不明	鉄滓	新規
183	箱畑・箱カ沢	はこばたけ・はこがさわ	(MG23-2363)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第7地割	〃	山林、杉植林地	不明	鉄滓	新規
184	向山Ⅱ	むかいやまⅡ	(MG23-2238)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第8地割	〃	畑地	不明	鉄滓、土器片	新規
185	浪板	なみいた	(MG23-2301)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第11地割	〃	道路、住宅、畑地	不明	鉄滓	新規
186	カヂ沼の沢	かぢぬまのさわ	(MG23-0387)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割	〃	山林	不明	鉄滓	新規
187	きづア洞	きづあほら	(MG23-1306)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割	〃	山林	不明	鉄滓、炉壁	新規
188	四十八坂	しじゅうはっさか	(MG23-1334)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割	〃	山林	不明	鉄滓	新規
189	新田の上Ⅰ	しんでんのうえⅠ	(MG23-1332)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割	〃	山林	不明	鉄滓	新規
190	新田の上Ⅱ	しんでんのうえⅡ	(MG23-1322)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割	〃	山林	不明	鉄滓	新規
191	トコロ沢	ところさわ	(MG23-1315)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割	〃	山林、植林	不明	鉄滓	新規
192	未命名		(MG24-0060)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割	〃	山林	不明	鉄滓	新規
193	松磯Ⅱ	まついそⅡ	(MG23-1327)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第13地割	〃	山林、杉植林地	不明	鉄滓	新規
194	向館	むかいだて	MG34-0064	上閉伊郡大槌町吉里吉里第30地割	〃	山林	不明	鉄滓（炉内滓、流出滓）が周知の遺跡範囲より南側にも出土	周知
195	大畑	おおばたけ	(MG34-0066)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第32地割	〃	畑地	不明	鉄滓、土器片	新規
196	金ガ崎の浜	かねがさきのはま	(MG34-0110)	上閉伊郡大槌町吉里吉里第32地割	〃	山林		鉄滓（及び土器の小破片１点）	新規
197	ソードク	そーどく	(MG21-2388)	上閉伊郡大槌町小槌第15地割	〃	住宅、畑地	不明	鉄滓、羽口	新規
198	鬼打	おにうち	(MG22-2090)	上閉伊郡大槌町小槌第17地割曽根	〃	畑地	不明	鉄滓、炉壁、羽口、木炭、赤土	新規
199	山岸沢	やまぎしさわ	(MG32-0180)	上閉伊郡大槌町小槌第18地割	〃	山林	不明	鉄滓	新規
200	高清水	たかしず	(MG32-1224)	上閉伊郡大槌町小槌第21地割	〃		不明	鉄滓、陶器片	新規
201	白銀Ⅱ	しろがねⅡ	(MG11-2352)	上閉伊郡大槌町第3地割	〃	水田、山裾	不明	鉄滓、羽口	新規
202	カナシキボー	かなしきぼー	(MG22-1373)	上閉伊郡大槌町第12地割	〃	山林	不明	鉄滓	新規
203	沢山不動	さわやまふどう	(MG33-0028)	上閉伊郡大槌町第23地割	〃	山林	不明	鉄滓	新規
204	大梨製鉄	おおなしせいてつ	(MG31-2223)	釜石市栗林町第4地割沢田	〃	山林、荒地、原野、畑地？	不明	鉄滓	新規
205	初神１	はつがみ１	MF29-2144	釜石市橋野町第18地割	〃	荒地、原野	近世、不明	炉壁	周知
206	初神２	はつがみ２	MF29-2125	釜石市橋野町第18地割	〃	畜舎跡	近世	炉壁と鉄滓を確認	周知
207	初神３	はつがみ３	(MF29-0256)	釜石市橋野町	〃	山林、原野	近世	高殿、諸施設のある整地面、排滓場、流出滓、炉壁、鍛冶滓	新規
208	初神４	はつがみ４	(MF29-2117)	釜石市橋野町初神	〃	山林	近世	排滓場、高殿、諸施設、流出滓、炉壁（砕石入）	新規
209	弁天沢１	べんてんざわ１	(MG40-0220)	釜石市橋野町第42地割早栃	〃	荒地、住宅		鉄滓	新規
210	弁天沢２	べんてんざわ２	(MG40-0148)	釜石市橋野町第42地割早栃弁天沢	〃	山林、原野	近世	排滓場、高殿、諸施設、流出滓、炉壁（砕石混入）	新規
211	大蕨鉄山	おおわらびてつざん	(MF49-0386)	釜石市橋野町沢桧	〃	山林、原野	近代	石垣で区画された造成地、羽口、鉄滓	新規
212	横石鉄山	よこいしてつざん	(MF49-1342)	釜石市橋野町沢桧	〃	山林、原野、	近代	石垣で土留した整地面の造成跡	新規
213	未命名		(MF83-1027)	遠野市小友町23-41	〃	原野	不明	鉄滓	新規
215	岩崎	いわさき	(MF76-0246)	遠野市上郷細越17	〃	畑地	不明	鉄器	新規
216	毛氈	もうせん	(MF19-2158)	遠野市琴畑（山落場沢源頭）	〃	高原野菜大根畑	不明	木炭片	新規
217	山落場	やまおちば	(MF18-1340)	遠野市琴畑川上流	〃	旧放牧場	不明	鉄滓	新規

第６表　岩手県内製鉄遺跡一覧表（６）

NO	遺　跡　名	よ　み　が　な	県遺跡コード・位置コード（　）	所　　在　　地	新市町村名	現　　況	時　　代	遺　構・遺　物	新規、周知の区別
218	張山製鉄	はりやませいてつ	(MF25-0168)	遠野市附馬牛町張山4-1-2-13	変更なし	一部道路	近世？	鉄滓、羽口片	新規
219	張山	はりやま	(MF25-0177)	遠野市附馬牛町上附馬牛5地割	〃	山林、道路、水田	不明	鉄滓	新規
220	琴畑鉄山(長者屋敷鉄山)	ことはたてつざん	(MF18-1342)	遠野市土淵町琴畑牧場	〃	原野	不明	高殿？、排滓場、鉄滓、フイゴ、羽口	新規
221	上の山製鉄	うえのやませいてつ	(MF34-2388)	遠野市松崎町光興寺字上の山	〃	原野、牧草地	近世	高殿炯、鉄滓、炉壁	新規（横田城西側）
222	山蛍の里	やまほたるのさと	(MF34-2732)	遠野市松崎町光興寺8地割字新田	〃	山林	不明	鉄滓、炉壁	新規
223	釜津田館	かまつたたて	KF76-1088	下閉伊郡岩泉町	〃	畑地	不明	平場、鉄滓	周知
224	川崎Ⅲ	かわさきⅢ	KF76-2305	下閉伊郡岩泉町	〃	山林、原野、住宅、水田、畑地	不明	土坑、金堀場、鉄滓、鉄魂系遺物、金鉱石引き臼	周知
225	樺穴鉄山（松倉鉄山）	かばあなてつざん（まつくらてつざん）	(KF39-1353)	下閉伊郡岩泉町32地割地内新田	〃	荒地、道路	近世	未確認	新規
226	大鳥Ⅱ	おおとりⅡ	KF17-0064	下閉伊郡岩泉町安家折壁	〃	畑地	不明	鉄滓、羽口	周知
227	半城市製鉄	はんじょうし	(JF99-0248)	下閉伊郡岩泉町安家茂井（半城子）	〃	山林、原野	不明	排滓場、炉壁、流出滓、流動滓	新規
228	大畑	おおはた	LF77-0185	下閉伊郡川井村江繋7大畑	〃	道路、住宅、水田、畑地	不明	なし	周知
229	荒田	あらた	(LF88-1181)	下閉伊郡川井村小国6荒田	〃	荒地、住宅	近世、近代	フイゴ	新規
231	池名鉄山	いけなてつざん	(KG12-0248)	下閉伊郡田野畑村明戸375	〃	原野、住宅	近世	高殿、排滓場等、流出滓、炉壁、椀形鍛冶滓、羽口	新規
232	明戸鉄山	あけどてつざん	(KG12-1247)	下閉伊郡田野畑村明戸湯草沢	〃	山林	近世	高殿、排滓場等、流出滓、炉壁、椀形鍛冶滓	新規
233	板橋鉄山	いたばしてつざん	(KG22-2043)	下閉伊郡田野畑村板橋	〃	山林	近世	高殿、排滓場、工房建物等、流動滓、炉壁	新規
234	尾肝要鉄山	おかんようてつざん	(KG11-2276)	下閉伊郡田野畑村尾肝要39	〃	山林、原野、放牧地	不明	流動滓、大型碗形滓ほか	新規
235	万谷鉄山	まんやてつざん	(KG20-1217)	下閉伊郡田野畑村甲地蝦夷森	〃	山林	近世	高殿、排滓場、大鍛冶等、流出滓、炉壁、碗形滓、焼土、木炭	新規
236	田代製鉄	たしろせいてつ	(KG10-1378)	下閉伊郡田野畑村田代	〃	原野、神社参道	近世	高殿？、排滓場？、流出滓	新規
237	田代鉄山	たしろてつざん	(KG10-2290)	下閉伊郡田野畑村田代	〃	山林、原野	近世	高殿、排滓場等、流出滓、流動滓、碗形滓、炉壁	新規
238	田代山乃神製鉄	たしろやまのかみせいてつ	(KG10-2340)	下閉伊郡田野畑村田代	〃	荒地	近世	鉄滓	新規
239	田山鉄山	たやまてつざん	(KG41-0388)	下閉伊郡田野畑村田野畑目名	〃	山林、荒地、原野	近世	排滓場、高殿、鍛冶場、炉壁、流出滓、鍛冶滓	新規
240	目名鉄山	めなてつざん	(KG42-1065)	下閉伊郡田野畑村田野畑目名	〃	山林、牧草地	近世	排滓場、高殿等、炉壁、流出滓、鍛冶滓	新規
241	鉄山	てつざん	KG31-1391	下閉伊郡田野畑村七滝234	〃	山林、荒地、畑地	近世	高殿、排滓場、炉壁、流出滓、流動滓、鍛冶滓	周知
242	千丈・姫松間製鉄	せんじょう・ひめまつかんせいてつ	(KG21-1282)	下閉伊郡田野畑村沼袋	〃	山林、原野	近世	流出滓	新規
243	千丈（布掛）製鉄	せんじょう（ぬのかけ）せいてつ	(KG31-0122)	下閉伊郡田野畑村（千丈布掛）沼袋1の107	〃	荒地	近世	鉄滓	新規
244	熊沢鉄山	くまさわてつざん	(KG02-2094)	下閉伊郡田野畑村沼袋巣合	〃	山林、原野	近世	高殿等、炉壁、流出滓	新規
245	三沢鉄山	みさわてつざん	(KG30-0279)	下閉伊郡田野畑村沼袋三沢	〃	山林、原野、道路	近世	排滓場、高殿、平場、炉壁、流出滓、鍛冶滓	新規
246	古谷元鉄山	こやもとてつざん	(KG31-0091)	下閉伊郡田野畑村三沢屋元沢	〃	山林、原野	近世	高殿、排滓場、建物跡、工房、流出滓、炉壁、碗形滓	新規
247	室場製鉄	むろばせいてつ	KG31-2153	下閉伊郡田野畑村室場	〃	山林、原野	近世	排滓場、整地、流出滓、炉壁	周知
248	中室場鉄山	なかむろばてつざん	(KG31-1290)	下閉伊郡田野畑村室場5（中室場）	〃	道路、住宅	近世	高殿、排滓場等、流出滓、大形碗形滓、炉壁等	新規・中室場遺跡隣接地
249	館森	たてもり	KG92-2162	下閉伊郡田老町大字末前第1地割字七滝	宮古市	山林	不明	城館遺構（郭、帯郭）、なし	周知
250	末前保土場	すえまえほどば	(KG93-0190)	下閉伊郡田老町大字末前第6地割字末前	〃	山林	近世(18C)	高殿跡と思われる平場、鉄滓	新規
252	水沢Ⅰ	みずさわⅠ	KG74-0260	下閉伊郡田老町摂待第２地割水沢	〃	住宅、畑地	不明	鉄滓	周知
253	神田北	かんだきた	KG93-2331	下閉伊郡田老町第18地割字舘ヶ森	〃	山林、住宅、畑地、神社	不明	神社境内、鉄滓	周知
254	後ヶ沢	うしろがさわ	(LG30-0069)	下閉伊郡新里村刈屋15手打ヶ洞	〃	住宅、畑地	近世	堀場跡、鉄魂系遺物	新規
255	下刈屋A・B	しもかりやエービー	LG30-0091	下閉伊郡新里村刈屋15手打ヶ洞	〃	住宅、畑地	不明	鉄滓	周知

第７表　岩手県内製鉄遺跡一覧表（７）

NO	遺跡名	よみがな	県遺跡コード・位置コード（ ）	所在地	新市町村名	現況	時代	遺構・遺物	新規、周知の区別
256	水神頭	すいじんがしら	(LG30-0180)	下閉伊郡新里村刈屋15打手ヶ洞	宮古市	山林	不明	平場、鉄滓	新規
257	刈屋荒田	かりやあらだ	LF29-1128	下閉伊郡新里村刈屋荒田	〃	山林、道路、住宅、水田	不明	鉄滓	周知
258	北山芋沢	きたやまいもざわ	(LG20-1022)	下閉伊郡新里村刈屋北山	〃	山林、住宅、水田、畑地	不明	鉄滓、羽口、縄文土器	新規
259	刈屋中里	かりやなかさと	LF29-1137	下閉伊郡新里村刈屋中里	〃	道路、住宅、水田、畑地	不明	鉄滓	周知
260	刈屋中里Ⅱ	かりやなかさとⅡ	LF29-1116	下閉伊郡新里村刈屋中里	〃	道路、住宅、畑地、神社	不明	神社境内（平場）、鉄滓、縄文土器	周知
261	和井内平沢	わいないひらさわ	(LF19-2085)	下閉伊郡新里村和井内平沢	〃	荒地、住宅、水田、畑地	不明	カナホッパと呼ばれる堀込、鉄滓、縄文土器	新規
262	蝦夷森	えぞもり	JG91-1071	下閉伊郡普代村第26地割字北の股	変更なし	山林	不明		周知
263	オニガタ製鉄	おにがたせいてつ	(JG91-2024)	下閉伊郡普代村第27地割字茂市	〃	原野、牧草地	近世	高殿？、流出滓、炉壁	新規
266	萩牛滝の沢鉄山	はぎゅうたきのさわてつざん	(KG00-2345)	下閉伊郡普代村第30地割字萩牛	〃	山林、原野	近世	高殿、排滓場等、流出滓、炉壁、鍛冶滓	新規
267	割沢砂鉄堀場跡	わりさわさてつほりばあと	(KG01-2105)	下閉伊郡普代村第30地割字萩牛	〃	原野	近世	砂鉄採掘跡	新規
268	未命名		(KG01-2113)	下閉伊郡普代村第30地割字萩牛（割沢）	〃	山林	不明		新規
269	鳥居鉄山（取居製鉄）	とりいてつざん（とりいせいてつ）	(JG91-1399)	下閉伊郡普代村不行道鳥居第24地割	〃	荒地、原野	近世	鉄滓	新規
270	羽々の下Ⅰ	はばのしたⅠ	LG63-2133	下閉伊郡山田町石峠	〃	山林	不明	平場、鉄滓	周知
271	繋Ⅱ	つなぎⅡ	(LG64-2080)	下閉伊郡山田町豊間根1繋	〃	山林	不明	平場、鉄滓	新規
272	島田Ⅳ	しまだⅣ	(LG73-0331)	下閉伊郡山田町豊間根4島田	〃	住宅	不明	平場、鉄滓	新規
273	赤前辰沢	あかまえたつざわ	(LG54-1049)	宮古市赤前	〃	山林	不明	平場、鉄滓（鉄魂系遺物）、羽口	新規
274	箱石Ⅱ	はこいしⅡ	LG13-1175	宮古市崎山8石釜	〃	住宅、畑地	不明	羽口片	周知
275	箱石Ⅲ	はこいしⅢ	LG13-1194	宮古市崎山７雲南	〃	住宅、畑地	不明	平場、鉄滓	周知
276	臼杵Ⅳ	うすぎⅣ	LG12-1207	宮古市田代第4地割田端	〃	畑地	不明	平場、鉄滓	周知
277	馬場Ⅰ	ばんばⅠ	LG12-0119	宮古市田代第8地割君田角地	〃	水田、畑地	不明	鉄滓	周知
278	鍛冶ヶ沢	かじがさわ	LG02-2169	宮古市田代第15地割大渡	〃	山林、原野、住宅、水田、畑地	不明	平場	周知
279	吾妻Ⅰ	あづまⅠ	LG03-2034	宮古市田代第17地割吾妻	〃	住宅	不明	山麓の平場	周知
280	田代館	たしろたて	LG03-2039	宮古市田代第18地割舘	〃	山林	不明	中世城館の主郭、鉄滓	周知
281	佐羽根	さばね	LG03-1275	宮古市田代第20地割18	〃	道路、住宅、水田	不明	鉄滓	周知
282	払川上流	はらいがわじょうりゅう	(LG63-0111)	宮古市津軽石	〃	山林	不明	平場、鉄滓１片	新規
283	払川中流	はらいがわちゅうりゅう	(LG63-0116)	宮古市津軽石	〃	山林	不明	棚畑状平場、鉄滓	新規
284	藤畑	ふじばたけ	LG53-2346	宮古市津軽石第12地割藤畑	〃	原野、道路、住宅、畑地	不明	鉄滓、土師器	周知
285	扇野沢石峠	おおぎのさわいしとうげ	(LG63-1209)	宮古市津軽石第13地割大判川	〃	山林	不明	コークス状の鉱滓か？	新規
286	荷竹日影Ⅰ	にちくひかげⅠ	LG63-0272	宮古市津軽石第15地割荷竹日影	〃	山林	不明	鉄滓	周知
287	荷竹日影Ⅱ（荷竹鍛冶ヶ沢）	にちくひかげⅡ（にちくかじがさわ）	LG63-0280	宮古市津軽石第15地割荷竹日影	〃	山林	不明	木炭層、鉄滓（流動滓）、羽口、土器（須恵器か？）	周知
288	荷竹オミヤ沢	にちくおみやさわ	(LG63-0136)	宮古市津軽石第16地割荷竹日向	〃	山林	不明	鉄滓	新規
289	荷竹オミヤ沢Ⅰ	にちくおみやさわⅠ	(LG63-0145)	宮古市津軽石第16地割荷竹日向	〃	山林	不明	平場、鉄滓	新規
290	荷竹米山Ⅰ	にちくよねやまⅠ	LG63-0190	宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山	〃	山林	不明	住宅跡、炉跡、羽口？鉄滓？須恵器	周知
291	荷竹米山Ⅱ	にちくよねやまⅡ	LG63-0086	宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山	〃	山林	不明	平場、鉄滓	周知
292	荷竹米山Ⅴ	にちくよねやまⅤ	LG63-0054	宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山	〃	山林	不明	平場、鉄滓	周知
293	荷竹米山Ⅷ	にちくよねやまⅧ	(LG63-0093)	宮古市津軽石第16地割	〃	山林	不明	平場、鉄滓	新規
294	荷竹米山北尾根	にちくよねやまきたおね	(LG63-0018)	宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山	〃	山林	不明	鉄滓	新規
295	荷竹日向Ⅲ	にちくになたⅢ	LG63-0157	宮古市津軽石第16地割荷竹荷日	〃	山林	不明	平場、鉄滓	周知
296	荷竹日向Ⅴ	にちくひなたⅤ	LG63-0174	宮古市津軽石第16地割荷竹日向	〃	畑地	不明	鉄滓	周知
297	根井沢日影Ⅰ	ねいさわひかげⅠ	LG53-2148	宮古市津軽石根井沢日影	〃	山林	不明	平場、鉄滓（１片のみ）	周知

第８表　岩手県内製鉄遺跡一覧表（８）

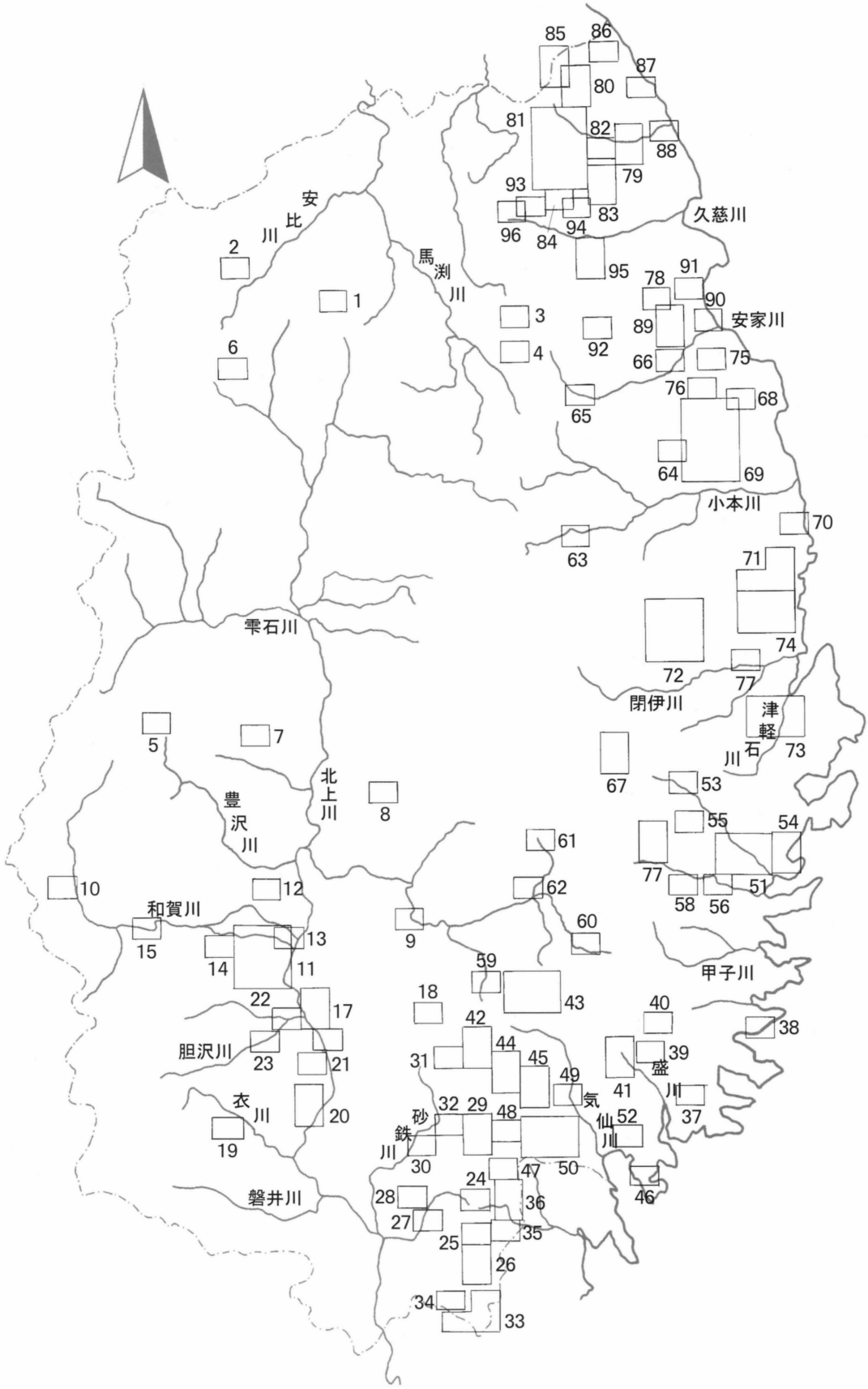
NO	遺　跡　名	よ　み　が　な	県遺跡コード・位置コード（　）	所　　在　　地	新市町村名	現　　況	時　　代	遺　構・遺　物	新規、周知の区別
298	払川Ⅲ	はらいがわⅢ	LG63-0200	宮古市津軽石払川	変更なし	山林	不明	平場、鉄滓	周知
299	根市寺沢Ⅰ	ねいちてらさわⅠ	LG32-1234	宮古市根市6寺沢	〃	住宅	不明	大森康男氏旧宅を含む柵状平場	周知
300	根市寺沢Ⅱ	ねいちてらさわⅡ	LG32-1235	宮古市根市6寺沢	〃	住宅	不明	台形状平場	周知
301	与藤沢	よとうさわ	(LG32-0276)	宮古市根市8与藤沢	〃	山林	不明	平場、鉄滓、羽口出土伝承	新規
303	根城館	ねじょうたて	LG32-2029	宮古市老木19根成	〃	山林	不明	中世城館、鉄滓	周知
304	大披鉄山	おおひらきてつざん	ＪＦ69-1039	久慈市宇部町小倉	〃	山林	近世	炉壁、流出滓	周知
305	ナメリ鉄山	なめりてつざん	(JF69-0256)	久慈市宇部町馬寄（ナメリダム上流）	〃	原野	不明	鉄滓	新規
306	柏木畑製鉄	かしわぎはたせいてつ	(IF96-0294)	九戸郡大野村	九戸郡洋野町	山林、荒地	不明	炉壁片、鉄滓（流動滓）	新規
308	阿子木鉄山	あこぎてつざん	(JF09-0055)	九戸郡大野村大字阿子木	〃	山林、原野	近世	排滓場、数基のマウンド状遺構、平場など、炉壁(砕石入)、流出滓	新規
309	大野川鉄山	おおのがわてつざん	(JF06-1245)	九戸郡大野村大字大野字大野川	〃	山林、荒地	近世	鉄滓	新規
310	菖蒲沢鉄山	しょうぶさわてつざん	(JF06-1325)	九戸郡大野村大字大野字菖蒲沢	〃	山林、原野	近世	高殿、排滓場、平場、流出滓、炉壁	新規
311	モロッポ沢	もろっぽさわ	(IF96-2234)	九戸郡大野村大字大野字横岸沢	〃	荒地、水田	不明	鉄滓	新規
312	横岸沢鉄山	よこぎしざわてつざん	(JF06-0354)	九戸郡大野村大字大野字横岸沢	〃	山林	近世	鉄滓	新規
313	横岸沢珪石採掘場跡	よこぎしさわけいせきさいくつばあと	(JF06-0364)	九戸郡大野村大字大野第1地割（土山沢）	〃	山林	近世	平場、珪石	新規
314	テレピン製鉄	てれぴんせいてつ	(IF96-2174)	九戸郡大野村大字大野第3地割（源田？）	〃	山林、原野	近世	平場、流動滓、炉壁	新規
315	治兵衛鉄山	じへいてつざん	(IF96-1047)	九戸郡大野村大字大野第10地割（内沢）	〃	山林、道路	近世	平場、鉄滓、炉壁	新規
317	蛇石山砂鉄採掘跡	じゃいしやまさてつさいくつあと	(IF76-1358)	九戸郡大野村大字大野第26地割（蛇石山事業区）	〃	山林	近世	砂鉄採掘跡	新規
318	菅范製鉄	すげやちせいてつ	(IF88-2210)	九戸郡大野村大字大野第53地割	〃	山林、原野	近世	高殿、排滓場、炉壁、流動滓	新規
319	青笹鉄山	あおささてつざん	(ＩＦ97-1324)	九戸郡大野村大字大野第56地割上間沢	〃	畑地、牧草	近世	鉄滓	新規
320	高森鉄山	たかもりてつざん	(JF07-0142)	九戸郡大野村大字大野第57地割	〃	山林	近世	高殿、排滓場等、炉壁、流出滓	新規
321	金ヶ沢鉄山	かねがさわてつざん	(IF97-2138)	九戸郡大野村大字大野第58地割	〃	工場	近世	鉄滓	新規
322	上の山鉄山	かみのやまてつざん	(IF17-0228)	九戸郡大野村大字水沢字下水沢	〃	山林	不明	平場、鉄滓、炉壁	新規
323	そでの沢鉄山	そでのさわてつざん	(JF17-0203)	九戸郡大野村大字水沢字下水沢	〃	山林、荒地	不明	平場、鉄滓	新規
324	唐松沢製鉄	からまつさわせいてつ	(JF16-0342)	九戸郡大野村大字水沢第1地割小芽生	〃	山林、原野	近世	高殿、排滓場等、流出滓、炉壁	新規
325	天ヶ沢製鉄	あまがさわせいてつ	(JF16-1314)	九戸郡大野村大字水沢第2地割生平	〃	原野	近世	排滓場、炉壁、流出滓	新規
326	ドウヤのサワ製鉄	どうやのさわせいてつ	(JF17-0075)	九戸郡大野村大字水沢第2地割生平	〃	水田	近世	排滓場、炉壁、流動滓、流出滓	新規
327	カナヤマサワ製鉄	かなやまさわせいてつ	(JF17-0067)	九戸郡大野村大字水沢第3地割上水沢	〃	畑地、池	近世	炉壁、流出滓、鍛冶滓	新規
328	下水沢Ⅰ	しもみずさわⅠ	ＪＦ07-2288	九戸郡大野村大字水沢第8地割字水沢	〃	畑地	不明	鉄滓	周知
329	水沢鉄山	みずさわてつざん	(JF02-0228)	九戸郡大野村大字水沢第9地割（下水沢）	〃	山林	近世	高殿、炉壁、製鉄滓	新規
330	未命名		(JF17-0305)	九戸郡大野村大字水沢第10地割	〃	畑地	不明	鉄滓	新規
331	金間部鉄山（金間部Ⅱ）	かなまぶてつざん	JF17-0297	九戸郡大野村大字水沢第10地割（金間部）	〃	山林、原野	近世	高殿、排滓場、平場、製鉄滓、鍛冶滓、炉壁	周知
332	金間部Ⅰ	かなまぶⅠ	JF17-0296	九戸郡大野村大字水沢第10地割字金間部	〃	山林、畑地、草地	近世	鉄滓	周知
333	太田採石場？	おおたさいせきば？	(JF17-2261)	九戸郡大野村大字水沢第12地割太田	〃	原野	近世	珪石置場、珪石の砕石	新規
334	切明鉄山（東）	きりあけてつざん（東）	(JF16-1169)	九戸郡大野村大字水沢第15地割切明	〃	山林、原野	近世	平場、排滓場、炉壁、排滓	新規
335	切明鉄山(西)	きりあけてつざん（西）	(JF16-1175)	九戸郡大野村大字水沢第15地割切明	〃	荒地、住宅	近世	鉄滓	新規
336	天麻の沢鉄山	てんまのさわてつざん	(JF07-0004)	九戸郡大野村金ヶ沢	〃	山林	不明	平場、吹子羽口片、炉壁、鉄滓	新規
337	上川津内鉄山	かみかわつないてつざん	(IF76-2353)	九戸郡大野村川津内	〃	山林、水田	不明	鉄滓、炉壁	新規
338	コダテノ製鉄	こだてのせいてつ	(IF96-0230)	九戸郡大野村第13地割（柏木畑）	〃	山林、荒地	近世、近代	炉壁	新規
339	新田製鉄	しんでんせいてつ	(IF86-2265)	九戸郡大野村第14地割31（新田）	〃	畑地	近世、近代	製鉄滓（流動滓）	新規
341	タンナ沢製鉄	たんなさわせいてつ	(IF86-2193)	九戸郡大野村第15地割（一本松）	〃	荒地	近世	製鉄滓（流出滓）	新規
342	内野鉄山	うちのてつざん	(IF86-2026)	九戸郡大野村第16地割（内野）	〃	山林、原野	近世	流出滓	新規

第９表　岩手県内製鉄遺跡一覧表（９）

N0	遺　跡　名	よ　み　が　な	県遺跡コード・位置コード（　）	所　　在　　地	新市町村名	現　　況	時　　代	遺　構・遺　物	新規、周知の区別
344	附柳製鉄	つけやなぎせいてつ	（IF76-2120）	九戸郡大野村第21地割（附柳）	九戸郡洋野町	水田	近世	鉄滓	新規
345	森外製鉄	もりそとせいてつ	（IF76-1193）	九戸郡大野村第21地割（森外）	〃	山林、畑地	近世	鍛冶滓、流動滓	新規
346	赤石沢	あかいしさわ	JF05-0315	九戸郡軽米町大字小軽米字市野々	変更なし	原野	近世	鉄滓	周知
347	葛柄鉄山	くずがらてつざん	JF06-2101	九戸郡軽米町大字小軽米字市野々	〃	畑地、牧草	近世	鉄滓	周知
348	大中の沢	おおなかのさわ	JF05-1353	九戸郡軽米町大字小軽米字玉川向	〃	山林	近世	鉄滓	周知
349	西中の沢	にしなかのさわ	JF05-0269	九戸郡軽米町大字小軽米字玉川向	〃	山林	近世	鉄滓	周知
350	玉川鉄山Ａ	たまかわてつざんＡ	IF95-1384	九戸郡軽米町大字小軽米字屋敷	〃	山林	近世	高殿、鉄滓、古銭、陶磁器等	周知
351	玉川鉄山Ｂ	たまかわてつざんＢ	IF95-2325	九戸郡軽米町大字小軽米字屋敷	〃	山林	近世	高殿、鉄滓、古銭、陶磁器等	周知
352	ハタラの沢	はたらのさわ	IF95-0399	九戸郡軽米町大字小軽米字屋敷	〃	山林、原野	近世	鉄滓	周知
353	市野々沢製鉄	いちののさわせいてつ	JF06-0107	九戸郡軽米町小玉川	〃	原野、道路	近世	排滓場、平場、炉壁、流動滓	周知
354	荒巻鉄山	あらまきてつざん	（IF56-0253）	九戸郡種市町荒巻	九戸郡洋野町	山林、畑地	不明	鉄滓	新規
355	荒屋敷地区採掘坑	あらやしきちくさいくつこう	（IF57-0344）	九戸郡種市町荒屋敷	〃	山林	近代？	採掘跡	新規
356	芦毛渡鉄山	あしげわたりてつざん	IF99-1153	九戸郡種市町大字中野	〃	山林、荒地、原野	近世	平場、炉壁、流出滓	周知
357	大谷鉄山	おおやてつざん	IF67-2146	九戸郡種市町大谷	〃	荒地、住宅、畑地	近世	鉄滓	周知
358	濁川鉄山	にごりかわてつざん	IF77-1027	九戸郡種市町大谷	〃	原野	近世	鉄滓	周知
359	板どうや鉄山	いたどうやてつざん	（IF66-0045）	九戸郡種市町大沢	〃	山林	不明	鉄滓、鉄塊系遺物	新規
360	小田の沢鉄山	こだのさわてつざん	（IF79-0136）	九戸郡種市町大浜	〃	畑地	不明	平場？、椀形滓、鉄滓等	新規
361	丹内鉄山	たんないてつざん	（IF69-2025）	九戸郡種市町上岡谷	〃	山林	不明		新規
362	石羽沢鉄山	いしはねざわてつざん	（IG80-2051）	九戸郡種市町中野石羽沢	〃	畑地	不明	鉄滓	新規
363	玉川端鉄山	たまがわばたてつざん	（JG80-0175）	九戸郡野田村大字玉川	変更なし	荒地、原野	近世	炉壁、鍛冶滓、流出滓	新規
365	明内製鉄	みょうないせいてつ	（JG60-0205）	九戸郡野田村大字野田22-50-2	〃	荒れ地	不明	鉄滓	新規
366	大葛鉄山	おくぞうてつざん	（JF69-1283）	九戸郡野田村大葛	〃	山林	近世	高殿、排滓場、鍛冶場、炉壁、鉄滓	新規
367	種綿鍛冶工房跡？	たねわたかじこうぼうあと？	（JF69-2339）	九戸郡野田村種綿2-26 ？	〃	畑地	不明	鍛冶滓	新規
368	上日形井鉄山	かみひがたいてつざん	（JG70-2013）	九戸郡野田村日形井	〃	山林、原野	近世	高殿、整地跡、排滓場、製鉄滓、炉壁	新規
369	下日形井鉄山？	しもひがたいてつざん？	（JG70-1029）	九戸郡野田村日形井6	〃	住宅、畑地	不明	流出滓、鍛冶滓	新規
370	未命名		ＪＦ64-2288	九戸郡山形村霜畑	久慈市	山林	不明	焼土遺構１基（時期・遺跡の性格は不明）	新規
371	内間木銭吹場	うちまぎぜにふきば	（JF77-2240）	九戸郡山形村大字小国内間木	〃	山林	近世	鉄滓	新規
372	蛇ヶ沢鉄山	へびがさわてつざん	JF15-2190	九戸郡山形村大字戸呂町第１地割	〃	畑地、牧草	近世	鉄滓	周知
373	スゴロ沢鉄山	すごろさわてつざん	JF25-0223	九戸郡山形村大字戸呂町第2地割	〃	山林	近世	鉄滓	周知
374	金取鉄山	かねとりてつざん	JF25-1321	九戸郡山形村大字戸呂町第4地割	〃	山林、水田	近世	鉄滓	周知
375	間刈沢鍛冶跡	まかんざわかじあと	JF25-1278	九戸郡山形村大字戸呂町第７地割	〃	畑地、牧草	近世	鉄滓	周知
376	小国沢鉄山	おぐにさわてつざん	JF16-2131	九戸郡山形村大字戸呂町第8地割	〃	山林、水田、荒廃地	近世	鉄滓	周知
377	戸呂町繋Ⅰ鉄山	へのまちつなぎⅠてつざん	JF27-0064	九戸村山形村大字戸呂町第9地割	〃	牧草地	近世	鉄滓	周知
378	戸呂町繋Ⅱ鉄山	へろまちつなぎⅡてつざん	JF27-0098	九戸郡山形村大字戸呂町第9地割	〃	山林	近世	鉄滓	周知
379	矢の沢鉄山	やのさわてつざん	JF26-1258	九戸郡山形村大字戸呂町第10地割	〃	山林	近世	鉄滓	周知
380	木沢畑鉄山	きさわはたてつざん	JF56-0377	九戸郡山形村大字繋第3地割	〃	山林	近世	鉄滓	周知
381	繋鉄山	つなぎてつざん	JF57-0100	九戸郡山形村大字繋第3地割	〃	山林	近世	鉄滓、フイゴ羽口等	周知
382	繋鉄山Ⅱ製鉄	つなぎてつざんⅡせいてつ	JF57-0047	九戸郡山形村大字繋第3地割	〃	山林	近世	鉄滓	周知
383	木沢畑向製鉄	きさわはたむかいせいてつ	JF56-0329	九戸郡山形村大字繋第5地割4-9-1	〃	住宅	近世	鉄滓	周知
384	茅守鉄山	かやもりてつざん	JF47-0113	九戸郡山形村大字繋第10地割6	〃	住宅	近世	鉄滓	周知
385	ドウヤカワラ製鉄	どうやかわらせいてつ	JF47-2206	九戸村山形村大字繋第22地割	〃	山林、住宅	近世	鉄滓	周知
386	大畑鉄山	おおはたてつざん	JF24-2230	九戸郡山形村大字日野沢字大畑第17地割	〃	山林、道路	近世	平場、排滓場、炉壁、流動滓	周知

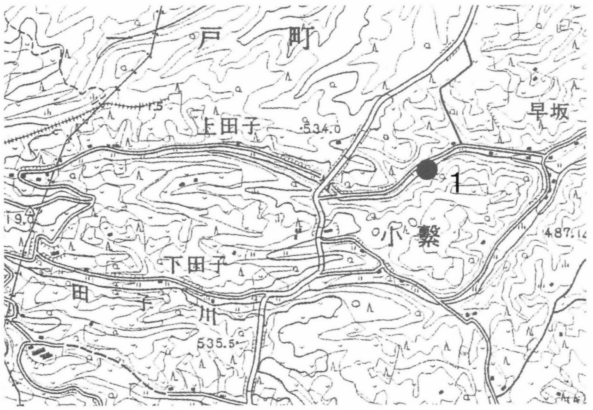
第10表　岩手県内製鉄遺跡一覧表（10）

NO	遺跡名	よみがな	県遺跡コード・位置コード（ ）	所在地	新市町村名	現況	時代	備考
7	新山神社鍛冶場	にいやまじんじゃかじば	(LE75-0260)	紫波郡紫波町土館和山2-4	変更なし	原野、道路	近世	伝承による
10	鍵沢江せん場	かぎさわえせんば	(MD48-0150)	和賀郡湯田町下左草79地割火石長根	和賀郡西和賀町	山林、荒地、原野	近世(19C)	文献資料
108	山梨沢焭屋	やまなしざわどうや	(NF28-2017)	大船渡市日頃市町字上板用	変更なし	山林、道路	不明	〃
109	上甲子焭屋	かみかっしどうや	(NF09-2090)	大船渡市日頃市町字上甲子18	〃	一部ダム	不明	〃
113	瀧の上焭屋Ⅰ	たきのうえどうやⅠ	(MF84-2257)	気仙郡住田町下有住字奥新切瀧の上	〃	山林	近世	〃
114	滝の上焭屋Ⅱ	たきのうえどうやⅡ	(MF84-2353)	気仙郡住田町下有住字奥新切	〃	山林	近世	〃
127	金山沢焭屋	かねやまざわどうや	(NF23-0115)	気仙郡住田町世田米字木地山篠倉山	〃	山林、道路	近世	〃
142	越猪沢焭屋Ⅱ	おっちょざわどうやⅡ	(NF33-1244)	陸前高田市矢作町字的場	〃	山林？	不明	〃
149	喜太郎焭屋	きたろうどうや	(NF54-2040)	陸前高田市矢作町字坂下57-8	〃	山林、道路	不明	〃
162	小坪沢御鍛冶場	おつぼさわおんかじば	(NF35-2267)	陸前高田市横田町字小坪沢	〃	山林、原野、道路	近世(17、19C)	〃
167	宮沢	みやざわ	(MG22-0027)	上閉伊郡大槌町大槌6地割	〃	山林	不明	伝承による
171	鞍の沢	くらのさわ	(MG32-0248)	上閉伊郡大槌町大槌第11地割	〃	山林、住宅	不明	〃
214	堂場	どうば	(MF93-0107)	遠野市小友町27地割	〃	道路、水田、畑地	不明	文献資料
230	小黒	こぐろ	(LF87-1243)	下閉伊郡川井村小国13小黒	〃	山林	不明	伝承による
251	猪子鉄山	ししこてつざん	(KG83-2231)	下閉伊郡田老町大字未前第8地割字鈴子沢	宮古市	原野	近世(19C)	文献資料
264	茂市鉄山	もいちてつざん	(JG91-2014)	下閉伊郡普代村第27地割字茂市	変更なし			伝承による
265	カコイ製鉄遺跡（萩牛鉄山）	かこいせいてつ	(KG01-2051)	下閉伊郡普代村第30地割字萩牛	〃		近世	〃
302	雲南沢加倉	うんなんさわかくら	(LG32-1205)	宮古市根市雲南沢	〃	山林	不明	〃
307	ドウヤシロ製鉄	どうやしろせいてつ	(IF96-0232)	九戸郡大野村	九戸郡洋野町	水田	不明	〃
316	カジシロ	かじしろ	(IF96-0286)	九戸郡大野村大字大野第11地割（柏木畑）	〃	畑地	不明	〃
340	カナクソ沢製鉄	かなくそさわせいてつ	(IF86-2162)	九戸郡大野村第15地割（一本松）	〃	水田	近世	〃
343	上万谷鉄山	かみまんやてつざん	(IF85-0395)	九戸郡大野村第17地割（万谷）	〃	山林	近世	文献資料
364	銭神製鉄	ぜにがみせいてつ	(JG71-1294)	九戸郡野田村大字玉川2-63-15	変更なし	原野	近世	〃

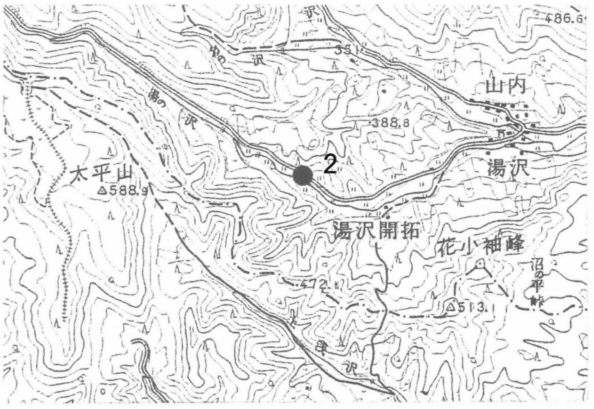


第１図　　岩手県内製鉄遺跡分布図

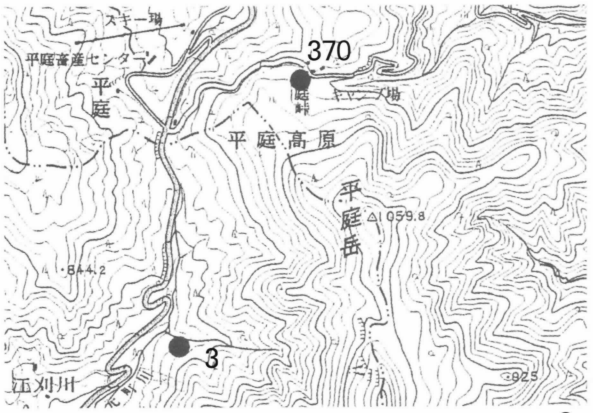
（番号は第２図～第21図に対応）



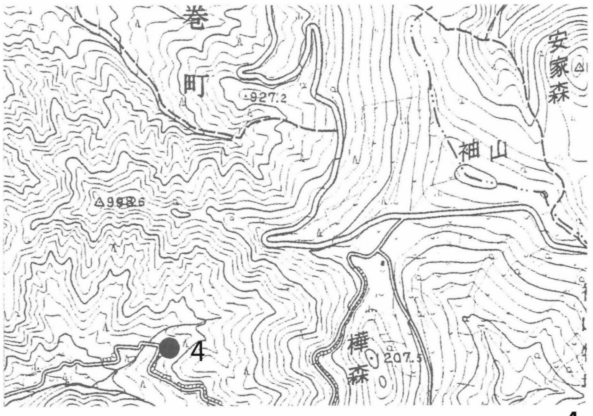
1



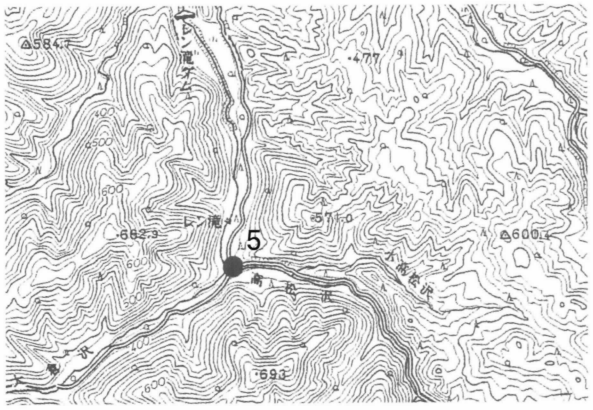
2



3



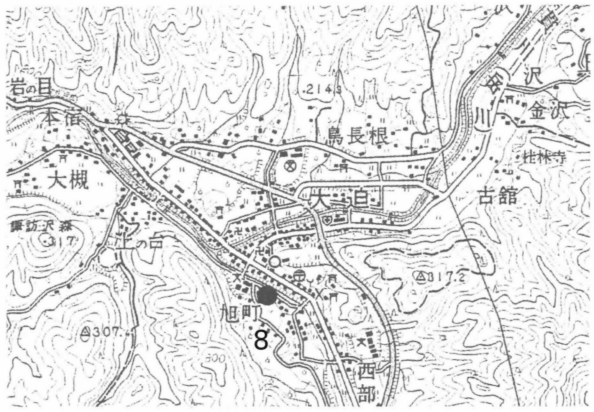
4



5

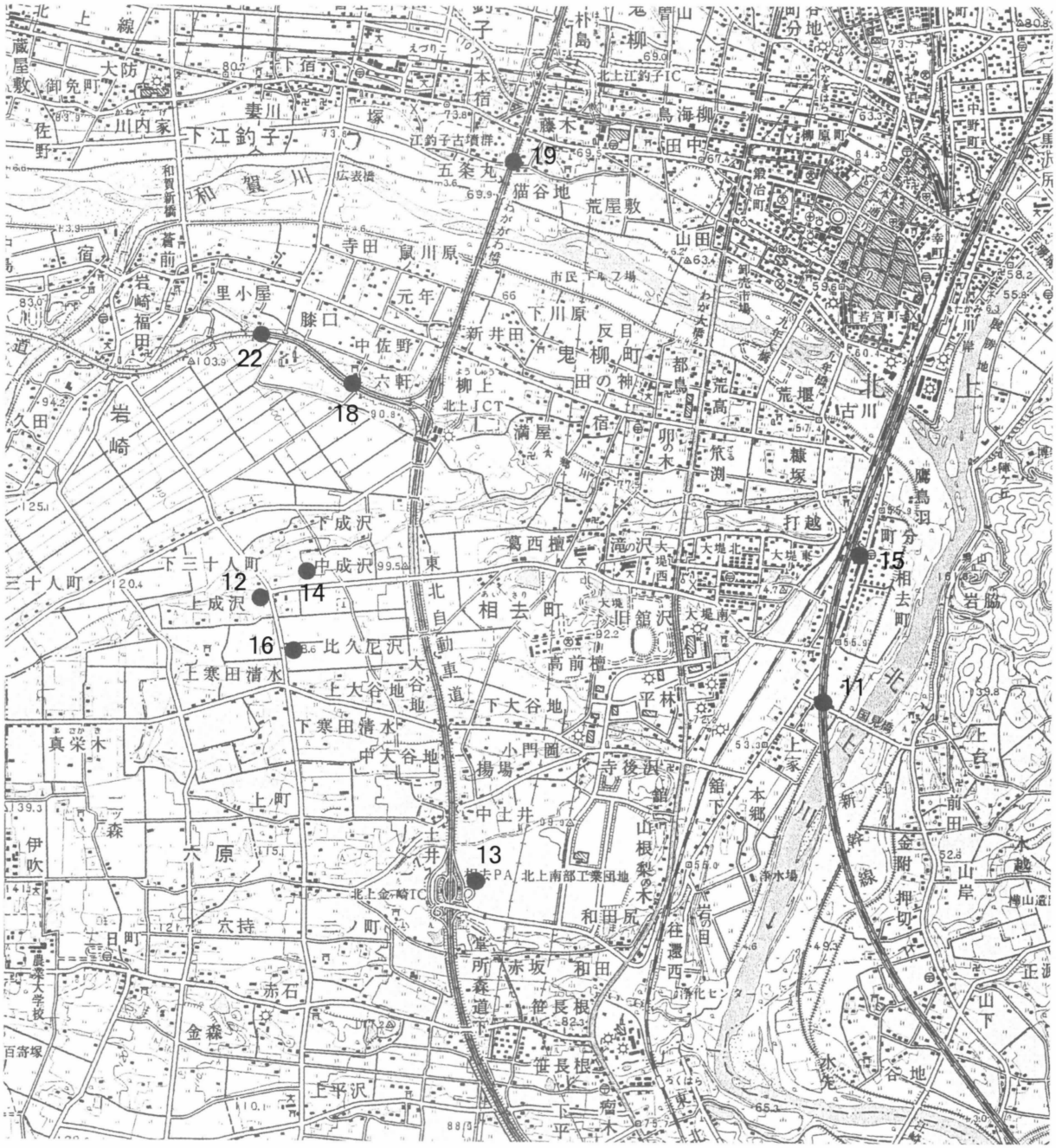
6

7

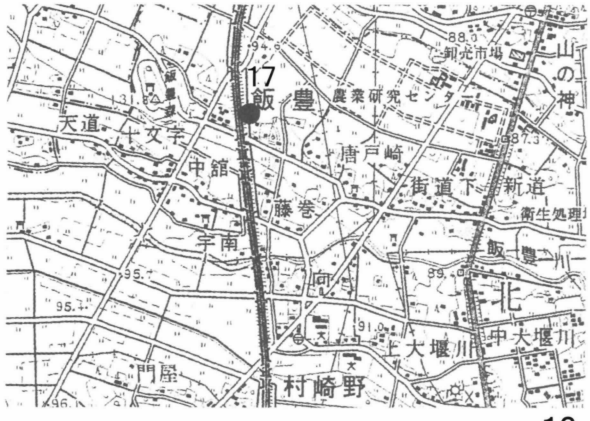


8

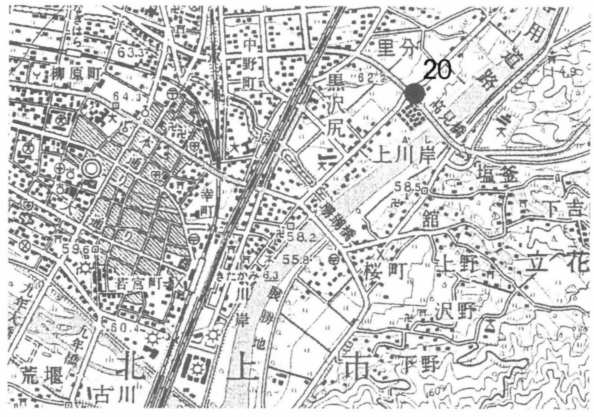
第２図　　岩手県内製鉄遺跡位置図１



第３図　　岩手県内製鉄遺跡位置図２

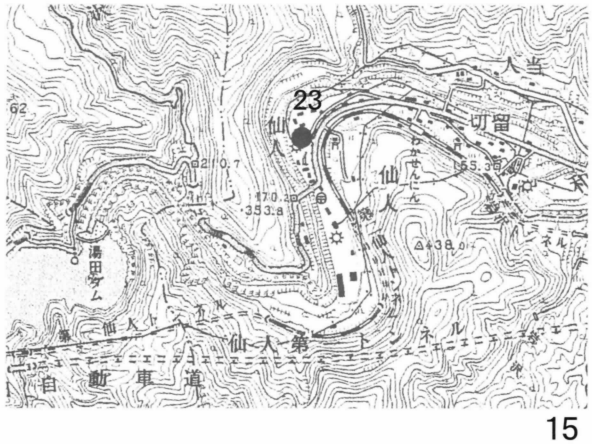


12

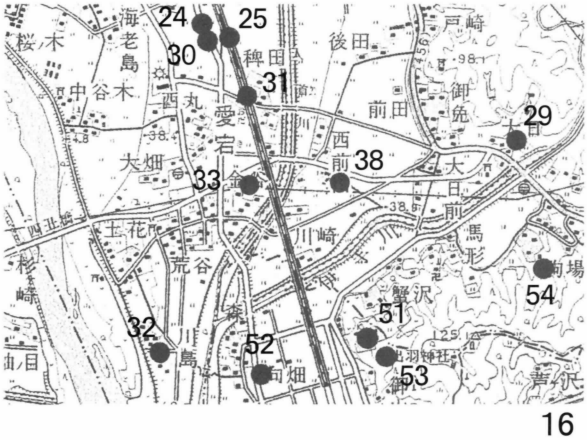


13

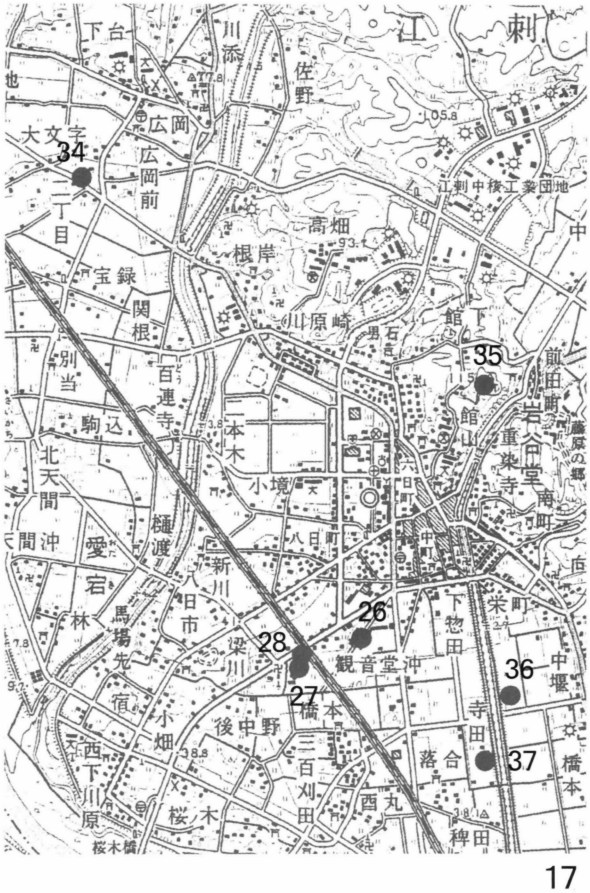
14



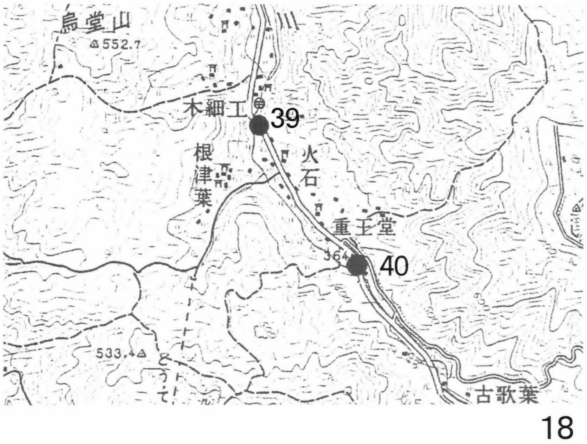
15



16

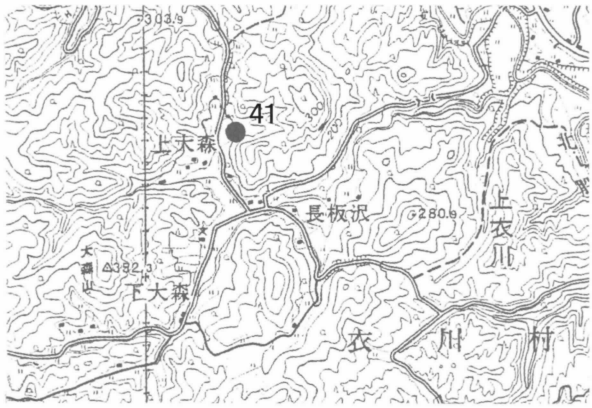


17

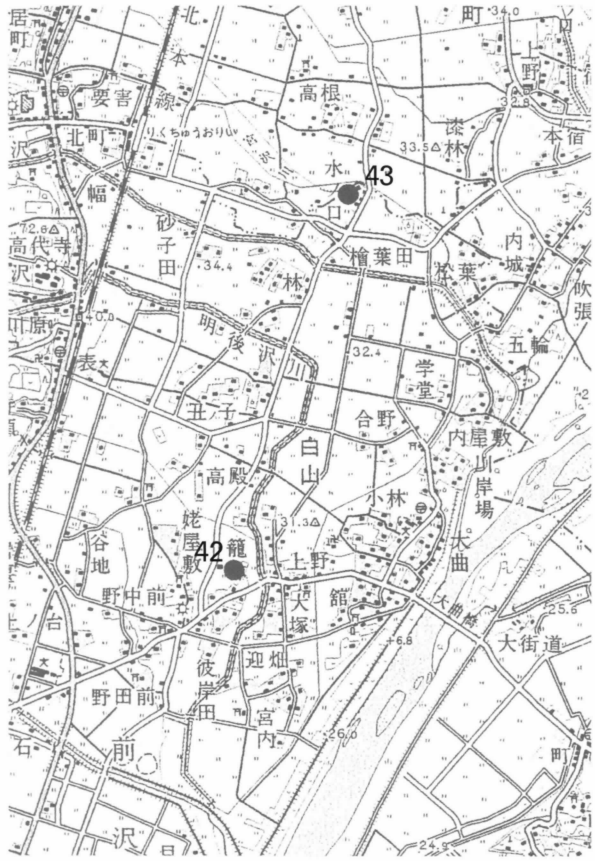


18

第４図　　岩手県内製鉄遺跡位置図３



19

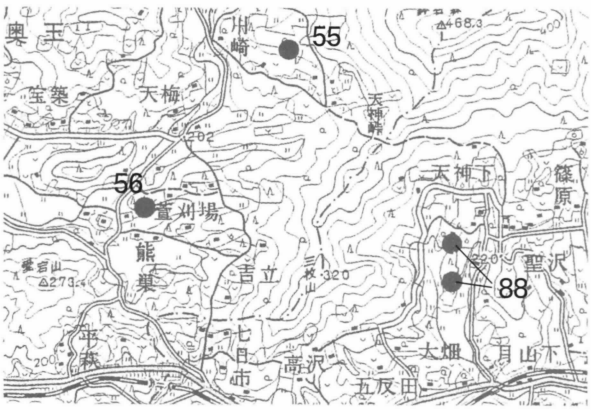


20

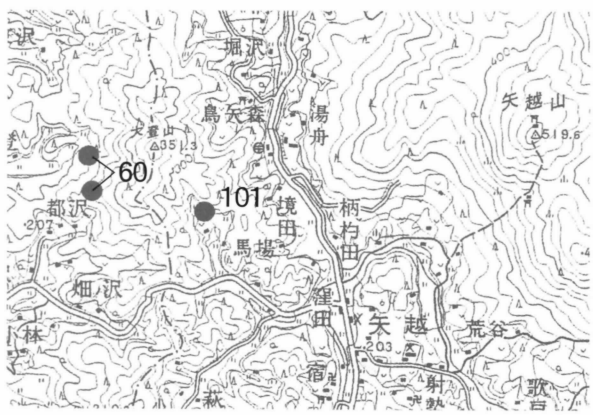
21

22

23

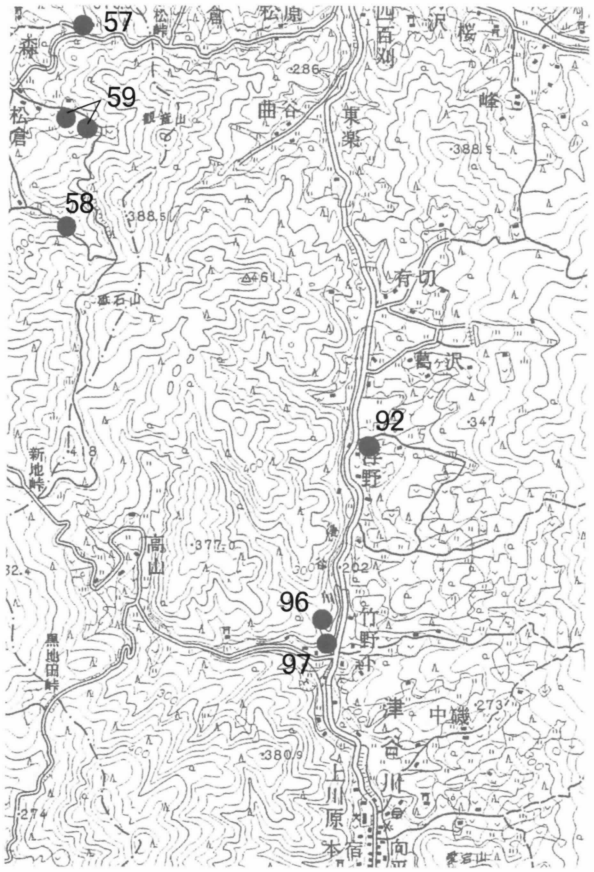


24

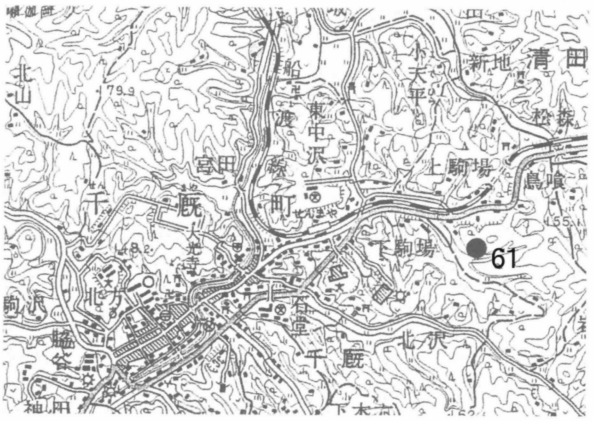


25

第５図　　岩手県内製鉄遺跡位置図４

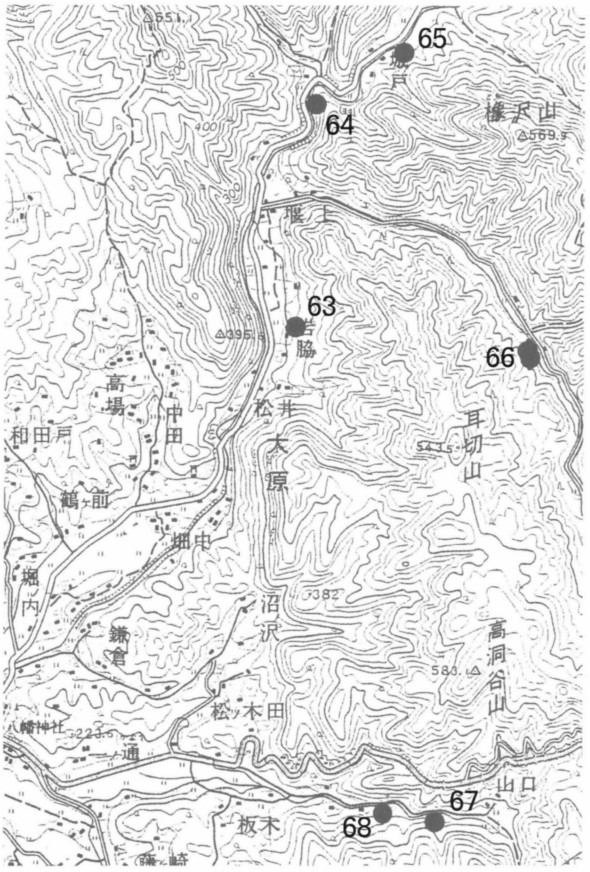


26



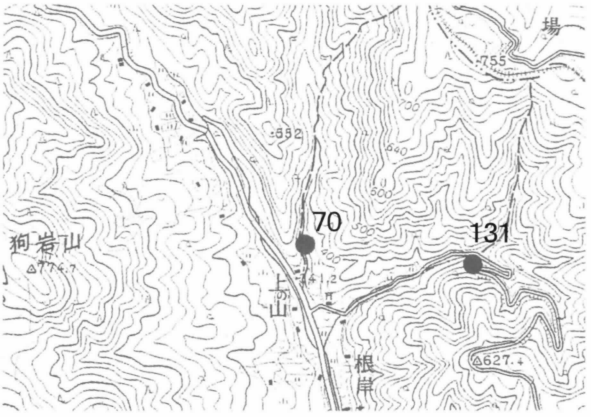
27

28



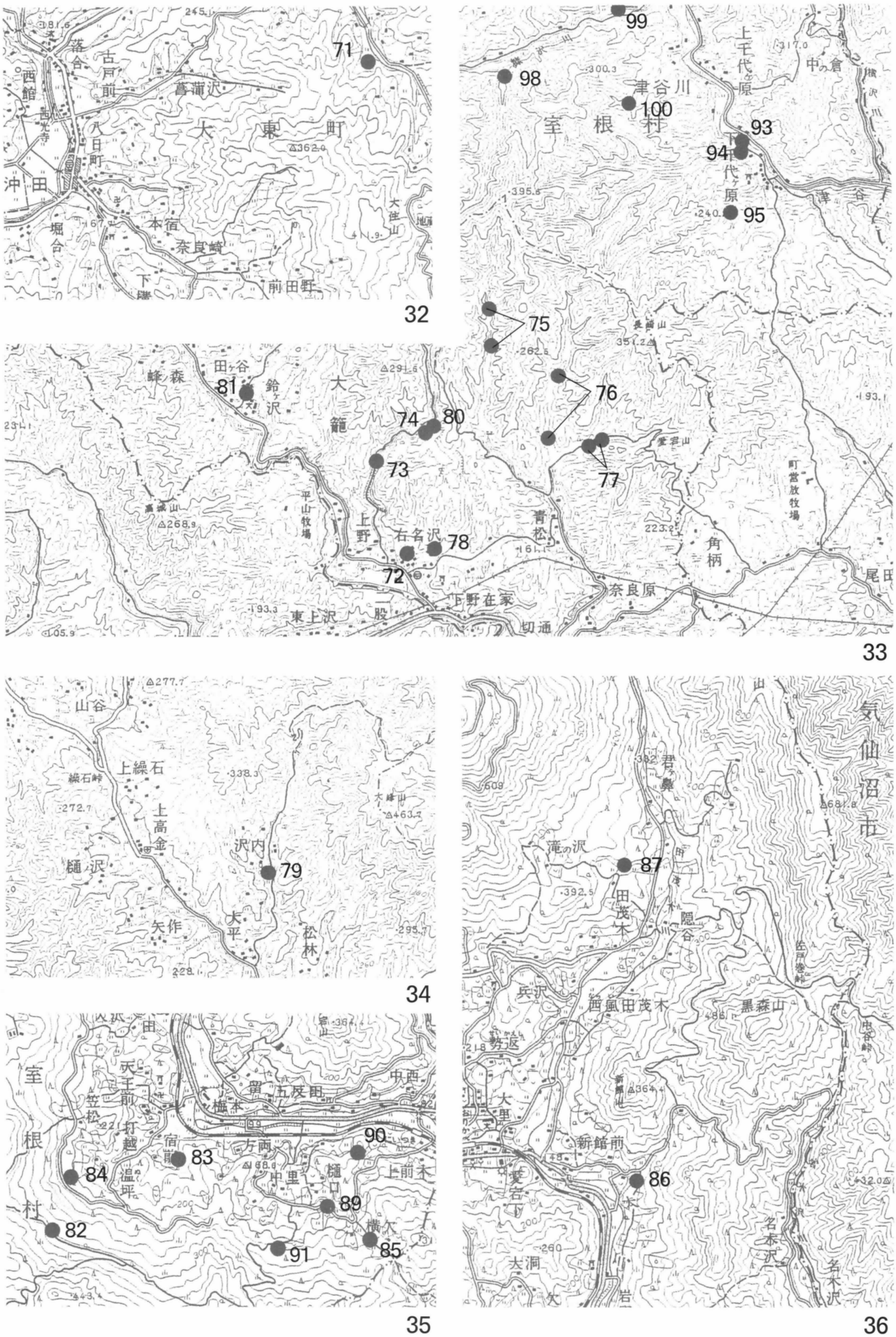
29

30



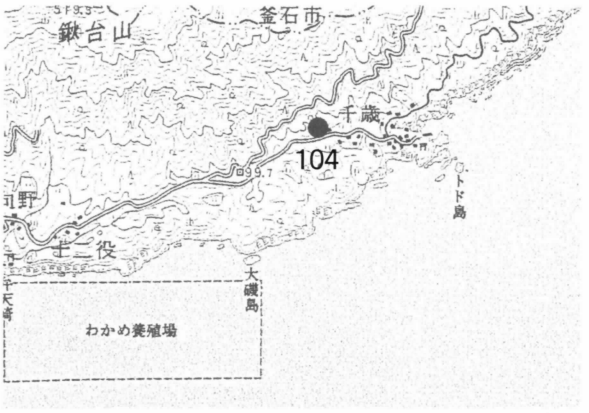
31

第６図　　岩手県内製鉄遺跡位置図５

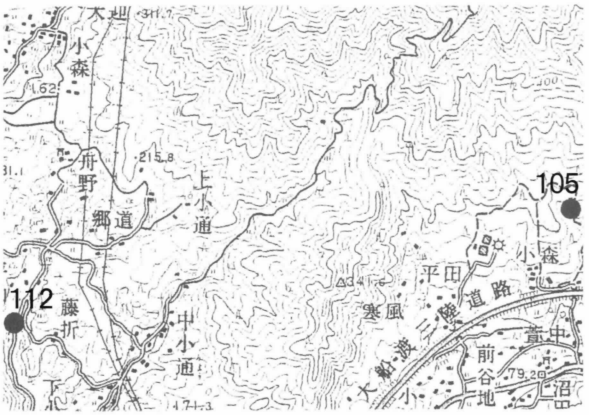


第７図　　岩手県内製鉄遺跡位置図６

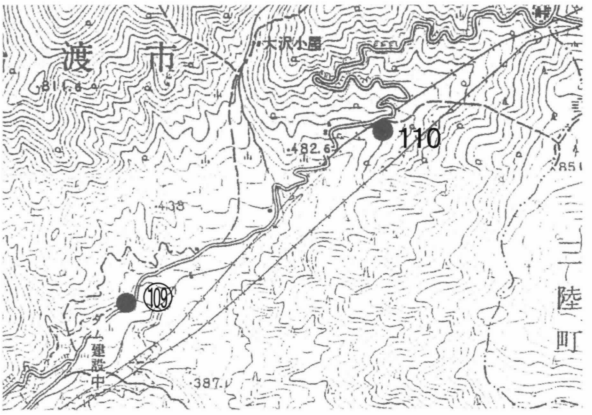
37



38

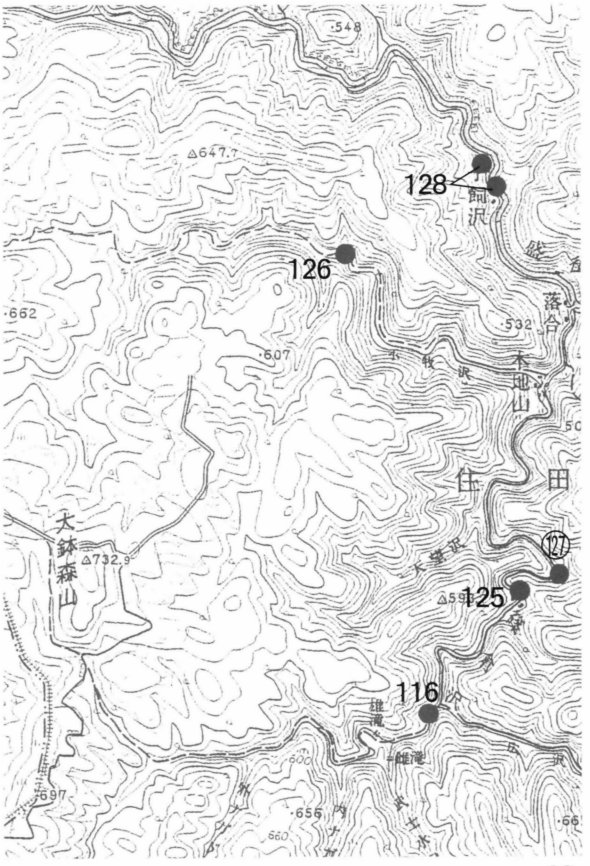


39



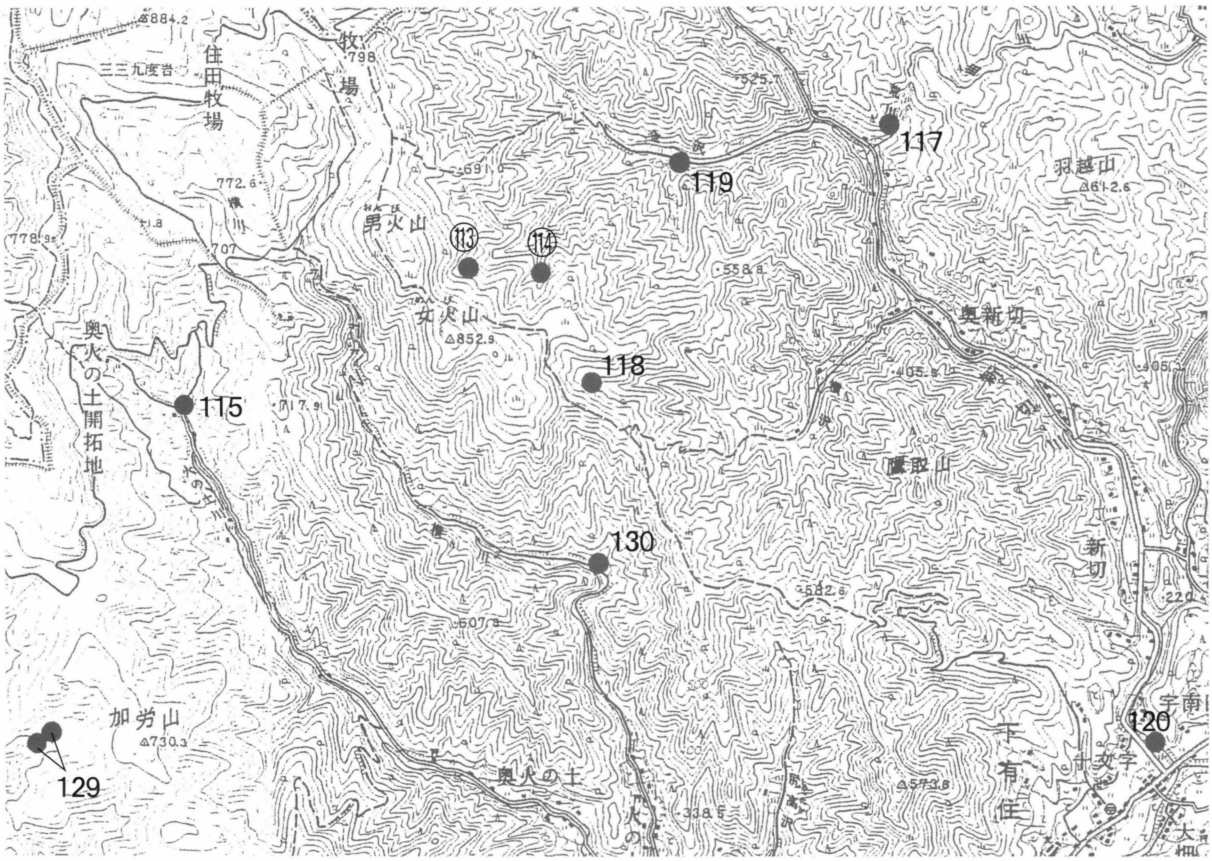
40

41

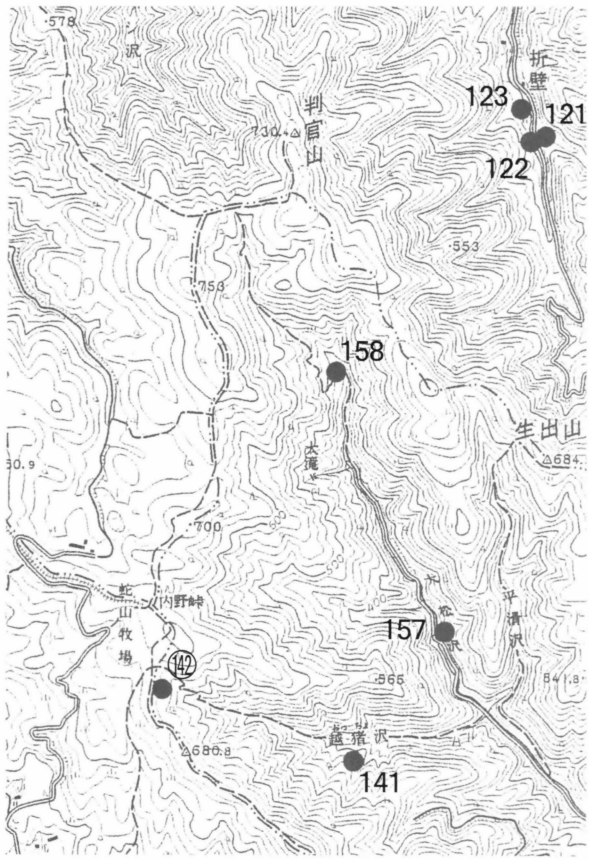


42

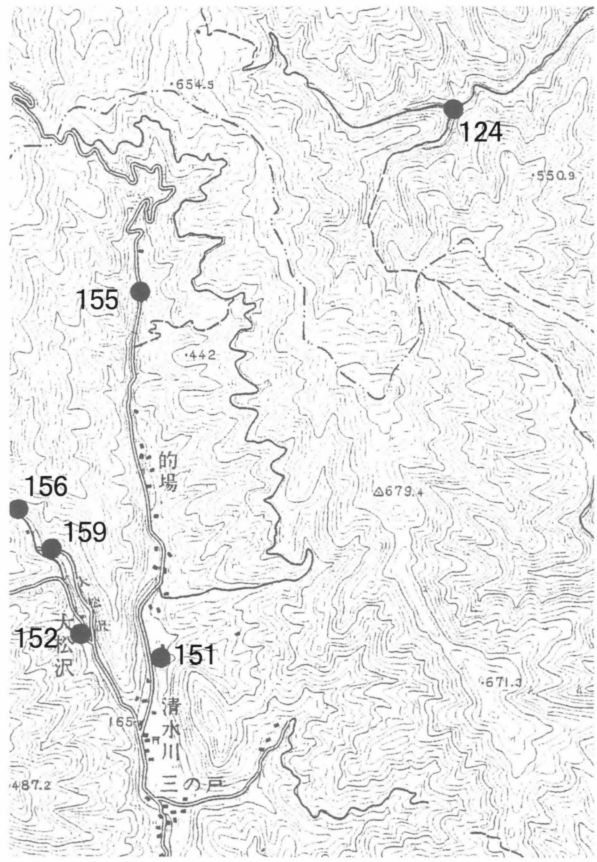
第８図　　岩手県内製鉄遺跡位置図７



43



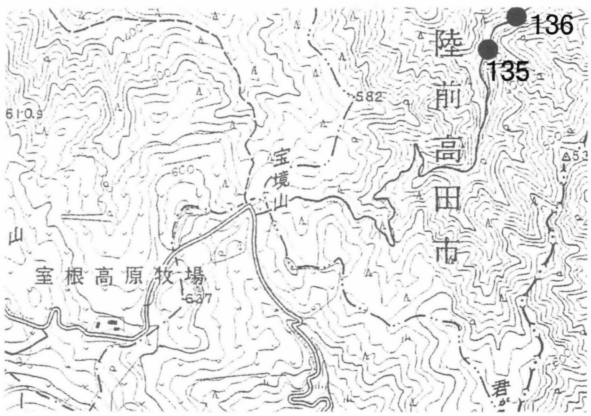
44



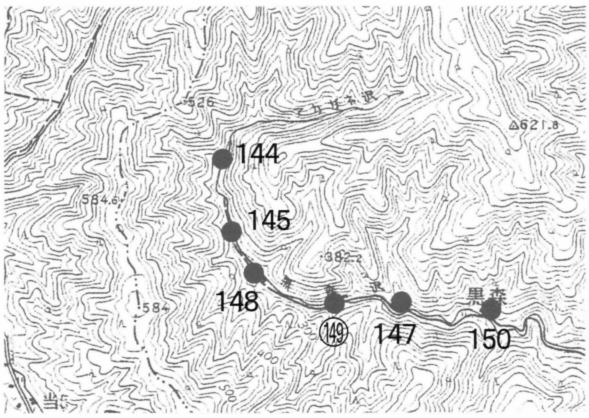
45

第９図　　岩手県内製鉄遺跡位置図８

46

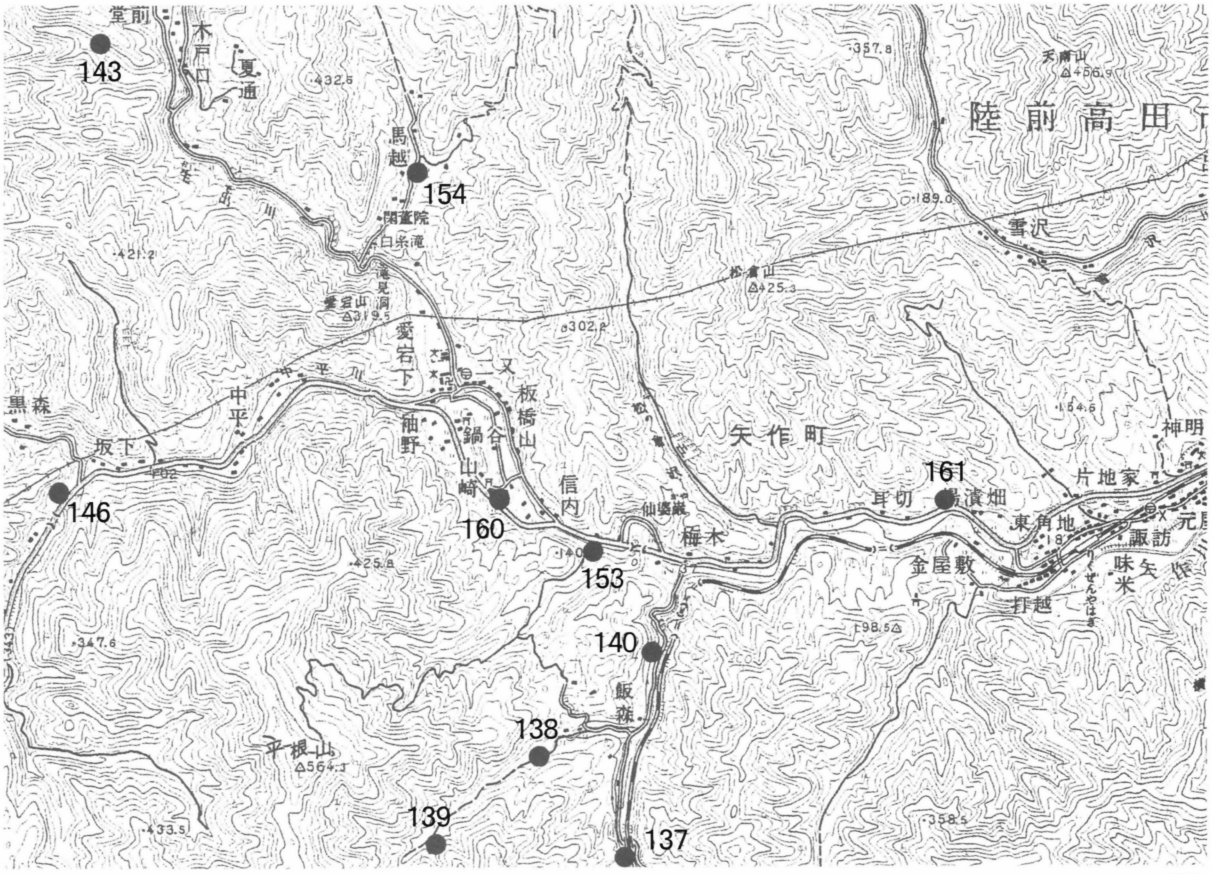


47



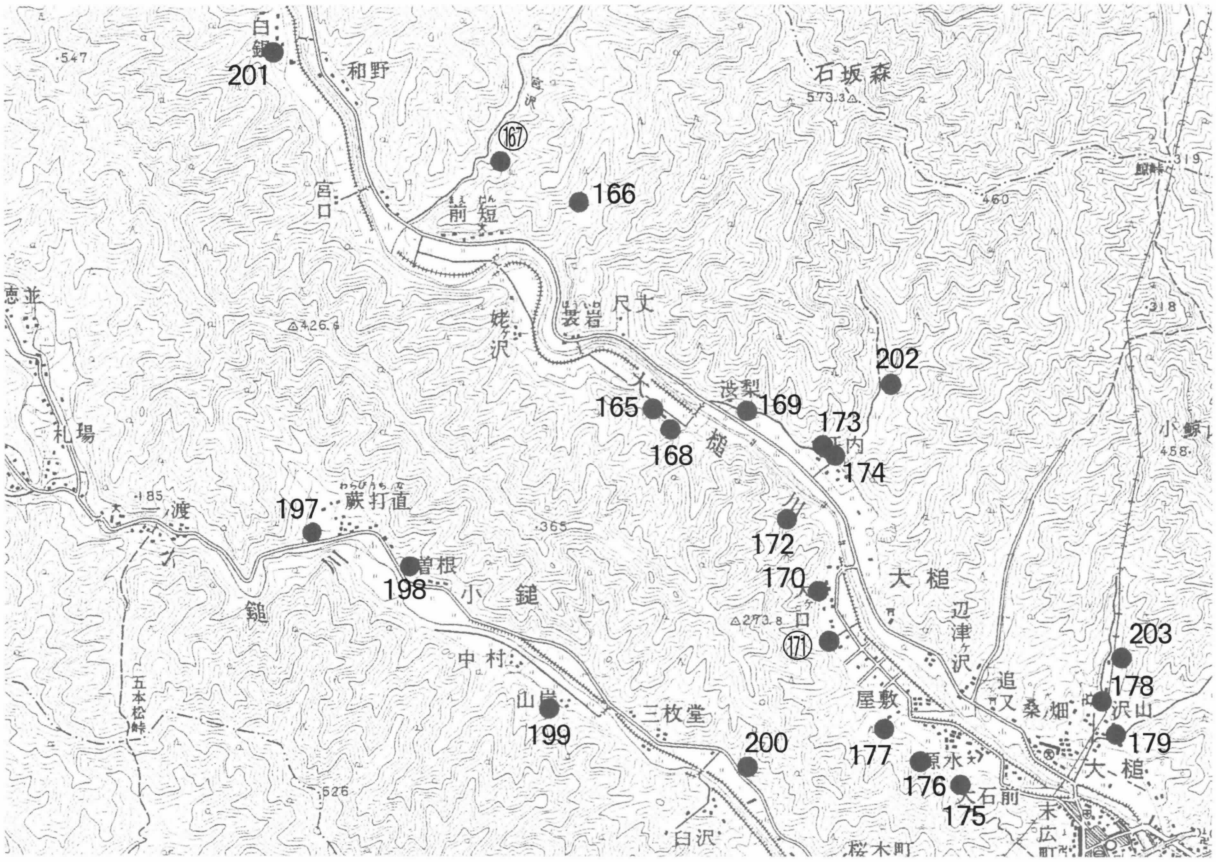
48

49

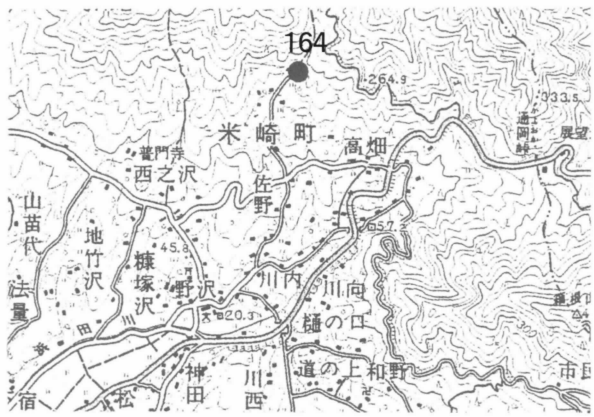


50

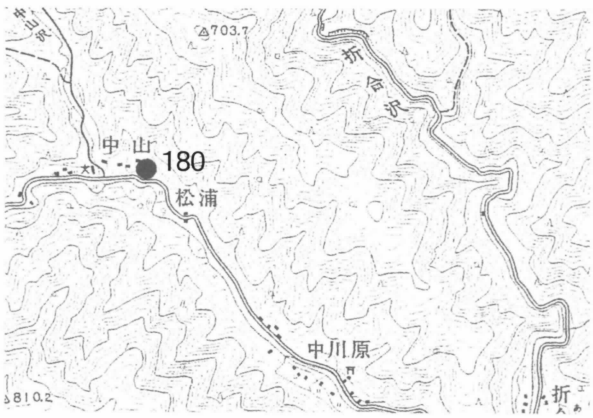
第10図　　岩手県内製鉄遺跡位置図９



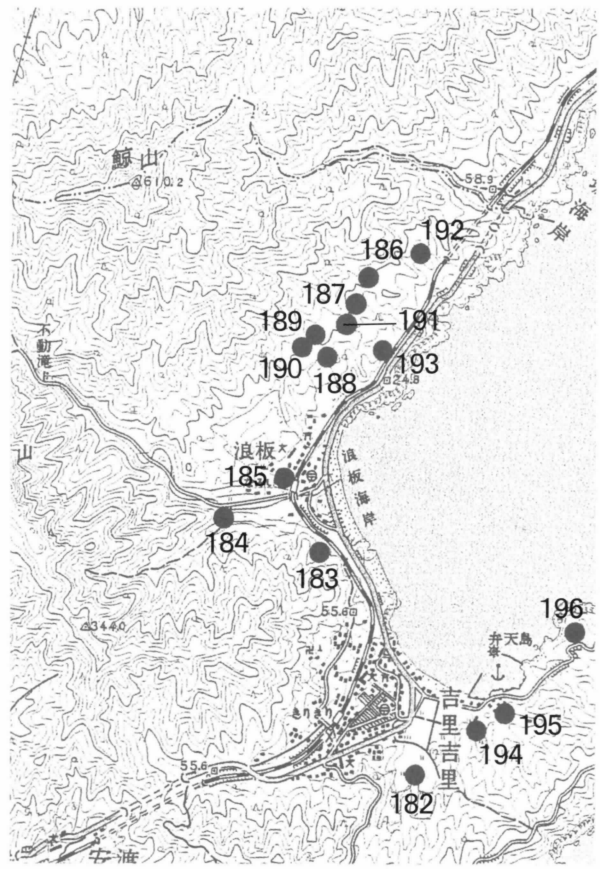
51



52

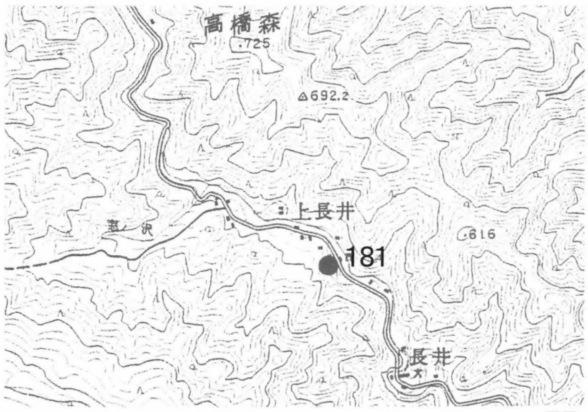


53

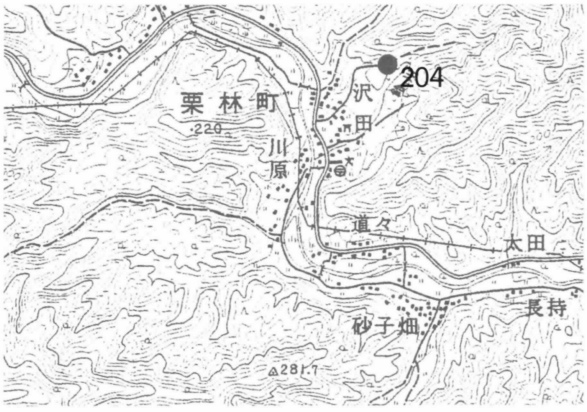


54

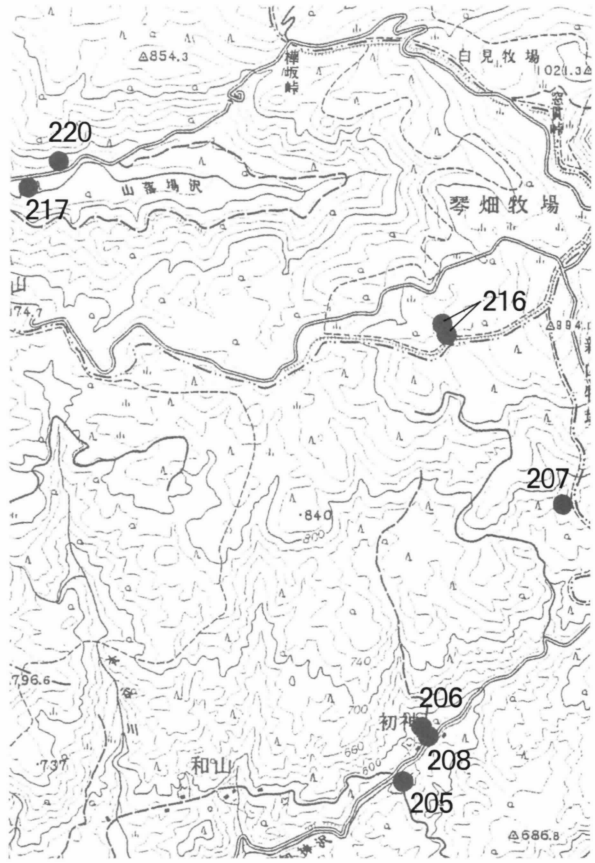
第11図　　岩手県内製鉄遺跡位置図10



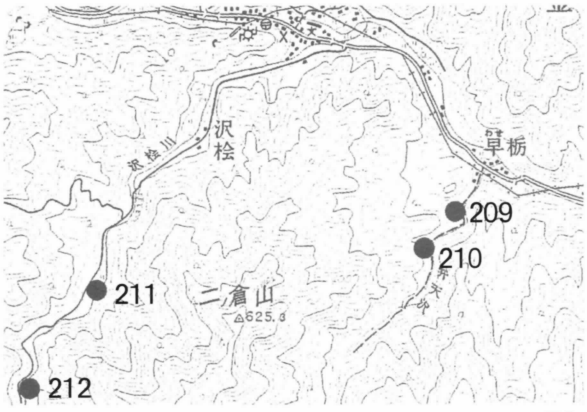
55



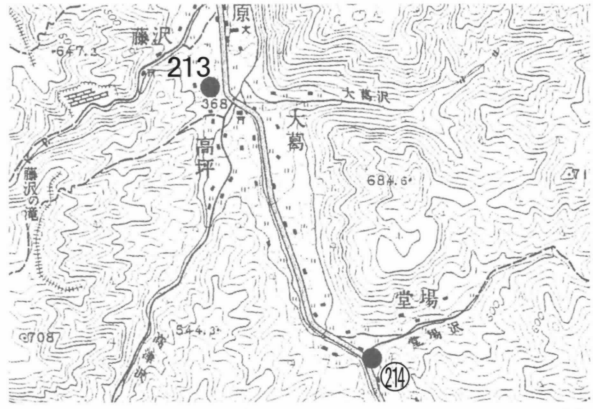
56



57

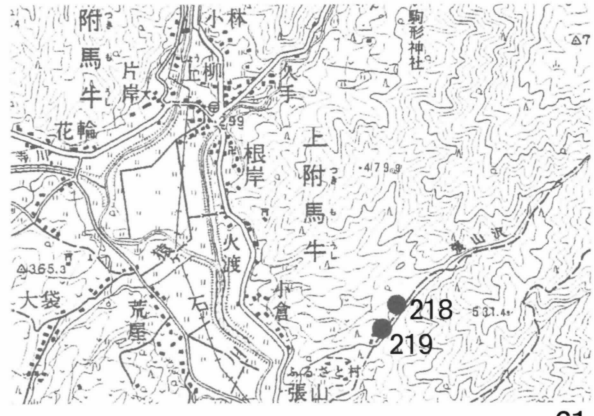


58



59

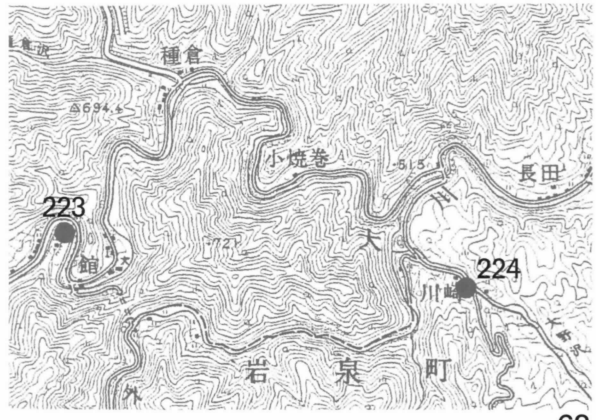
60



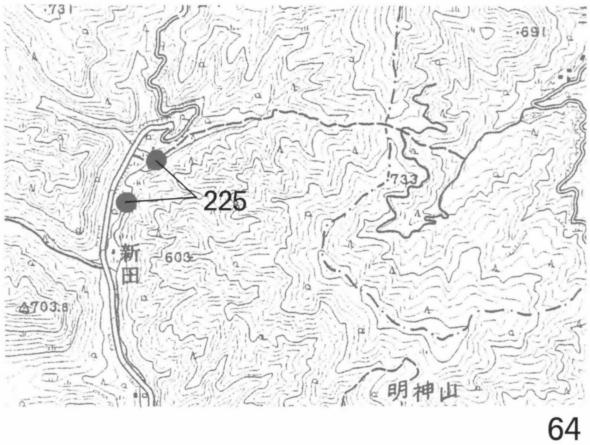
61

第12図　　岩手県内製鉄遺跡位置図11

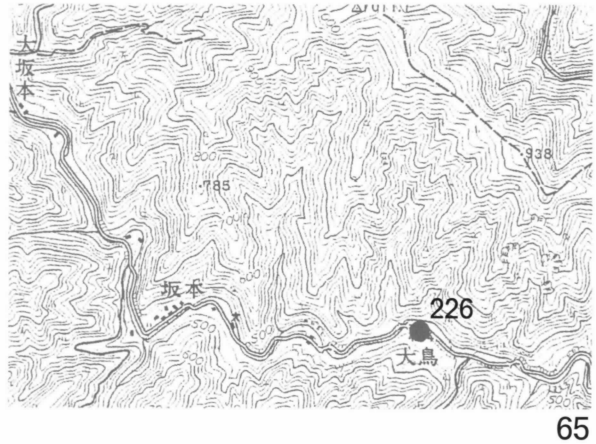
62



63

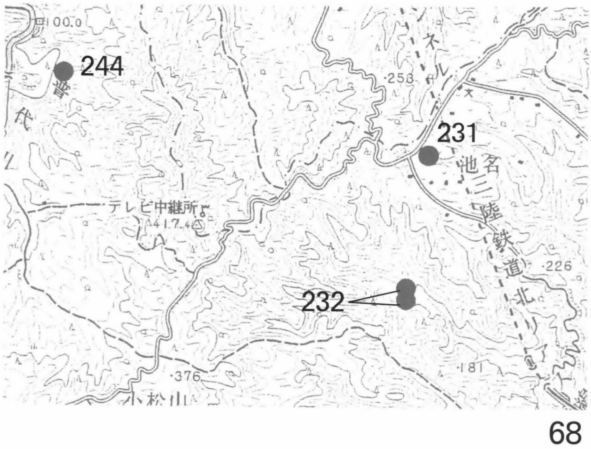


64

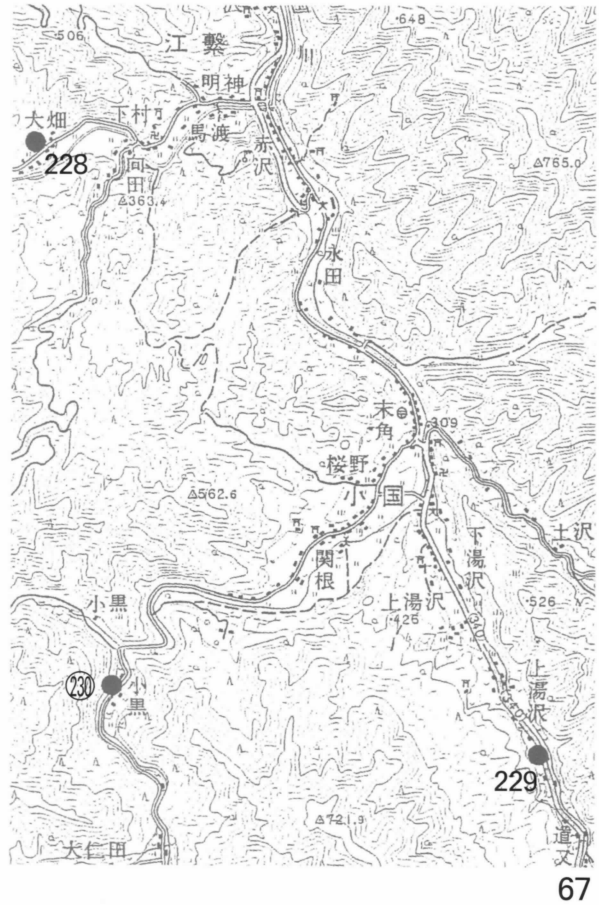


65

66

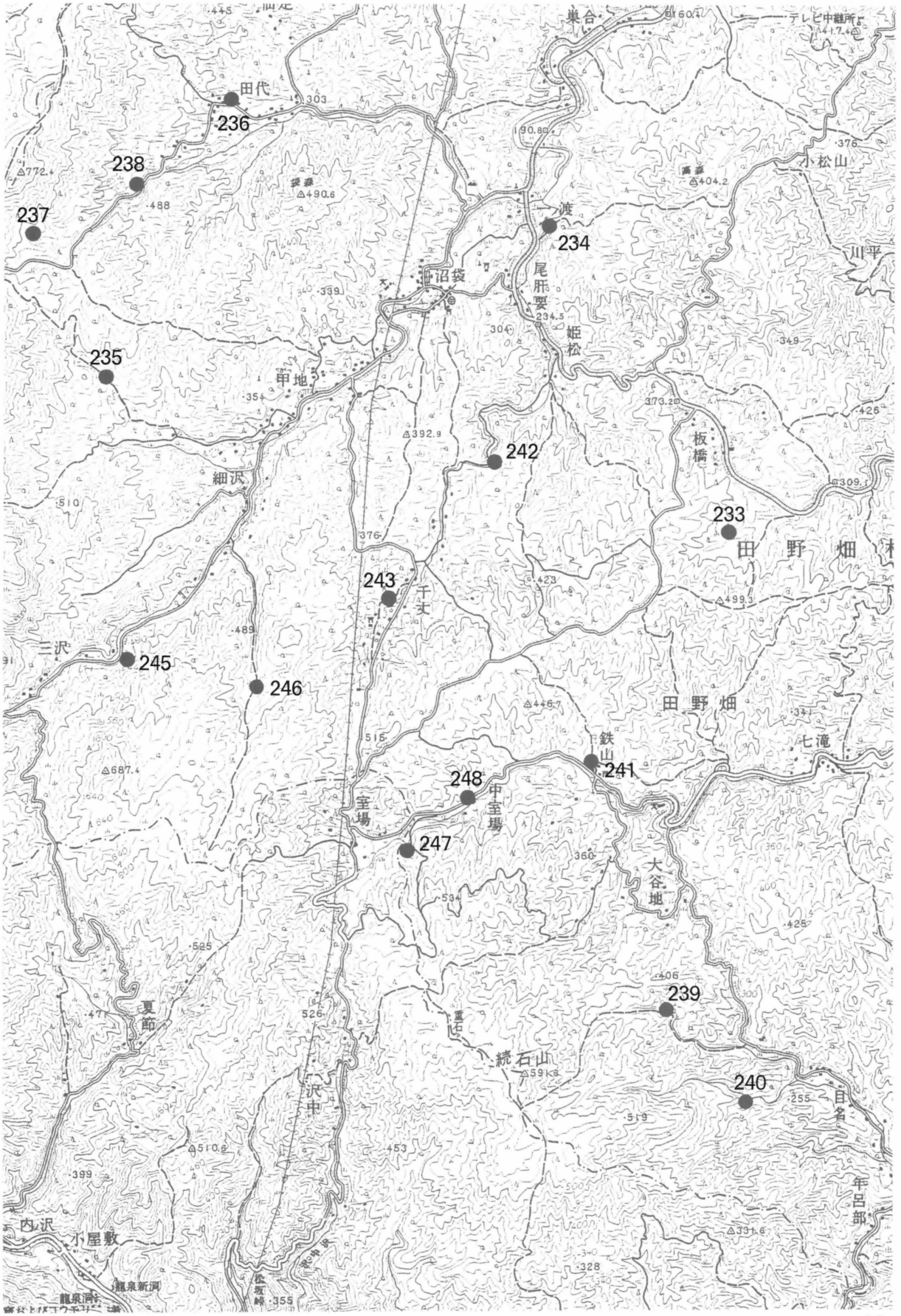


68



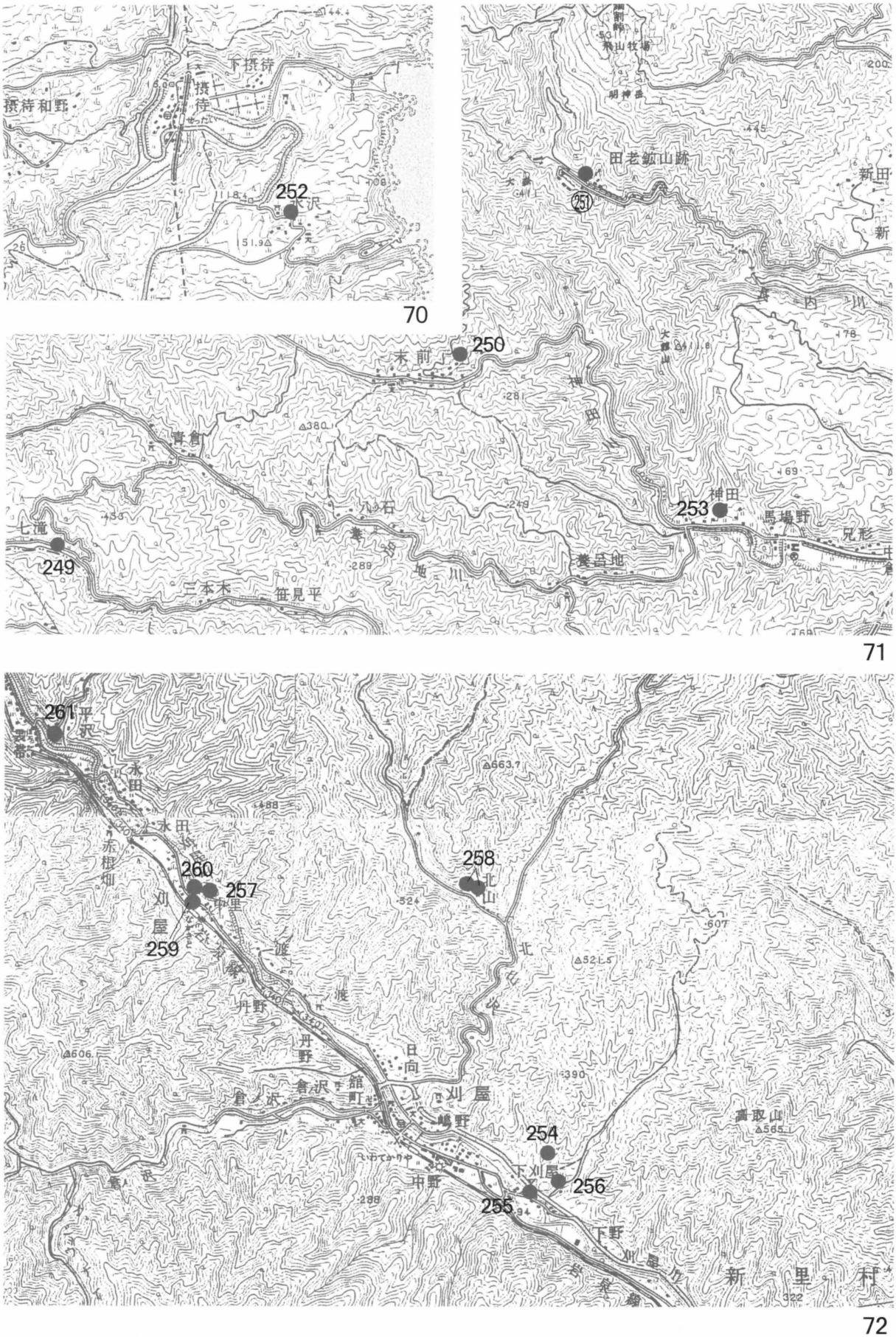
67

第13図　　岩手県内製鉄遺跡位置図12

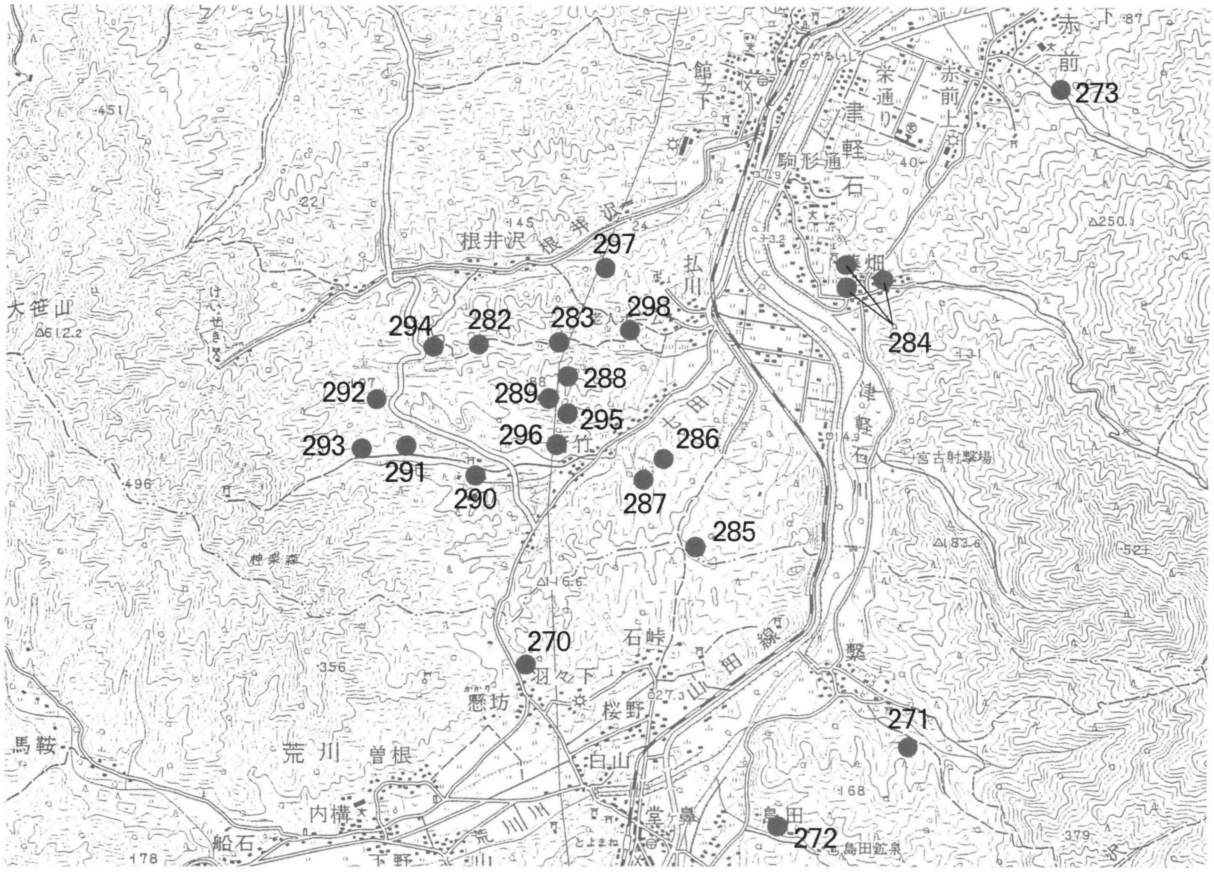


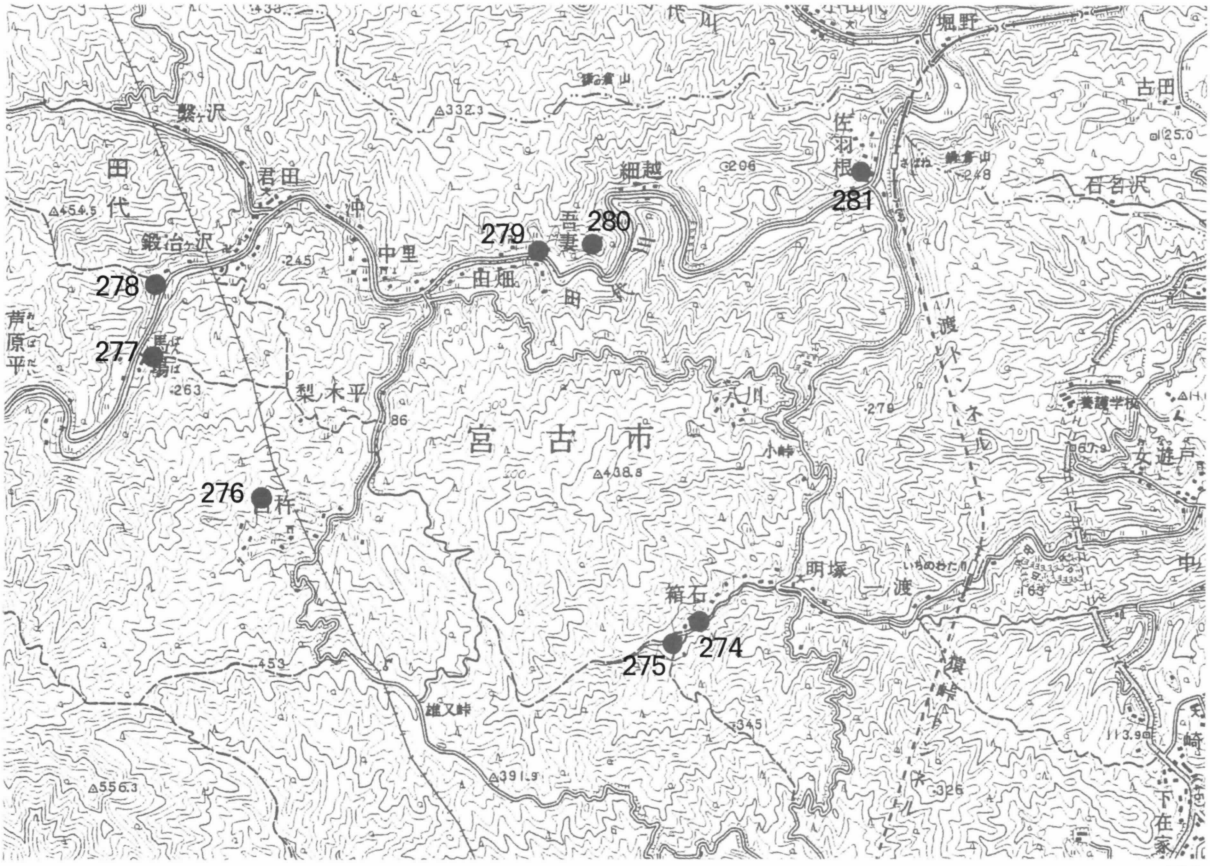
69

第14図　　岩手県内製鉄遺跡位置図13

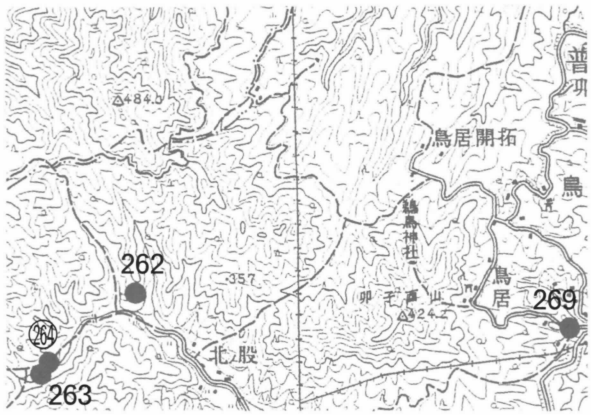


第15図　　岩手県内製鉄遺跡位置図14

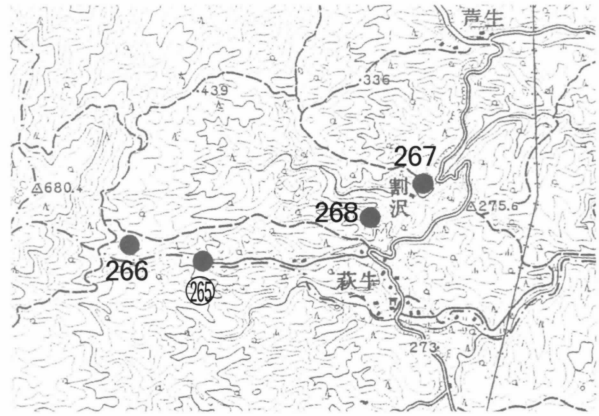




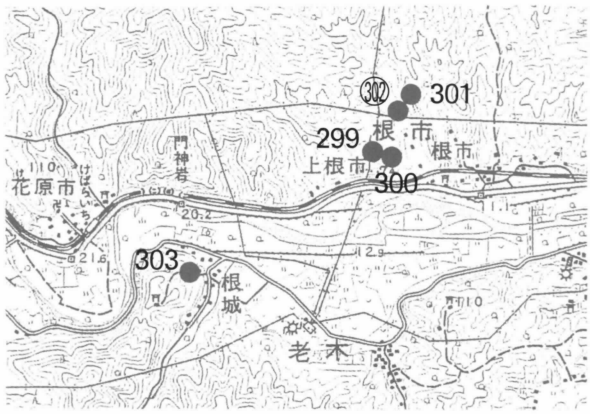
第16図　　岩手県内製鉄遺跡位置図15



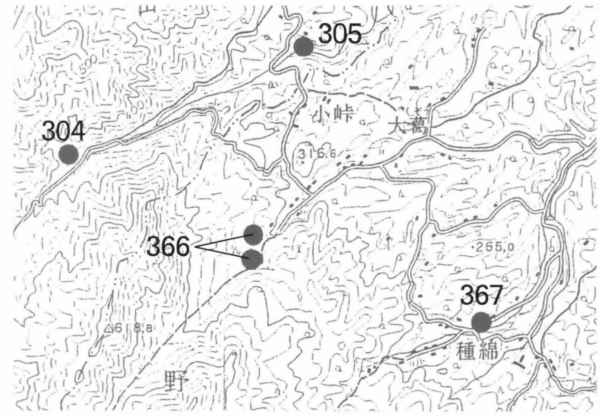
75



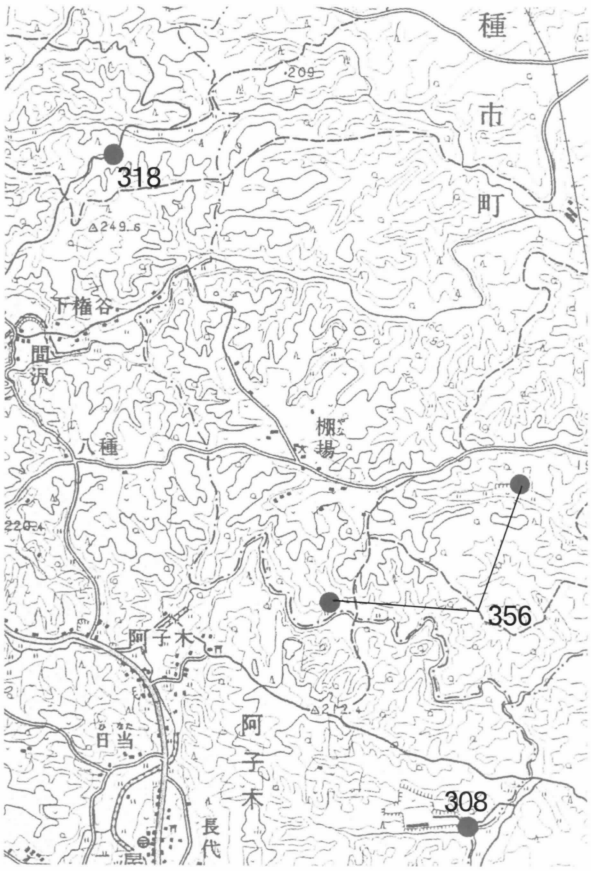
76



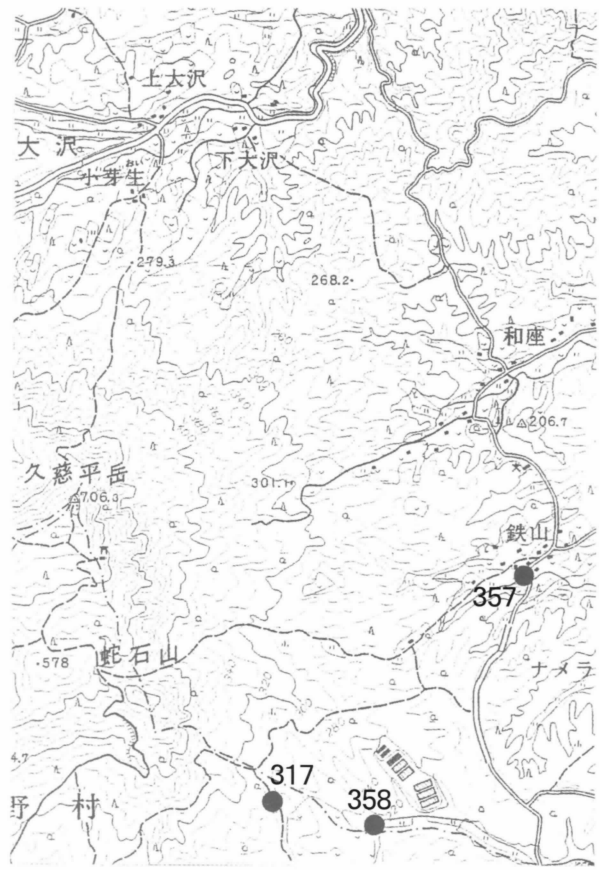
77



78

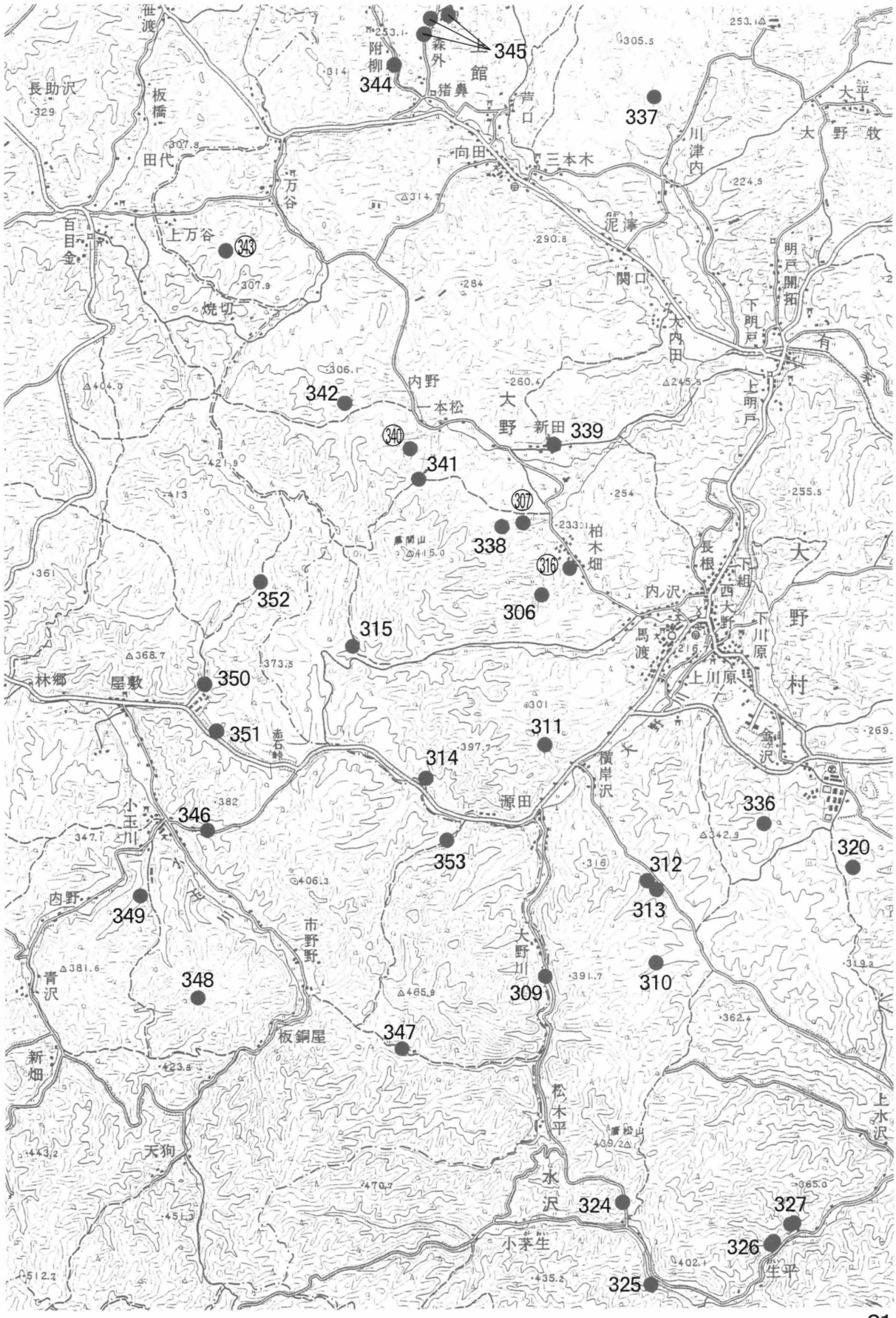


79



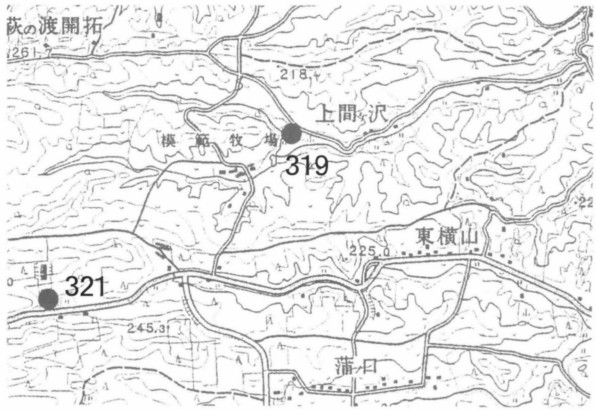
80

第17図　　岩手県内製鉄遺跡位置図16

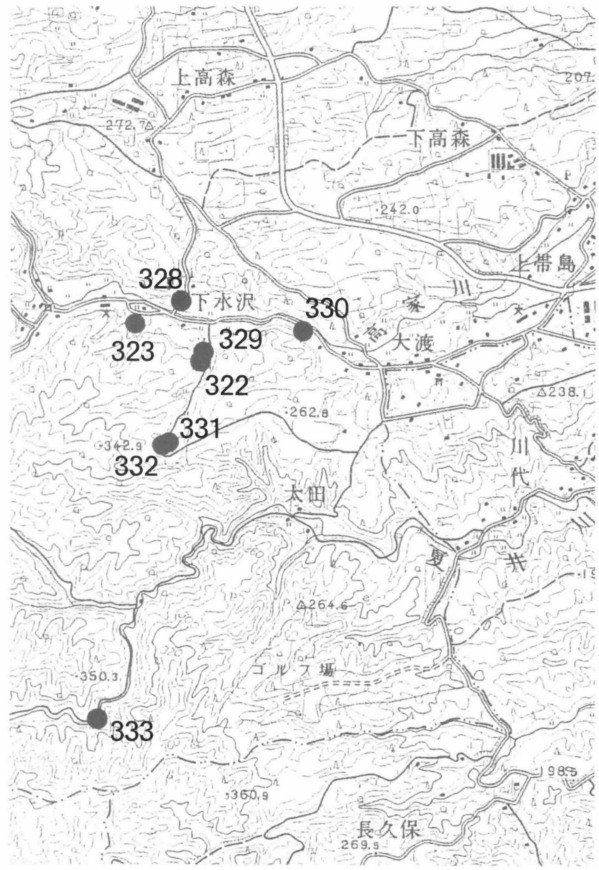


81

第18図　　岩手県内製鉄遺跡位置図17

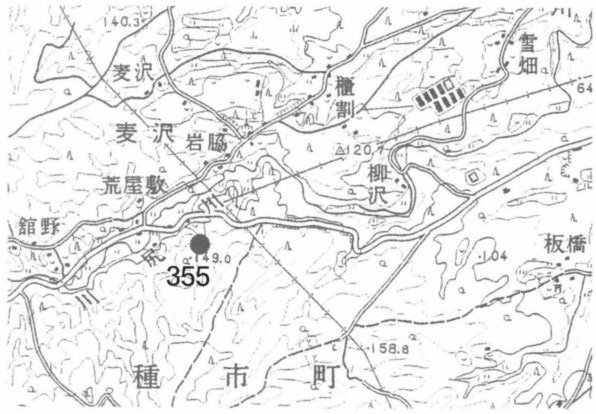


82

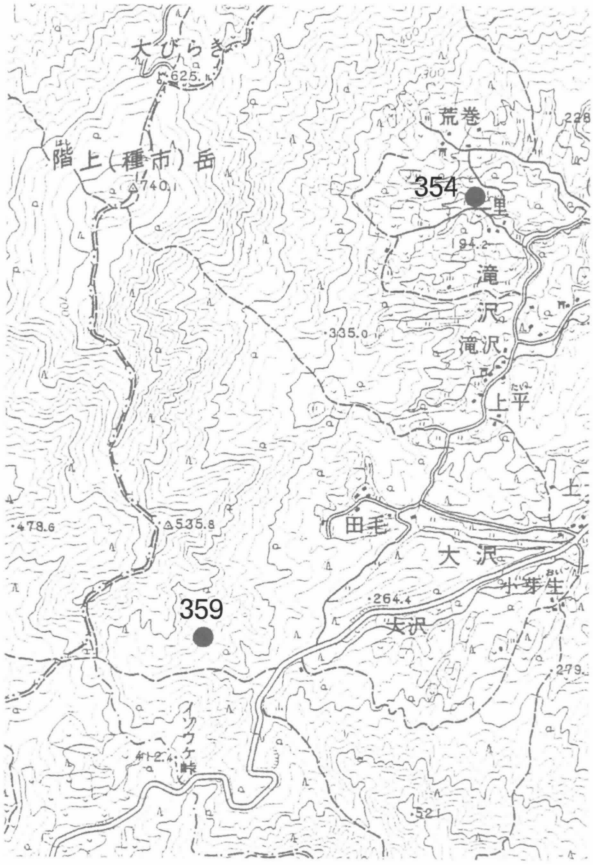


83

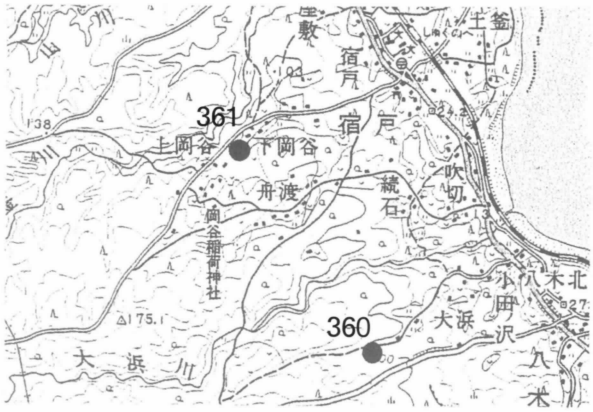
84



86



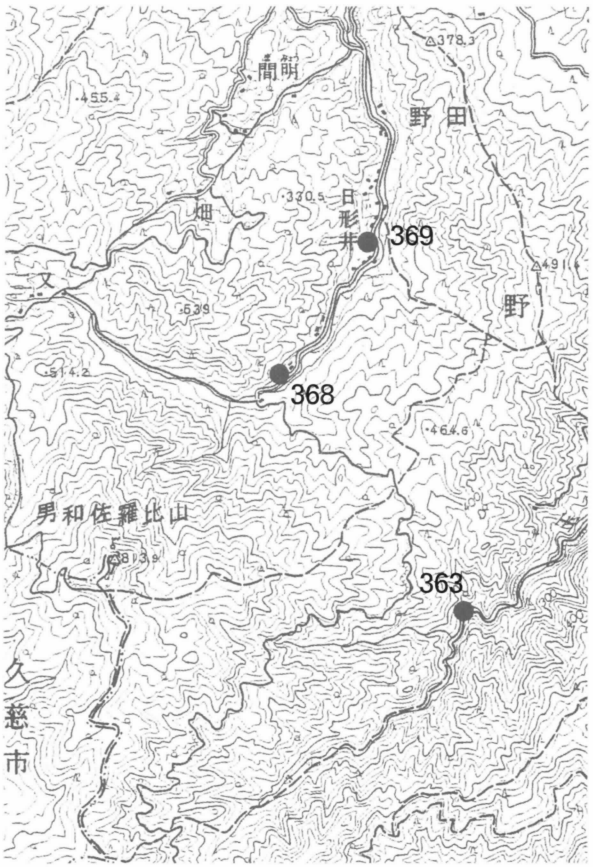
85



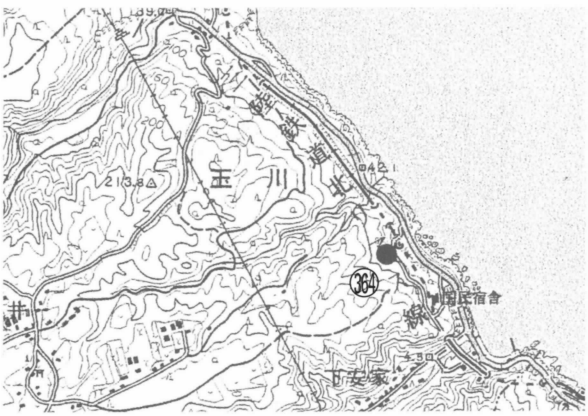
87

第19図　　岩手県内製鉄遺跡位置図18

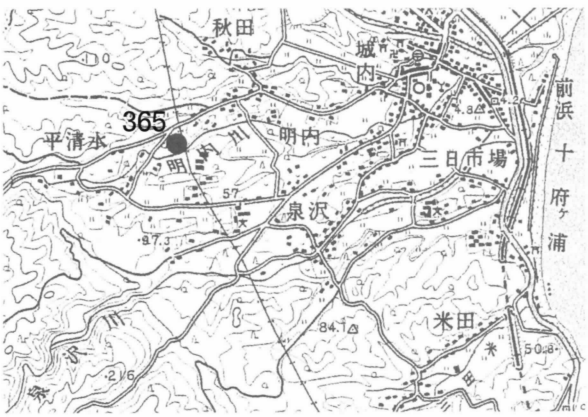
88



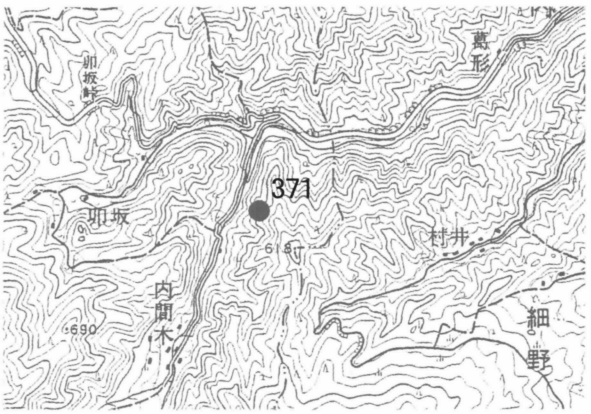
89



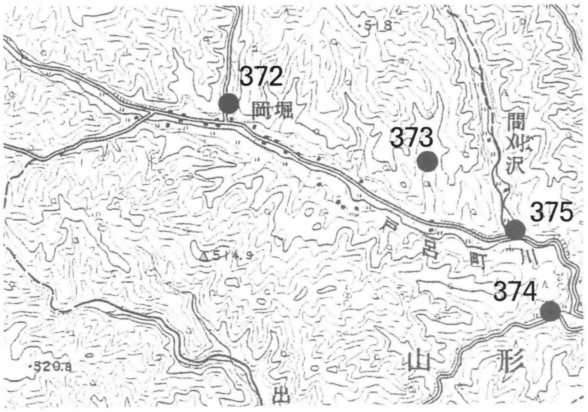
90



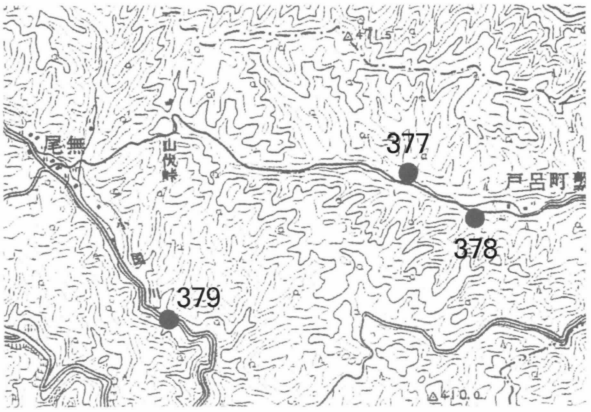
91



92

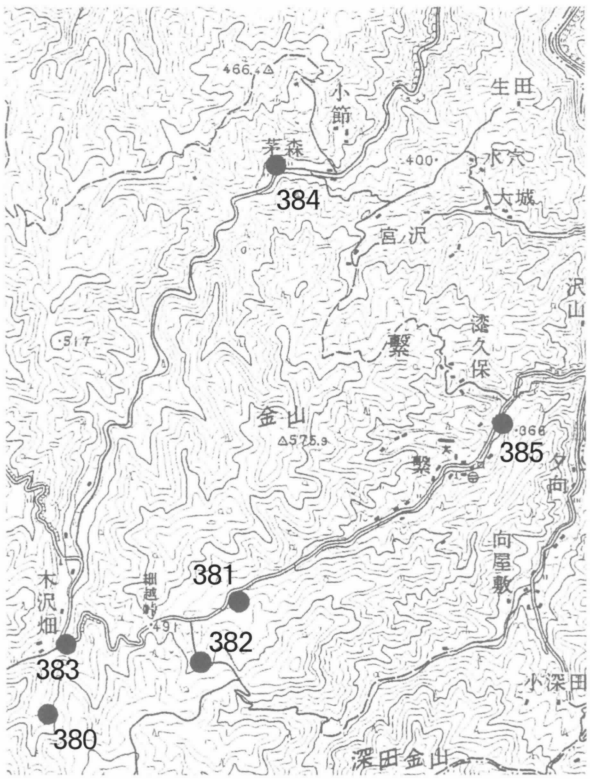


93

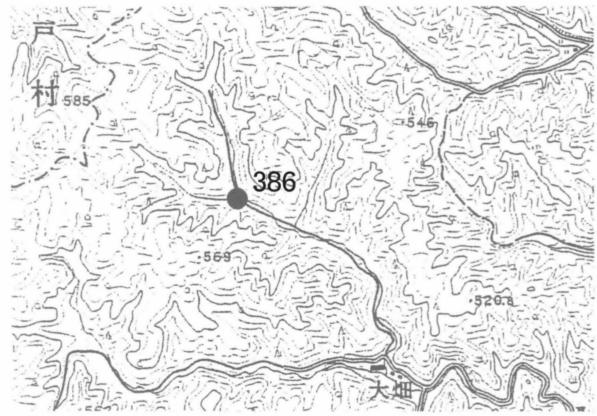


94

第20図　　岩手県内製鉄遺跡位置図19



95



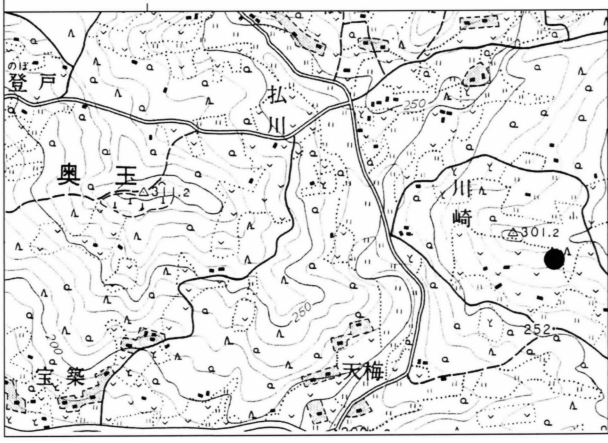
96

遺跡番号・図版対応表

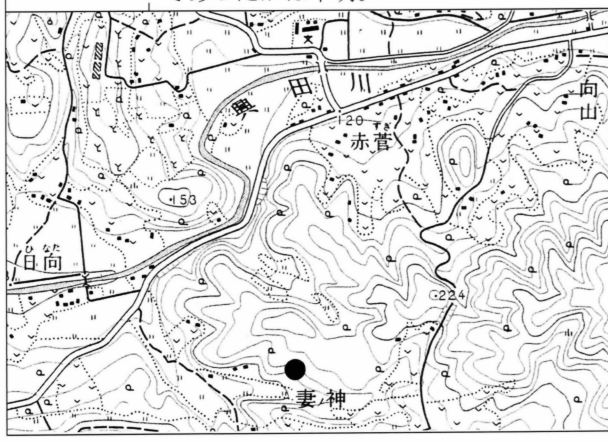
N0	図版番号	N0	図版番号	N0	図版番号	N0	図版番号	N0	図版番号	N0	図版番号	N0	図版番号	N0	図版番号	N0	図版番号
1	第2図1	44	第5図21	87	第7図36	130	第9図43	173	第11図51	216	第12図57	259	第15図72	302	第17図77	345	第18図81
2	第2図2	45	第5図22	88	第5図24	131	第6図31	174	第11図51	217	第12図57	260	第15図72	303	第17図77	346	第18図81
3	第2図3	46	第5図23	89	第7図35	132	第10図46	175	第11図51	218	第12図61	261	第15図72	304	第17図78	347	第18図81
4	第2図4	47	第5図22	90	第7図35	133	第10図46	176	第11図51	219	第12図61	262	第17図75	305	第17図78	348	第18図81
5	第2図5	48	第5図21	91	第7図35	134	第10図46	177	第11図51	220	第12図57	263	第17図75	306	第18図81	349	第18図81
6	第2図6	49	第5図21	92	第6図26	135	第10図47	178	第11図51	221	第13図62	264	第17図75	307	第18図81	350	第18図81
7	第2図7	50	第5図21	93	第7図33	136	第10図47	179	第11図51	222	第13図62	265	第17図76	308	第17図79	351	第18図81
8	第2図8	51	第4図16	94	第7図33	137	第10図50	180	第11図53	223	第13図63	266	第17図76	309	第18図81	352	第18図81
9	第3図9	52	第4図16	95	第7図33	138	第10図50	181	第12図55	224	第13図63	267	第17図76	310	第18図81	353	第18図81
10	第3図10	53	第4図16	96	第6図26	139	第10図50	182	第11図54	225	第13図64	268	第17図76	311	第18図81	354	第19図85
11	第3図11	54	第4図16	97	第6図26	140	第10図50	183	第11図54	226	第13図65	269	第17図75	312	第18図81	355	第19図86
12	第3図11	55	第5図24	98	第7図33	141	第9図44	184	第11図54	227	第13図66	270	第16図73	313	第18図81	356	第17図79
13	第3図11	56	第5図24	99	第7図33	142	第9図44	185	第11図54	228	第13図67	271	第16図73	314	第18図81	357	第17図80
14	第3図11	57	第6図26	100	第7図33	143	第10図50	186	第11図54	229	第13図67	272	第16図73	315	第18図81	358	第17図80
15	第3図11	58	第6図26	101	第5図25	144	第10図48	187	第11図54	230	第13図67	273	第16図73	316	第18図81	359	第19図85
16	第3図11	59	第6図26	102	第8図37	145	第10図48	188	第11図54	231	第13図68	274	第16図74	317	第17図80	360	第19図87
17	第4図12	60	第5図25	103	第8図37	146	第10図48	189	第11図54	232	第13図68	275	第16図74	318	第17図79	361	第19図87
18	第3図11	61	第6図27	104	第8図38	147	第10図48	190	第11図54	233	第14図69	276	第16図74	319	第19図82	362	第20図88
19	第3図11	62	第6図28	105	第8図39	148	第10図48	191	第11図54	234	第14図69	277	第16図74	320	第18図81	363	第20図89
20	第4図13	63	第6図29	106	第8図41	149	第10図48	192	第11図54	235	第14図69	278	第16図74	321	第19図82	364	第20図90
21	第4図14	64	第6図29	107	第8図41	150	第10図48	193	第11図54	236	第14図69	279	第16図74	322	第19図83	365	第20図91
22	第3図11	65	第6図29	108	第8図41	151	第9図45	194	第11図54	237	第14図69	280	第16図74	323	第19図83	366	第17図78
23	第4図15	66	第6図29	109	第8図40	152	第9図45	195	第11図54	238	第14図69	281	第16図74	324	第18図81	367	第17図78
24	第4図16	67	第6図29	110	第8図40	153	第10図50	196	第11図54	239	第14図69	282	第16図73	325	第18図81	368	第20図89
25	第4図16	68	第6図29	111	第8図41	154	第10図50	197	第11図51	240	第14図69	283	第16図73	326	第18図81	369	第20図89
26	第4図17	69	第6図30	112	第8図39	155	第9図45	198	第11図51	241	第14図69	284	第16図73	327	第18図81	370	第2図3
27	第4図17	70	第6図31	113	第9図43	156	第9図45	199	第11図51	242	第14図69	285	第16図73	328	第19図83	371	第20図92
28	第4図17	71	第7図32	114	第9図43	157	第9図44	200	第11図51	243	第14図69	286	第16図73	329	第19図83	372	第20図93
29	第4図16	72	第7図33	115	第9図43	158	第9図44	201	第11図51	244	第13図68	287	第16図73	330	第19図83	373	第20図93
30	第4図16	73	第7図33	116	第8図42	159	第9図45	202	第11図51	245	第14図69	288	第16図73	331	第19図83	374	第20図93
31	第4図16	74	第7図33	117	第9図43	160	第10図50	203	第11図51	246	第14図69	289	第16図73	332	第19図83	375	第20図93
32	第4図16	75	第7図33	118	第9図43	161	第10図50	204	第12図56	247	第14図69	290	第16図73	333	第19図83	376	第19図84
33	第4図16	76	第7図33	119	第9図43	162	第10図49	205	第12図57	248	第14図69	291	第16図73	334	第19図84	377	第20図94
34	第4図17	77	第7図33	120	第9図43	163	第10図49	206	第12図57	249	第15図71	292	第16図73	335	第19図84	378	第20図94
35	第4図17	78	第7図33	121	第9図44	164	第11図52	207	第12図57	250	第15図71	293	第16図73	336	第18図81	379	第20図94
36	第4図17	79	第7図34	122	第9図44	165	第11図51	208	第12図57	251	第15図71	294	第16図73	337	第18図81	380	第21図95
37	第4図17	80	第7図33	123	第9図44	166	第11図51	209	第12図58	252	第15図70	295	第16図73	338	第18図81	381	第21図95
38	第4図16	81	第7図33	124	第9図45	167	第11図51	210	第12図58	253	第15図71	296	第16図73	339	第18図81	382	第21図95
39	第4図18	82	第7図35	125	第8図42	168	第11図51	211	第12図58	254	第15図72	297	第16図73	340	第18図81	383	第21図95
40	第4図18	83	第7図35	126	第8図42	169	第11図51	212	第12図58	255	第15図72	298	第16図73	341	第18図81	384	第21図95
41	第5図19	84	第7図35	127	第8図42	170	第11図51	213	第12図59	256	第15図72	299	第17図77	342	第18図81	385	第21図95
42	第5図20	85	第7図35	128	第8図42	171	第11図51	214	第12図59	257	第15図72	300	第17図77	343	第18図81	386	第21図96
43	第5図20	86	第7図36	129	第9図43	172	第11図51	215	第12図60	258	第15図72	301	第17図77	344	第18図81		

第21図　　岩手県内製鉄遺跡位置図20

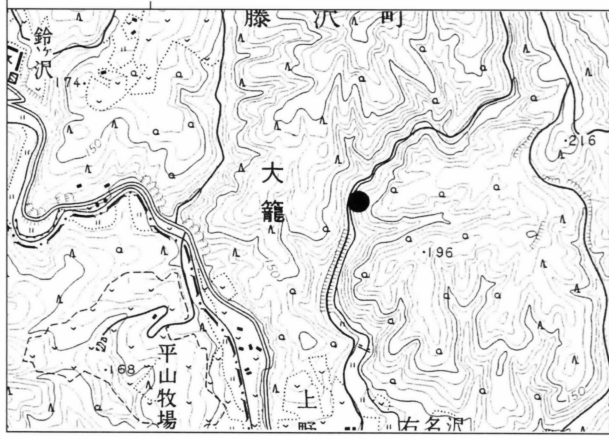
No.	55	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	天梅焙屋（てんばいどうや） 〔ＮＦ82-2315〕			
所　在　地	東磐井郡千厩町奥玉字川崎1-11				図幅	NJ54-14-11-1 折壁
立地・目印	山麓の西側斜面に立地する。主要地方道住田室根線からは東に約500m地点に位置する。		標高	270～290m	種別	近世の焙屋跡として周知されている。
時　　期	近世		現況	山林、原野	残存状況	良好
遺構・遺物	高殿、排滓場、流出滓、炉壁				文献	
備　　考	鉄滓散布範囲は広く、量も多い。					

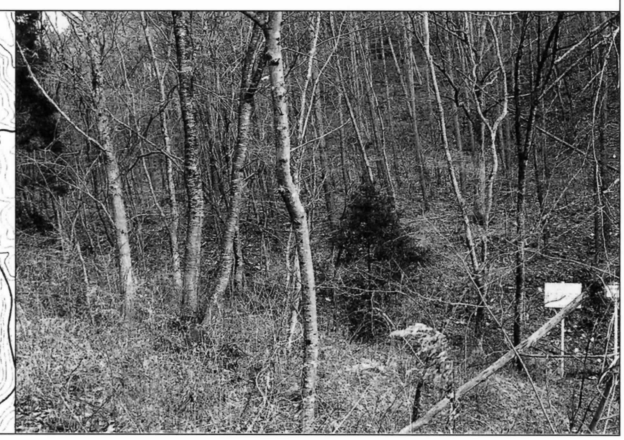


No.	69	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	霞沢焙屋（かすみさわどうや） <ＮＦ５１－２０６５>			
所　在　地	東磐井郡大東町字霞沢				図幅	NF54-14-10-4 沖田
立地・目印	丘陵地、南側緩斜面に立地し、県道からは南東に約500m地点に位置する。		標高	150～170m	種別	製鉄関連遺跡の可能性あり。
時　　期	近世		現況	山林	残存状況	良好
遺構・遺物	排滓場、平場？、鉄滓				文献	
備　　考	沢状のくぼ地に鉄滓が散布し、範囲は広い。また周囲に平場と思われる所もあるが、操業場所であったかは不明。					

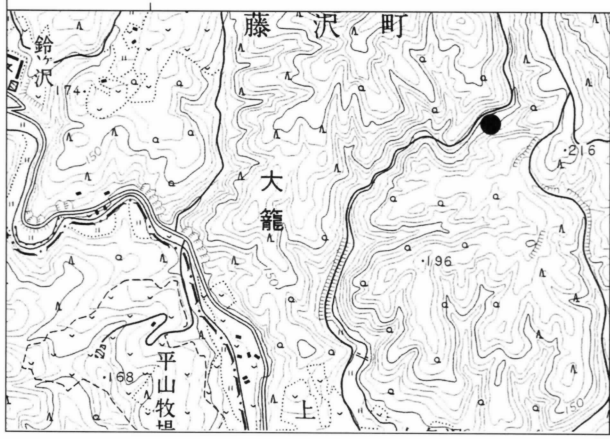


No.	73	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	沢入炯屋Ⅰ（さわいりどうやⅠ） 〔ＯＥ４２－１２２２〕			
所　在　地	西磐井郡藤沢町大籠沢の入				幅	NJ54-14-12-1 馬籠
立地・目印	山麓の斜面で沢野入沢川上流部、沢の左岸に立地する。		標高	約150～155m	種別	製鉄関連遺跡、縄文時代の散布地として周知されている。
時　　期	近世		現況	山林	残存状況	良好
遺構・遺物	高殿等の整地層、平場、排滓場、石積遺構１基、鉄滓				文献	
備　　考						

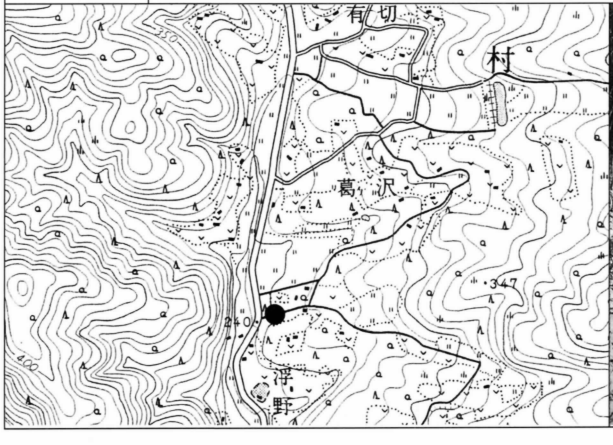




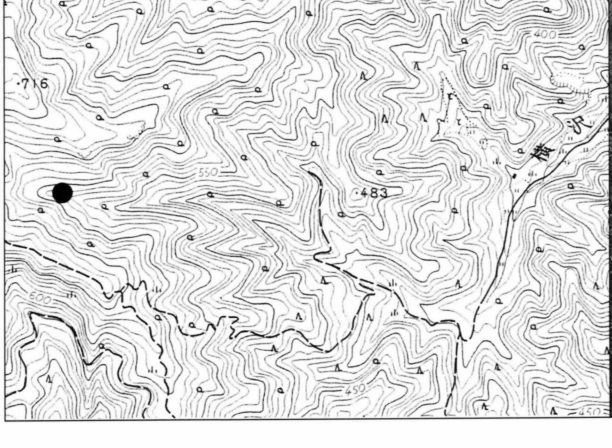
No.	74	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	沢入炯屋Ⅱ（さわいりどうやⅡ） <ＯＦ４２－１２１１>			
所　在　地	西磐井郡藤沢町大籠沢の入				図幅	NJ54-14-12-1 馬籠
立地・目印	山麓の斜面で沢野入沢川上流、沢入炯屋（１）よりさらに上流側にある。		標高	約200m	種別	製鉄関連遺跡の可能性あり。
時　　期	不明		現況	山林、原野	残存状況	良好
遺構・遺物	平場、排滓場、鉄滓				文献	
備　　考	溝状、窪状のところもあるが遺構かどうかの判断はできない。					



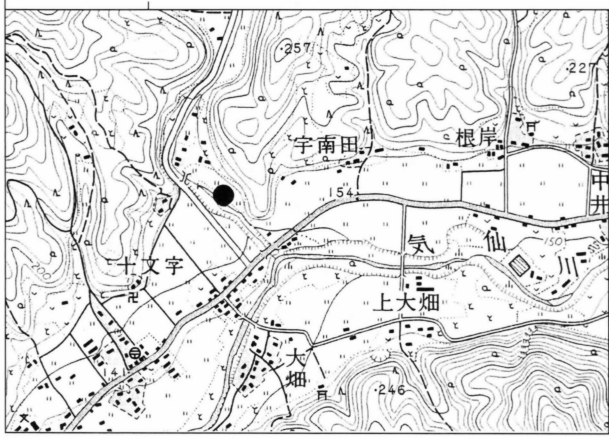
No.	92	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	浮野製鉄跡（うきのせいてつあと） <ＯＦ１２－２３５７>			
所　在　地	東磐井郡室根村津谷川浮野				図幅	NF54-14-11-2 津谷川
立地・目印	津谷川左岸、山麓地の西側緩斜面に立地し、本吉室根線に隣接する。		標高	241～250m	種別	浮野遺跡は縄文時代の遺物散布地として周知されている。
時　　期	近代		現況	山林、荒地、原野、道路	残存状況	一部破壊
遺構・遺物	整地層、排滓場、炉壁、鉄滓				文献	
備　　考	石碑（馬頭観音、八幡）周辺に鉄滓が散布している。					

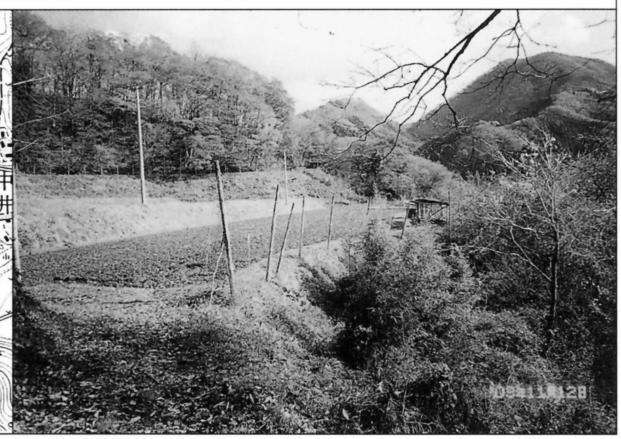


No.	118	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	横沢焙屋（よこさわどうや） <ＭＦ８４－２２１９>			
所　在　地	気仙郡住田町下有住奥新切（横沢上流）				図幅	NJ54-14-5-4 陸前八日町
立地・目印	山麓の東斜面に立地する。国道340号線の高瀬から西に約2.5km進み、横川林道を約4km北に進んだ地点に位置する。		標高	580～590m？	種別	近世の焙屋跡として周知されている。
時　　期	近世		現況	山林	残存状況	良好
遺構・遺物	凹地、平場、溝、石積、鉄滓				文献	
備　　考	過去の踏査記録なし？					

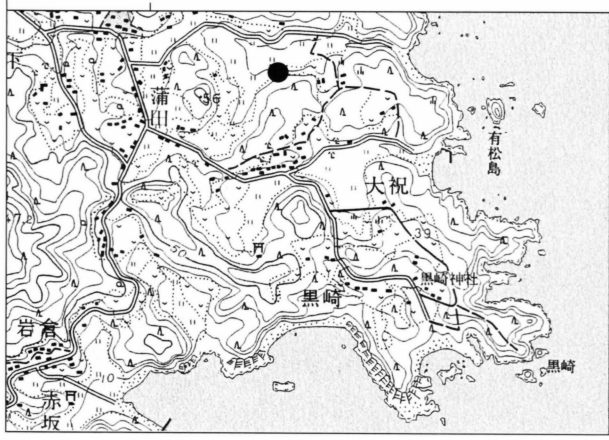


No.	120	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	廻館炯屋（まだちどうや） <MF９５－２３５３>			
所　在　地	気仙郡住田町下有住字十文字				図幅	NJ54-14-5-4 陸前八日町
立地・目印	新切川左岸の段丘上に立地し、国道340号線から蕨峠方向へ約300m地点に位置する。		標高	150～160m	種別	製鉄関連遺跡
時　　期	近世（20C）		現況	水田、農道	残存状況	破壊
遺構・遺物	多量の鉄滓が出土する。遺構は壊滅状態。				文献	19・20・96
備　　考	大正７年から1年間稼働。					

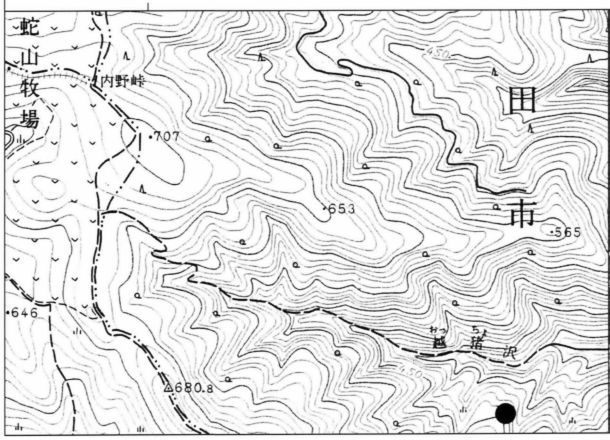




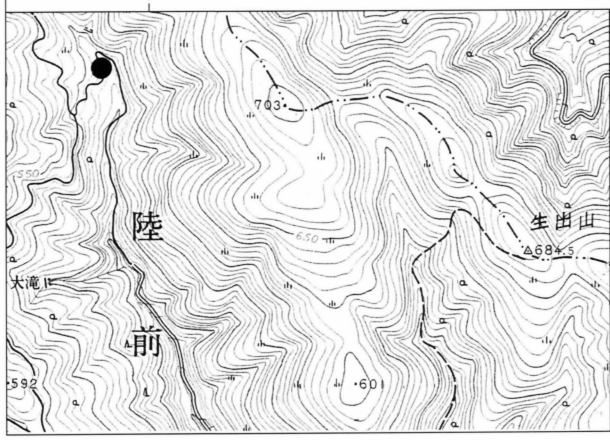
No.	133	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	大祝鍛冶場（おおいわいかじば） 〔ＮＦ８９－１１４０〕			
所　在　地	陸前高田市広田町字大祝				図幅	NJ54-14-3-3、7-1 陸前広田
立地・目印	段丘緩斜面に立地する。大祝遺跡の標識が目印になる。		標高	10m前後	種別	大祝遺跡は縄文時代の遺物散布地として周知されている。
時　　期	製鉄関連時期は不明		現況	荒地、畑地	残存状況	一部破壊
遺構・遺物	羽口、鉄滓、遮熱用壁板状土製品				文献	19・20
備　　考	資料は陸前高田市立博物館に保管されている。					



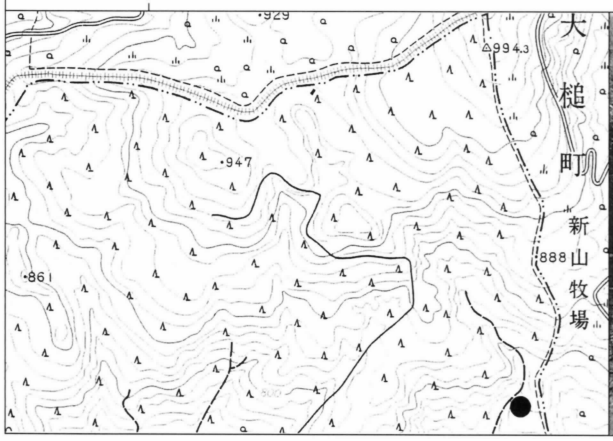
No.	141	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	越猪沢焙屋Ⅰ（おっちょざわどうやⅠ） <NF34－1090>				
所　在　地	陸前高田市矢作町字越猪沢				図幅	NJ54-14-10-1 鷹ノ巣山	
立地・目印	山地の南斜面に立地する。大松沢林道から西に約１km地点に削平地あり。		標高	440～450m	種別	製鉄関連遺跡	
時　　期	近世		現況	山林	残存状況	良好	
遺構・遺物	削平地、池（窪地）、鉄滓				文献	19・20	
備　　考							



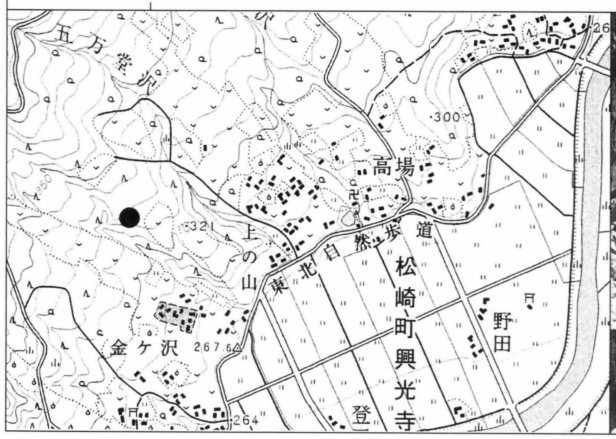
No.	158	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	宝生（勝）山焙屋（ほうしょうやまどうや） 〔NF23－2329〕 ドヤバ、ドウヤバ				
所　在　地	陸前高田市矢作町字的場				図幅	NJ54-14-10-1 鷹ノ巣山	
立地・目印	山麓の北西斜面に立地する。清水川から西大松沢林道を約5.6km進んだ地点に位置する。		標高	530～550m	種別	製鉄関連遺跡	
時　　期	近世（19C）		現況	山林、道路	残存状況	良好	
遺構・遺物	製鉄関連の遺構と考えられるものが存在し、鉄滓は大量に出土する。				文献	19・20・96	
備　　考	過去にも踏査が行われ、大量の鉄滓が見つかっている。						



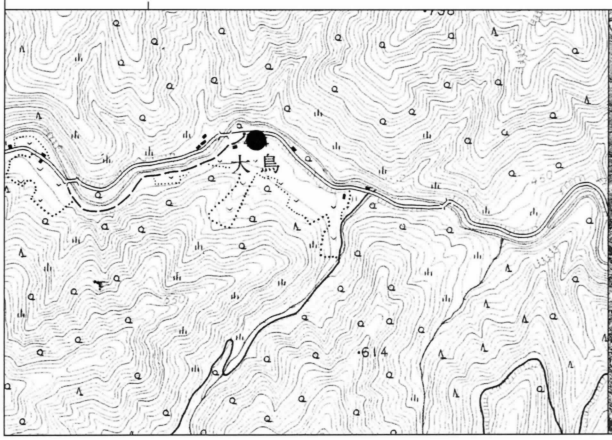
No.	207	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	初神３遺跡（はつがみ３） <ＭＦ２９－０２５６>				
所　在　地	釜石市橋野町				図幅	NJ54-13-8-2 能舟木	
立地・目印	山地の北側斜面に立地する。新山牧場より南側に位置する。		標高	870～890m	種別	製鉄関連遺跡	
時　　期	近世・不明		現況	山林	残存状況	良好	
遺構・遺物	高殿、諸施設のある整地面、排滓場、鉄滓、炉壁				文献		
備　　考	残存状況は極めて良好は状態である。						

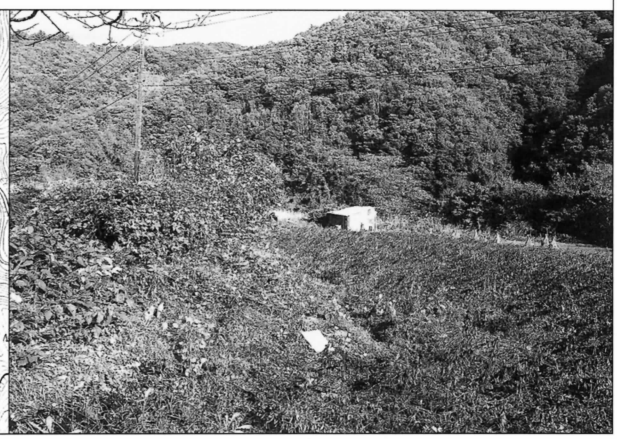


No.	221	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	上の山遺跡（うえのやま） 〔ＭＦ３４－２３８８〕				
所　在　地	遠野市松崎町光興寺字上の山				図幅	NJ54-13-8-4 土淵	
立地・目印	山麓の東斜面に立地し、横田城の西側に位置する。		標高	320～330m	種別	縄文・古代の遺物散布地として周知されている。	
時　　期	近世、不明		現況	原野、牧草地	残存状況	良好？	
遺構・遺物	高殿２、鍛冶場跡、鉄滓、炉壁				文献		
備　　考	松崎町内会発行『まつざき歴史がたり』（平成13年）						

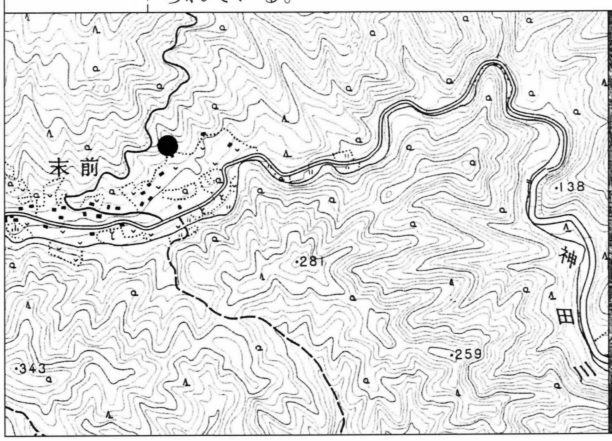


No.	226	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	大鳥Ⅱ遺跡（おおとりⅡ） 〔ＫＦ１７－００６４〕			
所　在　地	下閉伊郡岩泉町安家折壁				図幅	NJ54-13-5-1 安家
立地・目印	安家川右岸の段丘上に立地する。		標高	440～460m	種別	縄文時代の遺物散布地として周知されている。
時　　期	製鉄関連時期は不明		現況	畑	残存状況	不明
遺構・遺物	鉄滓、羽口				文献	なし
備　　考	大鳥伝説（落武者を案内した大鳥の住処）					

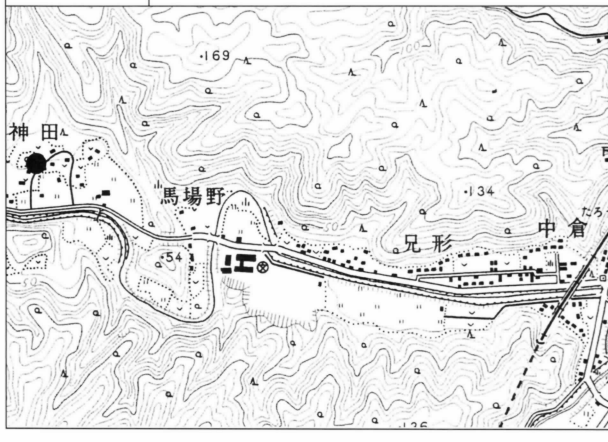




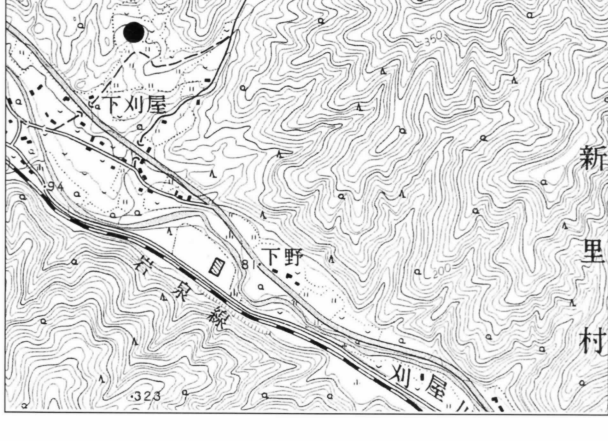
No.	250	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	末前保土馬遺跡（すえまえほどば） <ＫＧ９３－０１９０>			
所　在　地	下閉伊郡田老町大字末前第６地割字末前				図幅	NJ54-7-14-4 田老
立地・目印	山間部の沢地形、保土場沢の右岸側に立地する。		標高	220～230m	種別	製鉄関連遺跡の可能性あり。
時　　期	近世（18C）		現況	山林	残存状況	良好
遺構・遺物	高殿跡？、鉄滓				文献	なし
備　　考	家号を保土場とする西野家の伝承によると、家裏には鉄吹をした15代前の屋敷跡があると伝えられている。					



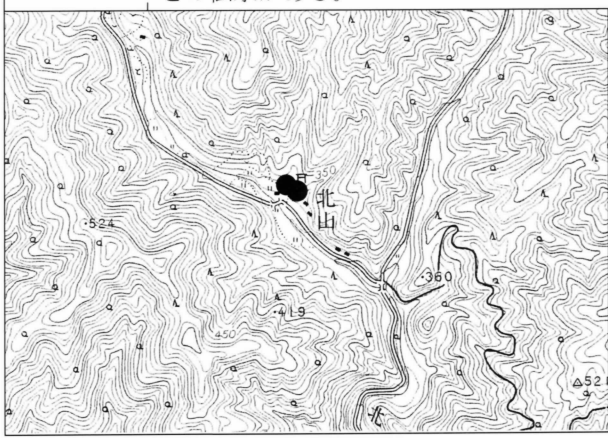
No.	253	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	神田北遺跡（かんだきた） 〔ＫＧ９３－２３３１〕		
所　在　地	下閉伊郡田老町第１８地割字舘ヶ森			図幅	NJ54-7-14-4 田老
立地・目印	神田川左岸に立地し、白山神社付近が目印。	標高	20～30m	種別	縄文時代の遺物散布地として周知されている。
時　　期	製鉄関連時期は不明	現況	山林、住宅等	残存状況	良好
遺構・遺物	鉄滓			文献	
備　　考					

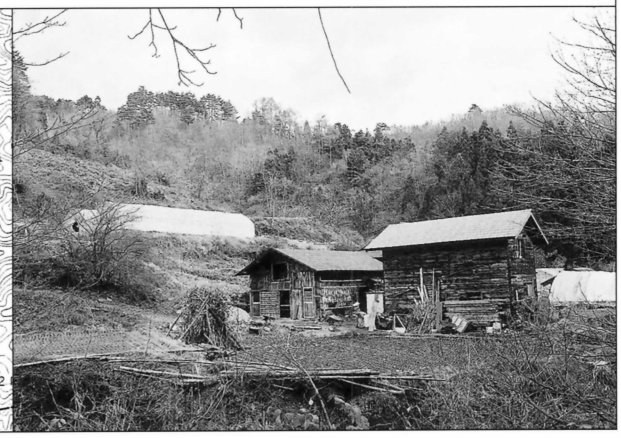


No.	254	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	後ヶ沢遺跡（うしろがさわ） <ＬＧ３０－００６９>		
所　在　地	下閉伊郡新里村刈屋１５手打ヶ洞			図幅	NJ54-13-3-3 茂市
立地・目印	後ヶ沢右岸の段丘上に立地し、国道340号線から北側に約300mの地点に位置する。	標高	140～150m	種別	製鉄関連遺跡の可能性あり。
時　　期	近世	現況	住宅、畑	残存状況	良好
遺構・遺物	堀場跡、鉄塊			文献	なし
備　　考	新里村教育委員会（2000）：新里中学校建設計画に係わる地表観察で鉄塊系遺物が表採されている。地権者後ヶ沢家の伝承では先祖が鍛冶屋であったといわれている。				

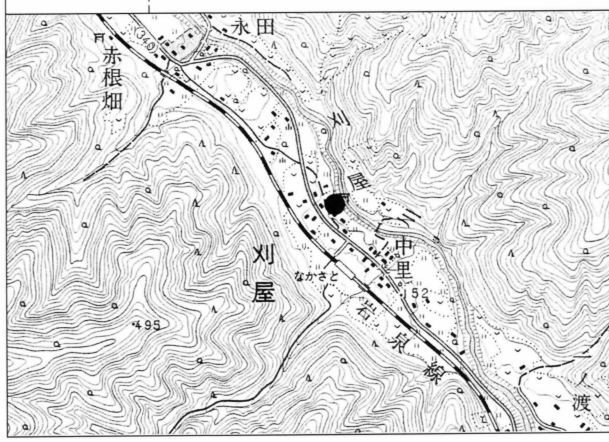


No.	258	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	北山芋沢遺跡（きたやまいもざわ） <ＬＧ２０－１０２２>			
所　在　地	下閉伊郡新里村刈屋北山				図幅	NJ54-13-3-3 茂市
立地・目印	北山川と芋沢に挟まれた斜面に立地する。常磐山大山祇神社が目印。		標高	310～340m	種別	製鉄関連遺跡の可能性あり。
時　　期	不明		現況	山林、住宅、水田	残存状況	一部破壊？
遺構・遺物	鉄滓、羽口				文献	100
備　　考	大家鳥取家、沢家鳥取家周辺に鉄滓が散見される。また、舘ヶ洞鳥取家に鉄滓集積地があったとの伝承がある。					

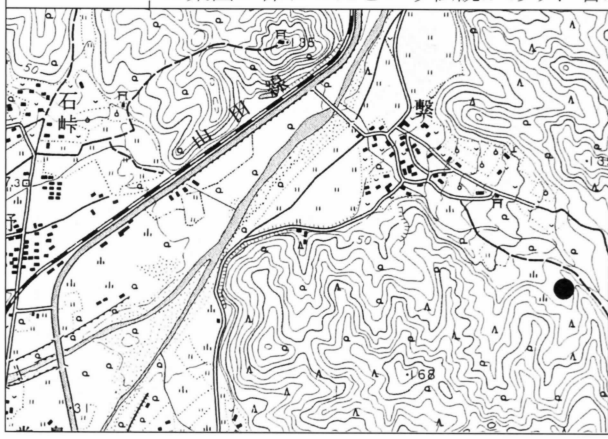




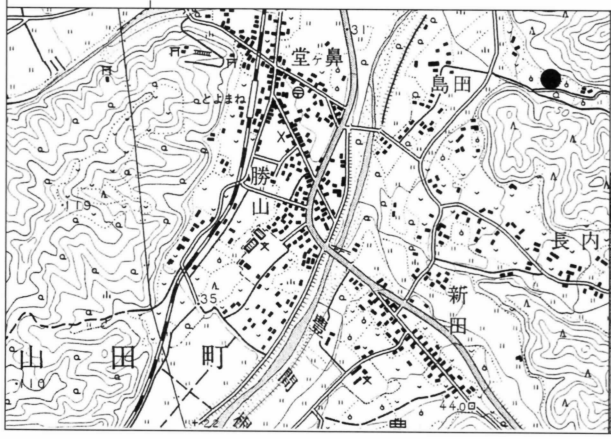
No.	260	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	刈屋中里Ⅱ遺跡（かりやなかさとⅡ） 〔ＬＦ２９－１１１６〕			
所　在　地	下閉伊郡新里村刈屋中里				図幅	NJ54-13-7-1 陸中川井
立地・目印	刈屋川右岸の河岸段丘上に立地し、ＪＲ岩泉線中里駅から北約250m地点に位置する。		標高	110～120m	種別	縄文・古代の複合遺跡として周知されている。
時　　期	製鉄関連時期は不明		現況	道路、住宅等	残存状況	良好
遺構・遺物	平場（神社境内）、鉄滓				文献	100
備　　考						



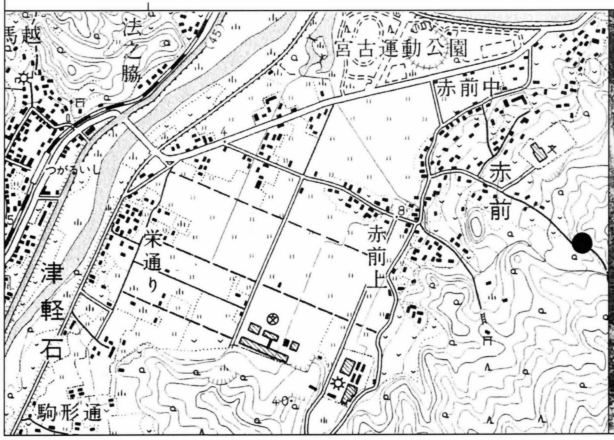
No.	271	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	繋Ⅱ遺跡（つなぎⅡ） <ＬＧ６４－２０８０>			
所　在　地	下閉伊郡山田町豊間根１繋				図幅	NJ54-13-3-2 津軽石
立地・目印	山麓の平場で繋Ⅰ遺跡・鈴掛神社から南東に約350m地点に位置する。		標高	60～70m	種別	製鉄関連遺跡の可能性あり。
時　　期	不明		現況	山林	残存状況	良好
遺構・遺物	平場、鉄滓				文献	94参考
備　　考	南西の沢地に「カラカンタイラ」という名があり、姥捨て伝説が残る。また、製鉄の操業に猿の集団が係わったという伝説があり、古地名は「猿田」、「二十四枚田」であったと伝承される。					



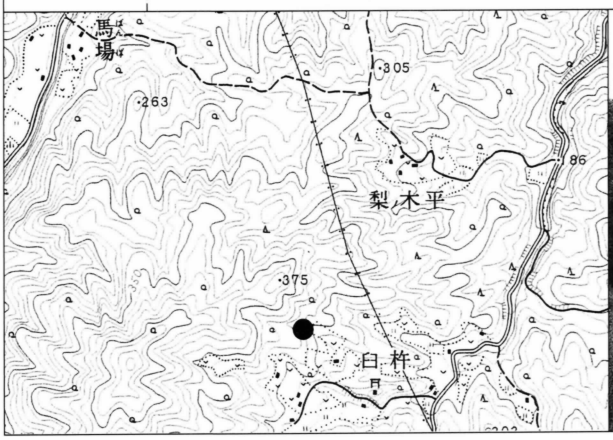
No.	272	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	島田Ⅳ遺跡（しまだⅣ） <ＬＧ７３－０３３１>			
所　在　地	下閉伊郡山田町豊間根４島田				図幅	NJ54-13-3-2 津軽石
立地・目印	山間部の沢地形で、島田沢右岸の段丘上に立地。島田鉱泉から西約600m地点に位置する。		標高	40～50m	種別	製鉄関連遺跡の可能性あり。
時　　期	不明		現況	住宅	残存状況	一部破壊
遺構・遺物	平場、鉄滓				文献	94参考
備　　考						



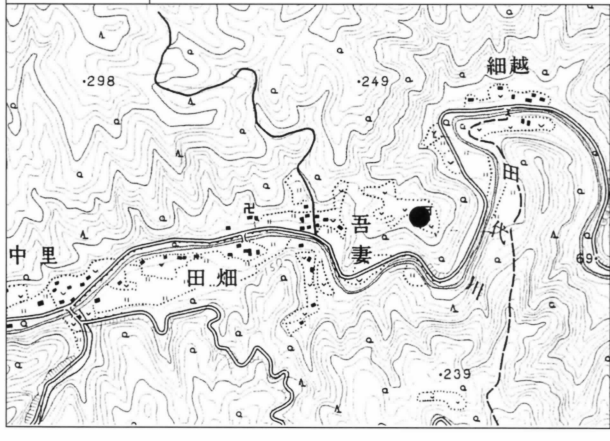
No.	273	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	赤前辰沢遺跡（あかまえたつざわ） <ＬＧ５４－１０４９>			
所　在　地	宮古市赤前				図幅	NJ54-13-3-2 津軽石
立地・目印	山麓の沢地形で辰沢右岸の斜面に立地。赤前中学校から南東約600m地点に位置する。		標高	55～65m	種別	製鉄関連遺跡
時　　期	不明		現況	山林	残存状況	一部破壊
遺構・遺物	平場、鉄滓、羽口				文献	
備　　考						



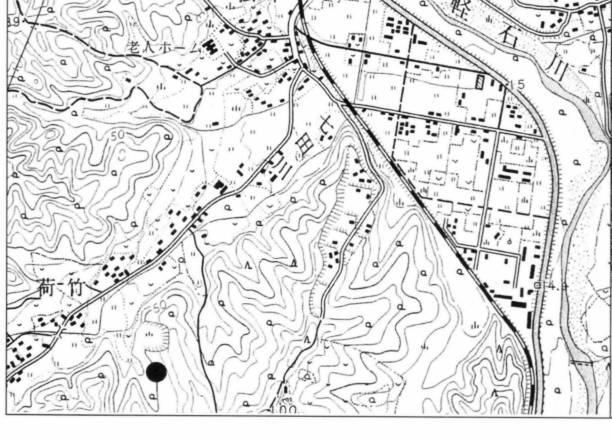
No.	276	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	臼杵Ⅳ遺跡（うすぎⅣ） 〔ＬＧ１２－１２７０〕			
所　在　地	宮古市田代第４地割田端				図幅	NJ54-7-14-4 田老
立地・目印	山麓の東側斜面に立地する。梨木平－馬場線から北約200mに位置する。		標高	290～300m	種別	遺物散布地として周知されているが、時期は不明。
時　　期	不明		現況	畑	残存状況	良好
遺構・遺物	平場、鉄滓				文献	69
備　　考	臼杵Ⅳ遺跡の西端部で遺構・遺物がみつかっている。					



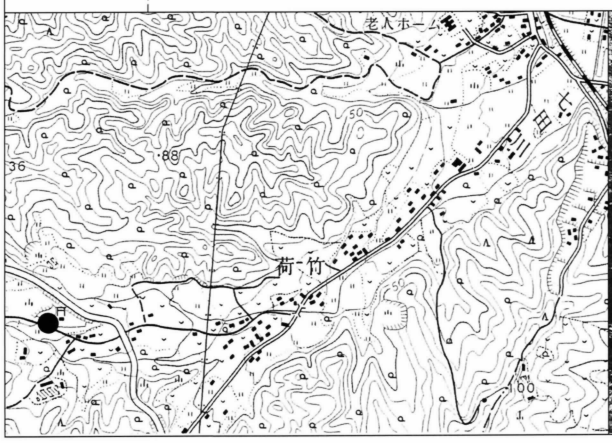
No.	280	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	田代館跡（たしろたてあと） 〔ＬＧ０３－２０３９〕			
所　在　地	宮古市田代第18地割舘				図幅	NJ54-7-14-4 田老
立地・目印	田代川左岸の段丘上に立地する。八幡神社あり。		標高	220～230m	種別	中世城館跡
時　　期	製鉄関連時期は不明		現況	山林、畑等	残存状況	良好
遺構・遺物	主郭等城館関連の遺構、鉄滓				文献	69
備　　考						



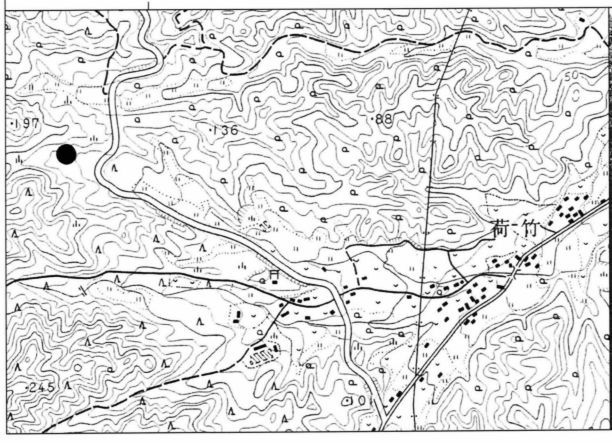
No.	287	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	荷竹日影Ⅱ遺跡（にちくひかげⅡ） 〔ＬＧ６３－０２８０〕・荷竹鍛冶ヶ沢			
所　在　地	宮古市津軽石第15地割荷竹日影				図幅	NJ54-13-3-2 津軽石
立地・目印	七田川支流のかんずが沢右岸の斜面に立地し、荷竹から石峠方面に向い約300m地点に位置する。		標高	40～50m	種別	遺物散布地として周知されているが、時期は不明。
時　　期	不明		現況	山林	残存状況	一部破壊
遺構・遺物	鉄滓、羽口、土器				文献	69
備　　考	林道の法面にあり、一部崩落している。					



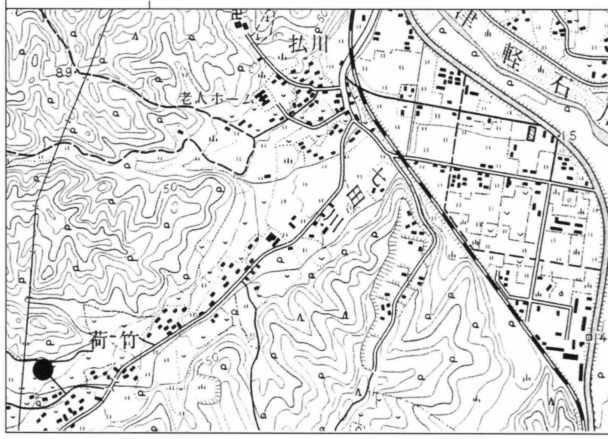
No.	290	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	荷竹米山Ⅰ遺跡（にちくよねやまⅠ） 〔ＬＧ６３－０１９０〕			
所　在　地	宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山				図幅	NJ54-13-3-2 津軽石
立地・目印	山麓の東側斜面に立地し、米山神社に隣接する。		標高	60～70m	種別	縄文・弥生・古代の集落跡として周知されている。
時　　期	不明		現況	山林	残存状況	一部破壊
遺構・遺物	住居跡、炉跡、羽口？、鉄滓？、須恵器				文献	69
備　　考						



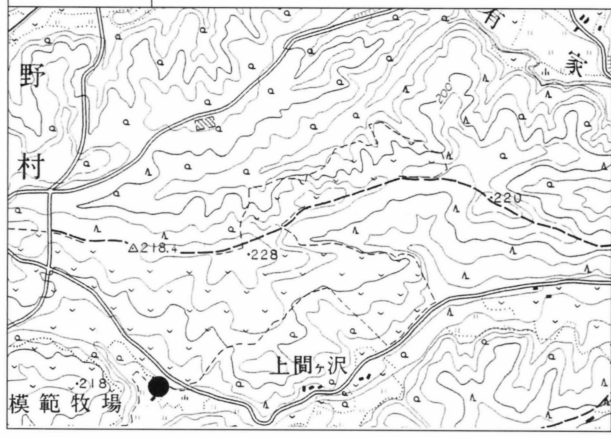
No.	292	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	荷竹米山Ⅴ遺跡（にちくよねやまⅤ） 〔ＬＧ６３－００５４〕			
所　在　地	宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山				図幅	NJ54-13-3-2 津軽石
立地・目印	笹畑沢左岸の段丘上に立地し、県道から西約100地点に位置する。		標高	120～130m	種別	遺物散布地として周知されているが、時期は不明。
時　　期	不明		現況	山林	残存状況	良好
遺構・遺物	平場、鉄滓				文献	69
備　　考						



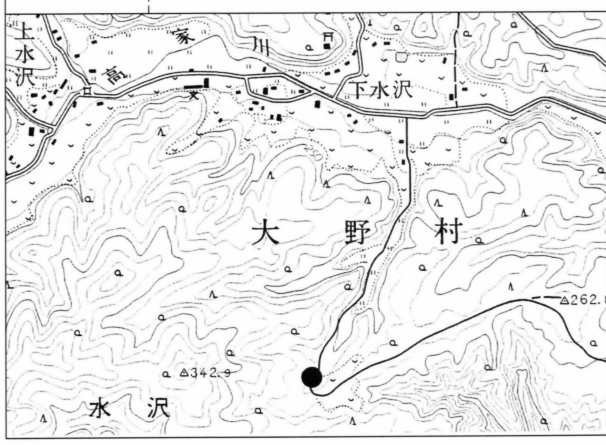
No.	296	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	荷竹日向Ｖ遺跡（にちくひなたＶ） 〔ＬＧ６３－０１７４〕			
所　在　地	宮古市津軽石第16地割荷竹日向				図幅	NJ54-13-3-2 津軽石
立地・目印	笹畑沢左岸の段丘上に立地し、県道から西約150地点に位置する。		標高	35～45m	種別	縄文散布地として周知されている。
時　　期	製鉄関連時期は不明		現況	畑	残存状況	一部破壊
遺構・遺物	鉄滓				文献	69
備　　考	東西400mの農地全域に鉄滓の散布がみられる。					



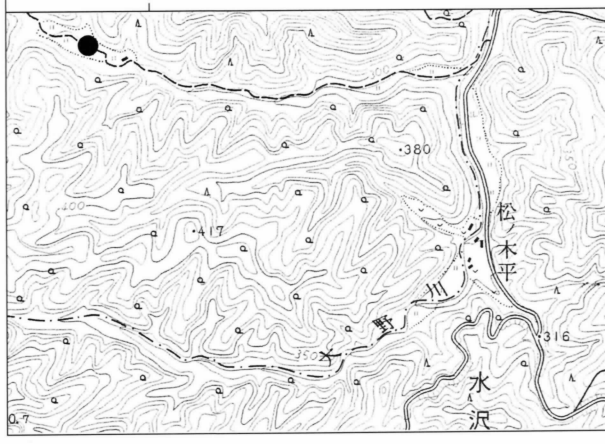
No.	319	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	青笹鉄山（あおささてつざん） <ＩＦ９７－１３２４>			
所　在　地	九戸郡大野村大野第56地割上間沢				図幅	NF54-18-7-1 陸中大野
立地・目印	段丘の南側緩斜面に立地する。道の駅大野から北東約１km地点に位置する。		標高	175～185m	種別	製鉄関連遺跡
時　　期	近世		現況	原野、宅地	残存状況	一部破壊
遺構・遺物	高殿、排滓場、鍛冶場、炉壁、流出滓、鍛冶滓				文献	70
備　　考	文政12年に青笹鉄山の佐々木清作が寄進した初湯が東大野の神明社に保管されている。					



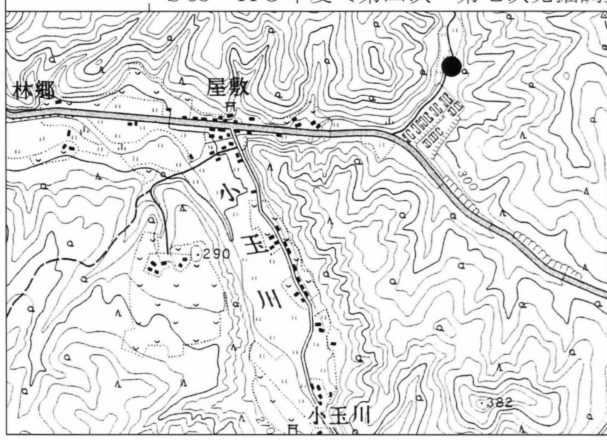
No.	331	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	金間部鉄山（かなまぶてつざん） 〔ＪＦ１７－０２９７〕・金間部Ⅱ遺跡		
所　在　地	九戸郡大野村水沢第10地割			図幅	NF54-18-7-2 大川目
立地・目印	山麓の西側斜面に立地し、水沢小学校から南東約１km地点に位置する。	標高	255～265m	種別	縄文・平安時代の遺物散布地として周知されている。
時　　期	近世	現況	山林、原野	残存状況	良好
遺構・遺物	高殿、排滓場、平場、製鉄滓、鍛冶滓、炉壁			文献	70
備　　考	旧民家の西側に採掘坑跡（カナホッパ）があり砂鉄採掘場として文献にあり				



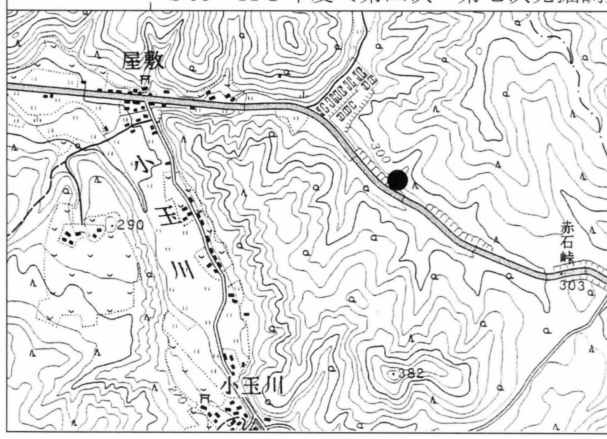
No.	347	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	葛柄鉄山（くずがらてつざん） 〔ＪＦ０６－２１０１〕		
所　在　地	九戸郡軽米町小軽米字市野々			図幅	NF54-18-7-4 戸呂町
立地・目印	大野川沢左岸の段丘上に立地・大野川線沿いに位置する。	標高	300～320m	種別	製鉄関連遺跡として周知されている。
時　　期	近世	現況	畑地	残存状況	良好
遺構・遺物	鉄滓			文献	39・40・41
備　　考					

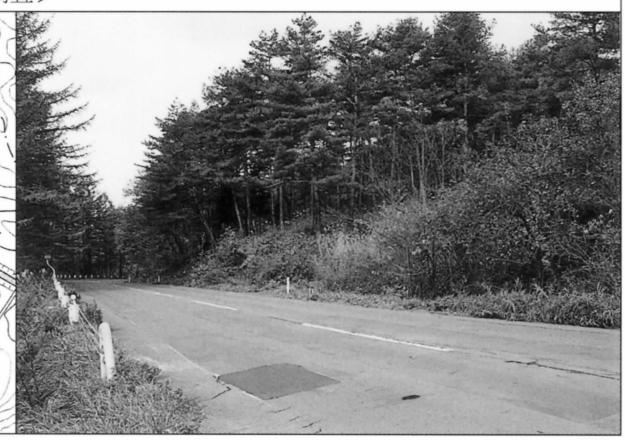


No.	350	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	玉川鉄山A（たまかわてつざんA） 〔ＩＦ９５－１３８４〕			
所　在　地	九戸郡軽米町大字小軽米字屋敷				図幅	NF54-18-7-3 小軽米
立地・目印	丘陵地の緩斜面に立地し、国道395号線を北上し、たたらの沢沿いに位置する。		標高	280～290m	種別	製鉄関連遺跡として周知されている。
時　　期	近世		現況	山林	残存状況	良好
遺構・遺物	高殿、鉄滓、炉壁、金属製品、古銭、陶磁器				文献	18・40・41
備　　考	Ｓ60～62年度<第一次～第三次発掘調査>　軽米町教育委員会　　<県指定史跡> Ｓ63～Ｈ３年度<第四次～第七次発掘調査>　　〃					

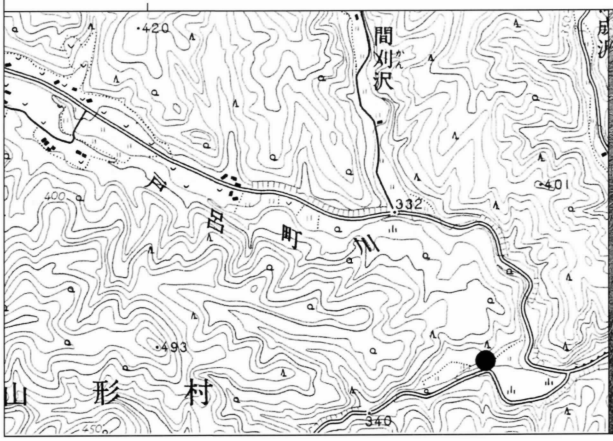


No.	351	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	玉川鉄山B（たまかわてつざんB） 〔ＩＦ９５－２３２５〕			
所　在　地	九戸郡軽米町大字小軽米字屋敷				図幅	NF54-18-7-3 小軽米
立地・目印	丘陵地の緩斜面に立地し、国道395号線沿いで玉川鉄山Ａ入り口より東約400m地点に位置する。		標高	290～300m	種別	製鉄関連遺跡として周知されている。
時　　期	近世		現況	山林	残存状況	良好
遺構・遺物	高殿、鉄滓、炉壁、鉄製品、石器、古銭、陶磁器				文献	18・40・41
備　　考	Ｓ60～62年度<第一次～第三次発掘調査>　軽米町教育委員会　　<県指定史跡> Ｓ63～Ｈ３年度<第四次～第七次発掘調査>　　〃					

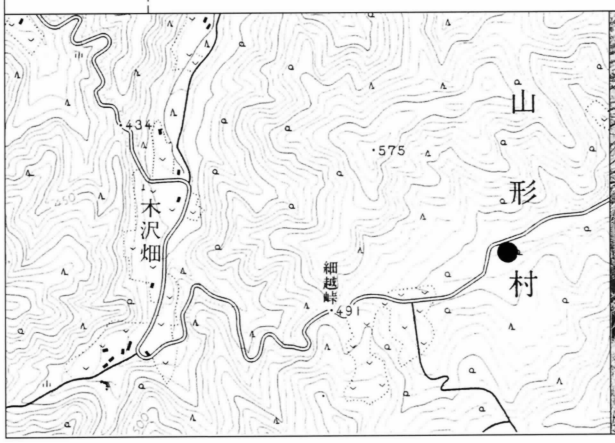


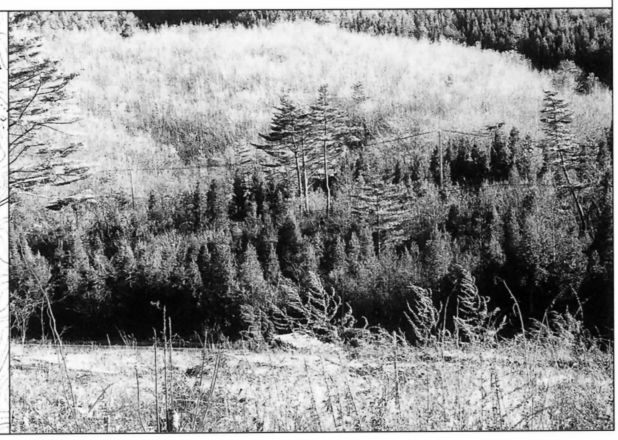


No.	374	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	金取鉄山跡（かねとりてつざんあと） 〔ＪＦ２５－１３２１〕		
所　在　地	九戸郡山形村大字戸呂町４地割			図幅	NF54-18-7-4 戸呂町
立地・目印	戸呂川の支流沢左岸に立地し、戸呂町軽米線と大野山形線の分岐点から西に約2.5km の位置する。	標高	320～330m	種別	鉄山跡として周知されている。
時　　期	近世	現況	山林、水田	残存状況	一部破壊
遺構・遺物	鉄滓			文献	42
備　　考	Ｈ２年度試掘調査・・・山形村教育委員会				



No.	381	遺跡名・遺跡コード〔　〕・ 位置コード<　>・別称	繋鉄山跡（つなぎてつざんあと） 〔ＪＦ５７－０１００〕		
所　在　地	九戸郡山形村大字繋３地割			図幅	NF54-18-8-1 岩瀬張
立地・目印	山間の沢沿いに立地し、繋小学校から細越峠方面に約1.7km の位置する。	標高	420～430m	種別	鉄山跡として周知されている。
時　　期	近世	現況	山林	残存状況	良好
遺構・遺物	鉄滓、フイゴ羽口片、古銭、陶磁器片			文献	43
備　　考	Ｈ２年度試掘調査・・・山形村教育委員会				





第３章　調査結果から見た岩手県の製鉄関連遺跡

これまでの調査結果をまとめると、岩手県内で鉄加工の痕跡が最初に現れるのが水沢市中半入遺跡で、５世紀代である。７世紀以降増加する古代の集落遺跡からも鉄製品や鍛冶加工の痕跡が現れており、加工技術の普及が伺える。特に山田町・大槌町などの沿岸部では８世紀代に鍛冶工房が増加する。

岩手県内で確認されている製鉄遺跡は山田町上村遺跡の８世紀代後半であるが、年代の決め手となる土師器片が排滓場から出土しているものの、炉の構造等が他の先行する鉄生産地と異なり、技術伝搬の上から問題が残る。802年に胆沢城が築かれ北上川流域の開発が進むと製鉄の道具の需要が高まり、９世紀前半には石鳥谷町大瀬川Ａ遺跡などでも製鉄が開始される。しかし、古代の製鉄の中心になったのは良質な砂鉄が豊富に産出する沿岸部で、宮古市・山田町・大槌町などでは、９世紀に製鉄炉が増加し、鍛冶工房もさらに多くなり、10世紀でピークを迎え、一部11世紀まで継続するが、その後は不明瞭となる。

古代の鉄生産に限らず、海産物の交易も含め、内陸と沿岸の交流は活発であったと思われるが、宮古市長根Ⅰ遺跡と山田町房の沢Ⅳ遺跡では海を見下ろす尾根上に築かれた古墳群から蕨手刀をはじめとする多くの鉄製品・和同開珎や湖西産の須恵器・黒曜石や錫釧などの副葬品が出土し、律令政府や東海地方から北方まで広い範囲と交易していた人々がいたことが明らかになっている。

古代三陸海岸の製鉄炉の形は半地下式の竪形炉だったようであるが、送風装置は明瞭でない。作業場のスペースからシーソー式の送風でないのは確実であり、８世紀前半に多賀城市柏木遺跡まで導入された製鉄法とは明らかに異なる。時代が下るにつれ大型の製鉄炉もみられるものの、構造的にはあまり認められず、ほかの地域と異なる発展を遂げたようでもある。

遺構は緩い傾斜地に作られ、上方に送風や原料投入の作業面が下方に排滓や選別の作業面が形成され、さらに下方に排滓場がみられることが多い。炉底には防湿を目的とした炭化物層などの簡単な地下構造があり、残存する炉壁は還元色を呈する。排滓は黒色または赤さび色をし、流出した形状を留めることが多い。操業回数にもよるが排滓と炉壁片や羽口片が混入しており、量も数百kg と多量であることが多い。炉壁にはスサが混入する例が多い。

鍛冶炉は、住居跡や独立した工房に営まれ、平坦な整地面に作られる。直径30cm 前後の赤く酸化したボール状の窪みで、隣接して鉄砧石が設置され、周囲に鍛造剥片がみられる。炉の一部に鞴羽口の設置痕が残ることもある。鍛冶滓の形状は、炉の窪みを写した椀形を呈する。また、製鉄炉で作られた鉄素材を精錬したとみられる炉もあり、こちらは鍛冶炉よりやや大きめで、壁に還元色が残ることもある。椀形滓も大型のものが多い。

三陸海岸は現在でも平地が少なく、これらの製鉄関連遺跡はわずかな広さでも利用しており、狭い尾根上に築かれることもあり、所在確認が困難である。そのため遺跡の発見は林道作業道の法面などで偶然発見されることが多い。

大瀬川Ａ遺跡の製鉄技術は、志波城建設後の開拓に伴う技術者たちが持ち込んだ可能性があるが、製鉄遺跡の発掘事例のない時期の調査でもあり、その構造は明確でない。また、原料砂鉄が豊富な地域ともいえず、同地区で操業が長く継続した痕跡はない。馬淵川流域の一戸町大平遺跡でも古代の小規模な製鉄炉が検出されているが、継続して操業された形跡はない。

宮古市千徳館跡で調査された中世とされる製鉄炉は、古代の炉の形態が大型化したもののようで

あるが、中世の発掘資料は少なく断定できない。砂鉄地帯から離れた花泉町寺の沢遺跡では小舟状の石組みの地下構造と多量の鉄滓・炉壁が出土している。そのほか中世の製鉄関連遺跡として、江刺市寺田遺跡で鋳造遺跡が、また宮古市山口館や一戸町一戸城などの中世城館で鍛冶工房が検出されている。

仙台藩では近世はじめに中国地方から積極的に新しい製鉄技術を導入し、増産を計った。炉材や差し鞴など送風装置の改良が大きな成果を上げたようで、その技術を他藩にも指導したので、南部藩はそれをも吸収し、近世後半には東日本を代表する製鉄地帯となったとされている。

東磐井郡は砂鉄川や津谷川など風化花崗岩地帯を流れる川沿いに砂鉄採集の鉄穴（カンナ）流しの遺跡が多く残る。山中に用水路の跡（セキシロ）や貯水池の跡（ツツミ）が残り、水路を切り替えして流した跡が並行する涸れ沢となり、風化した花崗岩礫が寄せ集められ、異様な景観として残っている。砂鉄の採集地から製鉄地までの輸送路はスガネ道と呼ばれ、室根村津谷川から藤沢町保呂羽や千厩町尖の森に越える道や大東町内野から京津畑陸前高田市矢作町に越える道など、いまでもいくつか痕跡を留めている。製鉄炉は沢沿いに作られるのが一般的であるが、水気の少ない山上に作られている所もある。排滓は良好な製鉄技術を反映しているものか、よく発泡してスポンジ状になっているものが多い。

遠野市・釜石市・大槌町が接する和山高原や新山高原には鉄滓の山が多くあることが知られており、花崗岩地帯の砂鉄と周辺の豊富な森林を使用して製鉄が大規模に行われてきたことがあきらかである。時代の特定や変遷など未解明のことが多いが、18世紀初めに青ノ木での製鉄記事があることや栗林地区で針金作りが盛んだったこと等、高炉以前にも釜石周辺でたたら製鉄が盛んに行われていたことが明らかである。

九戸・下閉伊地方の製鉄遺跡は沢沿いあるいは沢の合流する高台に形成されることが多く、かなり下流まで鉄滓が観察される。鉄滓をたどって遡上すると排滓場にたどり着くことになるが、途中で途絶えることもある。それは砂防ダムや養鶏場の建設など土木工事により遺跡が壊滅したことや道路に敷いた鉄滓の流れ込みがあったことなどが原因のようである。また、文献に載る大きな鉄山だけでなく、私炉あるいは野だたらと呼ばれる小規模な遺跡もある。製鉄炉に使用された粘土や珪石の採掘地も所により残っている。

藤沢町ドウメキ沢鉄山や岩泉町江川鉄山・軽米町玉山鉄山・梅の木沢製鉄遺跡などの近世製鉄の発掘調査で地下構造が明らかになり、永代たたらに連なる小舟構造が存在することも明らかになったが、小舟構造を持つ炉は定着しなかったようである。地下構造は粘土と石で築いた舟状の防湿施設を作り、内部に木炭層を充填するのが基本で、その上に炉を築いている。また炉底以外の周囲も焼け土などほかの土砂で版築し、４本の押立柱で支えられる高殿内を整地している。鉄山の周囲には述べ鉄に加工する大鍛冶場や諸施設が作られ、周囲を柵で囲っていた記録があり、カゴイという地名が残されているところもある。

近世の製鉄遺跡は砂鉄源となる花崗岩地帯と段丘砂鉄の分布する東磐井郡から気仙地方と閉伊から九戸地方に分布するが、一戸町西嶽鉄山や浄法寺町銭座跡のように非花崗岩地帯に立地する例がある。鉄鉱石を利用する以前のたたらであるので、その原料砂鉄確保について今後も追究する必要がある。また、生産コスト削減や加工技術向上等の努力は続けられており、幕末には天秤鞴や水車鞴の導入が行われている。高炉製鉄操業後も砂鉄を利用した川崎製鉄久慈工場は昭和42（1967）年まで操業されたほか、八戸市では下北半島の海岸砂鉄を原料とした電気炉や高周波炉による製鉄が昭和52年まで操業された。

大島高任の高炉製鉄成功後、鉄鉱石利用の高炉が大橋・橋野・栗林・砂子渡（以上釜石市）・佐比内（遠野市）に展開し、仙台藩の高炉が文久山・京津畑（以上大東町）にも操業された。釜石地区はその後官営になり、大規模な製鉄所として出発したが失敗し、民営化した発展した。文久山の系譜は栗木鉄山（住田町・1885～1920）として、また和賀地方の赤鉄鉱を使用した和賀仙人製鉄所（旧和賀町・1900～1920）が近代産業として日本の産業や地域経済に貢献した。

新沼鐵夫は、橋野高炉の発掘を企画し、実現させた富士製鉄職員であり、実家は釜石で「てつや」という旅館を経営していた。当時の所長が新沼氏の業績を高く評価し、製鉄実験や遺跡調査等を精力的に行い、磁鉄鉱の転石の一種である餅鉄を使って日本刀の原材料研究に打ち込んだが、思い半ばで倒れた。

菊池春雄氏は、貞任山が遠野に２つあり、製鉄に関連していることに興味を持ち、製鉄遺跡の踏査を始めたようだ。教員の定年前に退職し、夫人に生活を支えてもらって製鉄遺跡踏査を行ったといわれている。遺跡の種類や時期による違いなども検討したようだが、東日流外三郡誌に大きな影響を受け、独自の製鉄史を展開した。調査カードによると1988年12月の山田町の遺跡から始まり、1993年７月22日の山田町山ノ内Ⅱ遺跡の現地説明会まで、500以上のカードが作成されている。岩手県内が中心であるが、隣接する宮城県・秋田県・青森県にも多く足を運び、その精力的な調査足跡には驚嘆する。岩手県内だけでも396箇所を踏査あるいは情報収集している。後半は調査の間があき、ほぼ終了という感があり、また、体調を悪くした様子が現れているようでもある。

千葉房夫氏は東磐井の町村史をまとめるという理念のもと仙台藩領の製鉄史の研究に打ち込んだ。主に文献調査であるが晴耕雨読で膨大な資料を残した。

芦文八郎は芦東山先生の末裔として、文久山鉄山を築いた芦文十郎の事跡や祖先が広く東磐井の鉄山を経営した記録や史跡の調査を行いまとめている。国語の教師を退職後、芦東山先生記念館の館長をし、大東町の文化財調査を行っている。

第４章　製鉄遺跡調査のまとめ

今回、岩手県教育委員会が行った製鉄関連遺跡の悉皆調査は、生産遺跡として非常に重要であるが、人里離れた山中に存在することが多く、把握は難しい面があるが、早急に基礎資料の蓄積が求められているという状況に対応して行われたものである。

鉄の生産遺跡に限らないが、人類の生活痕跡はそのまま保存されることは少ない。立地条件の良い居住域は繰り返し利用され、古い遺跡の上に新しい生活が営まれる。また、特別の条件で立地する遺跡でも、部材がリサイクルされるために移動することがある。不幸にして人目に触れないまま自然災害や開発の波にのまれ壊滅する場合もある。

古代から近世までの製鉄関連遺跡は、炉床や炉壁あるいは炉の地下部分と排滓場、建物痕跡などと、建物としては工具や羽口・鉄砧石・排滓などが残る。排滓の一部は、鉄材不足の時期に鉄分回収のために搬出された所もある。また林道建設や道路補修の骨材として利用されたこともあり、本来あった場所から移動している場合もある。そのため確認される遺物の量や種類・出土状況を吟味した上で遺跡の設定をする必要がある。

近代高炉は切石や耐火煉瓦などで構築されているが、それだけに建築資材としての利用価値が高く、選び出したものも少なくない。建物の門や土台などになり、記録や伝承の残る場合もあるが、運び出したときの遺跡情報の記憶は、代替わりした時点で途絶えることも多く調査が困難になっている。

また、これまでに多くの研究者によって県内の製鉄関連遺跡が調査されているが、遺跡登録のシステム上、市町村あるいは県の遺跡地図や台帳にそのすべてが掲載されているとはいえない。今回、多くの方々の協力を得て３年間で県内隈無く調査を行い、その結果を集約するように努力したが、諸々の制約もあり必ずしも全ての遺跡を網羅していないと思われる。

調査の結果、過疎地だけでなく、人為的な地形の改変や自然の荒廃などが進み、実態が不明な遺跡もあることが明らかになった。逆に、新たに発見された遺跡もある。中でも下閉伊地方の遺跡数の増加は群を抜いており、古代から鉄生産の中心地であったことが明確になったようである。

製鉄関連遺跡を含めた生産遺跡については、時代にもよるが原料採取から生産、そして廃棄、場合によっては再利用などいろんな行程がある。どの作業工程の遺跡が分布調査で確認できるのか、時期や場所により把握が困難な問題でもある。特に砂鉄採集地の鉄穴流の跡などは広大で全体の状況確認が難しい。近世製鉄に関連し、たとえば室根村教育委員会では、遺跡調査と文献資料の研究成果を組み合わせ、鉄穴流遺跡も地域の重要な歴史遺産として把握している。

今回の調査で現地確認できなかった地区でも、市町村教育委員会で発行した諸調査報告書や先人の調査記録に残る遺跡で確実性が高いものはこの報告書には参考資料として採用している。今後も新たに加わる遺跡が増加する可能性はあるが、随時その資料も組み込んで調査研究を進めて頂き、遺跡の保存・活用に役立てて頂ければ幸いである。

第11表　岩手県内製鉄遺跡関連文献一覧表（1）

NO	著　　者	刊行年	論文名・書名	雑誌名・シリーズ名	巻数・号数	発　　行　　所
1	浅岡康二	1984	鍛冶の民俗文化			開明堂
2	浅岡康二	1986	鉄製農具と鍛冶の研究			法政大学出版局
3	芦文八郎	1983	採鉱と冶金	講座日本技術の社会史	第５巻	日本評論社
4	芦文八郎	1988	仙台藩洋式高炉のはじめ　文久山			芦東山先生記念館
5	芦文八郎	1991	大東町の鉄文化			
6	穴沢義功	1985	たたら製鉄	季刊考古学	第13号	雄山閣出版
7	飯田賢一	1976	鉄の語る日本の歴史上・下	そしえて文書１・２		そしえて書房
8	飯田賢一	1982	日本人と鉄			有斐閣
9	板橋 源	1973	文久鉄山遺跡第二次調査略報			岩手県教育委員会
10	板橋 源ほか	1968	一関市舞草製鉄遺跡発掘略報			一関市教育委員会
11	伊藤清司	1949	近世鉱山経営における木炭の意義（草稿）（上）	岩手史学研究	４号	岩手史学会
12	岩手県埋蔵文化財センター	1986	駒板遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	第98集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
13	岩手県埋蔵文化財センター	1986	関沢口遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	第95集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
14	岩手県埋蔵文化財センター	1988	飛鳥台地Ⅰ遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	第120集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
15	岩手県埋蔵文化財センター	1989	夏本遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	第134集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
16	岩手県埋蔵文化財センター	2004	杉の堂遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	第425集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
17	岩手県埋蔵文化財センター	2004	中半入遺跡第２次発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	第443集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
18	岩手県立博物館	1990	北の鉄文化			岩手県文化振興事業団
19	梅木卓二	1989	藩政時代気仙炭屋製鉄史			陸前高田市郷土史研究会
20	梅木卓二	1994	気仙地方の製鉄	みちのくの鉄－仙台藩炭屋製鉄の歴史と科学－		㈱アグネ技術センター
21	岡田廣吉	1978	岩手県戸呂町小学校所蔵の水車式製鉄法の模型について	日本工業会誌	94	
22	岡田廣吉	1981	幕末の高炉用吹子成立と在来製鉄法への展開	産業考古学論文特集号		
23	岡田廣吉	1983	釜石鉄鉱山地域の延鉄(錬鉄)製造法	日本製鉄史論集		たたら研究会
24	岡田廣吉	1983	ザンギの研究	地学研究34（-12）		日本地学研究会
25	岡田廣吉	1986	幕末から明治の高炉遺跡	日本の産業遺産		玉川大学出版
26	岡田廣吉	1987	ヒュゲーニンによる高炉の叙述と釜石鉄鉱山	鉄と鋼第73年	第14号	
27	岡田廣吉	1988	釜石鉱山の開発－「鉱部省沿革報告」を巡って－			昭和63年度資源・素材関係学協会合同秋期大会
28	岡田廣吉	1988	南部領の「鉄山」と「鉄鉱山」について			
29	岡田廣吉	1989	岩手県釜石市沢桧川流域の大蕨高炉－再論－			社団法人資源・素材学会
30	岡田廣吉		仙台領の高炉製鉄	仙台郷土史研究	四巻二号	
31	岡田廣吉・加藤清一	1972	岩手県白山鉱山産褐鉄鉱について	たたら研究	16号	たたら研究会
32	岡田廣吉・加藤清一	1972	いわゆる「鮮鉄」について	たたら研究	16号	たたら研究会
33	岡田廣吉・宍倉圭介	1987	佐比内鉄鉱山の発掘調査	金属87-8		
34	岡田廣吉ほか	1989	陸中閉郡室場鉄山関係史	たたら研究	34号	たたら研究会
35	加藤 孝	1978	宮古市千徳遺跡発掘調査概報			宮古市教育委員会
36	鎌田裕二	1988	青サルⅠ遺跡	宮古市埋蔵文化財報告書	第14集	宮古市教育委員会
37	高橋信雄ほか	1988	玉川鉄山跡－第一期発掘調査報告書－			軽米町教育委員会
38	佐々木清文ほか	1992	玉川鉄山跡－第二期発掘調査報告書－			軽米町教育委員会
39	本宮雄輔	1997	軽米町遺跡分布調査報告書１（大字小軽米地区）			軽米町教育委員会
40	軽米町教育委員会	2001	軽米町遺跡地図	軽米町文化財調査報告書	第16集	軽米町教育委員会
41	軽米町誌編纂委員会	1975		軽米町誌		軽米町
42	川向石造ほか	1990	山形村遺跡分布調査報告書１	山形村埋蔵文化財調査報告書	第１集	山形村教育委員会
43	川向石造ほか	1991	山形村遺跡分布調査報告書２	山形村埋蔵文化財調査報告書	第３集	山形村教育委員会
44	川向石造ほか	1992	山形村遺跡分布調査報告書３	山形村埋蔵文化財調査報告書	第４集	山形村教育委員会
45	館 充ほか	2003	近世たたら製鉄の歴史			丸善プラネット
46	菊池春男・萩野 馨	1985	岩手のおける製鉄遺跡調査中間報告	たたら研究会資料		たたら研究会
47	窪田蔵郎	1973	改定鉄の考古学			雄山閣出版
48	窪田蔵郎	1986	鉄の民俗史			雄山閣出版
49	小貫義男	1981	付記製鉄と地質との関係、火成岩類概説	北上川流域地質図説明書		
50	昆 勇郎	1952	ヤグラ沢遺跡概報	釜石郷土文化資料	第３集	土曜会

第12表　岩手県内製鉄遺跡関連文献一覧表（２）

NO	著　　者	刊行年	論文名・書名	雑誌名・シリーズ名	巻数・号数	発　　行　　所
51	斎藤 潔	1983	八戸の鉄の歴史	八戸地域史	第２号	八戸歴史研究会
52	斎藤 潔	1984	八戸藩日記の鉄関係記事	たたら研究	26号	たたら研究会
53	斎藤 潔	1985	八戸藩日記の鉄関係記事(二)	たたら研究	27号	たたら研究会
54	斎藤 潔	1987	八戸藩日記の鉄関係記事(三)	たたら研究	28号	たたら研究会
55	斎藤 潔	1988	八戸藩日記の鉄関係記事(四)	たたら研究	29号	たたら研究会
56	斎藤 潔	1990	鉄の社会史			雄山閣出版
57	佐々木晃	1985	わが斎藤三平伝			民衆社
58	佐藤源郎	1954	砂鉄鉱床論	未利用資源	第１集	通産省地下資源開発評議会鉱山部会
59	佐藤興二郎	1961	仙台藩製鉄史	岩手史学研究	37号	岩手史学会
60	沢館栄吉・黒沢千穂子	1985	大槌地方史年表			川口印刷
61	沢館栄吉ほか	1966		大槌町史	上巻	大槌町
62	菅原秀幸	1986	南部密銭史			岩手出版
63	杉原清一	1985	たたら炉床構造の推移について	たたら研究	27号	たたら研究会
64	千厩町誌編纂委員会	1993		千厩町史	第３巻	千厩町
65	高田一徳	1989	鳥越館跡発掘調査報告書	一戸町文化財調査報告書	第21集	一戸町教育委員会
66	高橋克弥	1964	北上山系製鉄史についての一考案	たたら研究	13号	たたら研究会
67	武田将男	1984	宮古市遺跡分布調査報告書２	宮古市埋蔵文化財報告書	第４集	宮古市教育委員会
68	武田将男	1986	宮古市遺跡分布調査報告書４	宮古市埋蔵文化財調査報告書	第８集	宮古市教育委員会
69	武田将男	1986	宮古市遺跡分布図	宮古市埋蔵文化財調査報告書	第９集	宮古市教育委員会
70	田村栄一郎	1987	「みちのくの砂鉄・今いずこ」			久慈砂鉄の会
71	千葉房夫	1954	旧仙台藩領東磐井郡東山を中心にして	奥羽鉱業史		
72	千葉房夫	1961	岩手県東磐井郡の製鉄業	たたら研究	６号	たたら研究会
73	東京工業大学製鉄史研究会	1982	古代日本の鉄と社会			平凡社選書
74	新沼鐵夫	1970	わが国の製鉄歴史上巻	釜石市文化財調査報告書	第７集	釜石市教育委員会
75	新沼鐵夫	1983	古代製鉄の還元・加工技術について	日本製鉄史論集		たたら研究会
76	新渡戸仙岳	1949	岩手における私炉ー岩手における鋳銭（一）ー	岩手史学研究	４号	岩手史学会
77	日本常民文化研究所編	1973	日本常民生活資料叢書		第８巻	三一書房
78	野崎 準	1977	仙台藩の製鉄と佐藤十郎左衛門	金属博物館紀要	第２号	社団法人金属学会付属金属博物館
79	野崎 準	1988	東辺・北辺の鉄文化	東北文化研究所紀要	第20号	東北学院大学東北文化研究所
80	萩慎一郎ほか	1985	陸中国下閉伊郡岩泉村早野家文書（上）	日本文化研究所研究報告	第22集	日本文化研究所
81	藤沢町教育委員会	1996	藤沢の遺跡			藤沢町
82	藤沢町文化財調査委員会編	1986	大籠のキリシタンと製鉄			藤沢町文化財振興協会
83	三上 昭ほか	1981	東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅷ	岩手県文化財調査報告書	第57集	岩手県教育委員会
84	佐藤良和	2004	中半入遺跡第３次発掘調査報告書	水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書	第18集	(財)水沢市文化振興事業団水沢市埋蔵文化財調査センター
85	向井義郎	1964	近世東北地方における製鉄法	たたら研究	13号	たたら研究会
86	室根村教育委員会	1995	室根の鉄山			室根村
87	森　嘉兵衛・板橋　源	1956	橋野高炉遺跡			釜石市教育委員会
88	森　嘉兵衛・板橋　源	1957	近代鉄産業の成立ー釜石製鉄所前史ー			（株）新日本製鐵
89	森　嘉兵衛・板橋　源	1960	栗林銭座発掘調査報告書			釜石市教育委員会
90	盛浩一編	1974	日本古代文化の研究・鉄			社会思想社
91	八重樫良宏ほか	1979	東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ	岩手県文化財調査報告書	第32集	岩手県教育委員会
92	吉田 努ほか	1982	東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ	岩手県文化財調査報告書	第68集	岩手県教育委員会
93	山崎一平	1958	橋野高炉跡の史跡指定になるまで	釜石郷土文化資料	第11集	土曜会
94	佐々木健・川向聖子	2001	山田町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ（豊間根地区）	山田町埋蔵文化財調査報告書	第５集	山田町教育委員会
95	佐々木健・川向聖子	2002	山田町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ（山田・織笠地区）	山田町埋蔵文化財調査報告書	第７集	山田町教育委員会
96	陸前高田市編集委員会	2000		陸前高田市史	第十巻	陸前高田市
97	田口勇・尾崎保博	1994	みちのくの鉄			㈱アグネ技術センター
98	鴇田勝彦	1994	藤沢町ドウメキ沢製鉄遺跡の発掘調査	みちのくの鉄ー仙台藩炉屋製鉄の歴史と科学ー		㈱アグネ技術センター
99	鴇田勝彦ほか	1978	ドウメキ沢製鉄遺跡発掘調査報告書			藤沢町教育委員会
100	江刺恒久	1927	奥々風土記	南部叢書	第一冊	南部叢書刊行會

岩脇炯屋・全景

山口山炯屋（１）・遠景（北→）

沢内炯屋・近景

室根山炯屋・全景（東→）

坂本炯屋・全景（東→）

坂本炯屋・鉄滓採集地点

白堀炯屋・全景（南→）

大陽鍛冶場全景（西→）

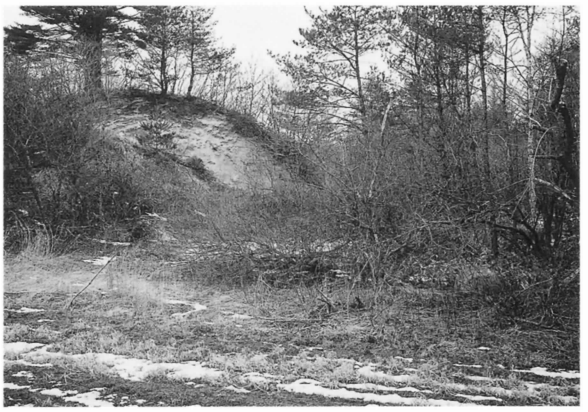
佐野炉屋・近景

吉が沢砂鉄山・開田地(西→)

沢山不動遺跡・近景

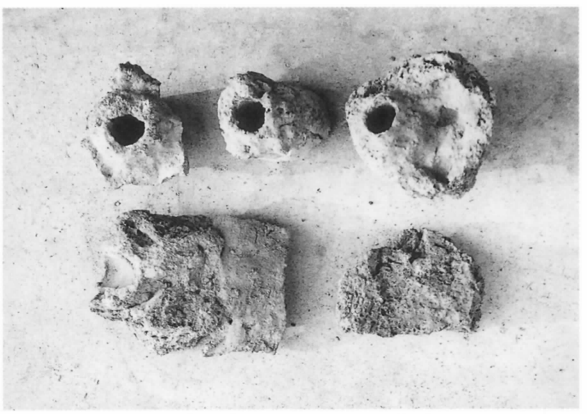
払川中流遺跡・全景(東→)

根井沢日影Ⅰ遺跡・全景(南→)

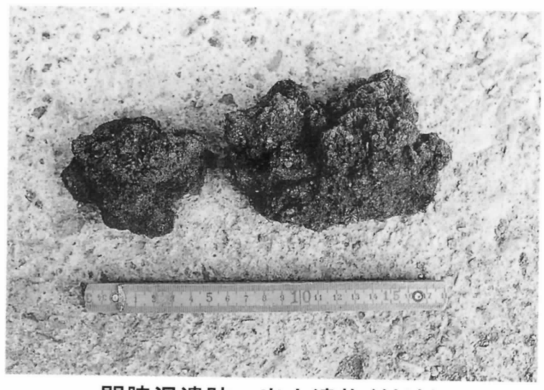


芦毛渡鉄山・排滓場(北西→)

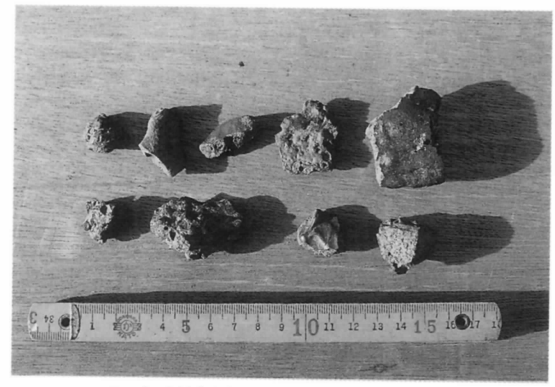
橡沢山炉屋・出土遺物



湯清畑鍛冶跡・出土遺跡



門脇沢遺跡・出土遺物(鉄滓)



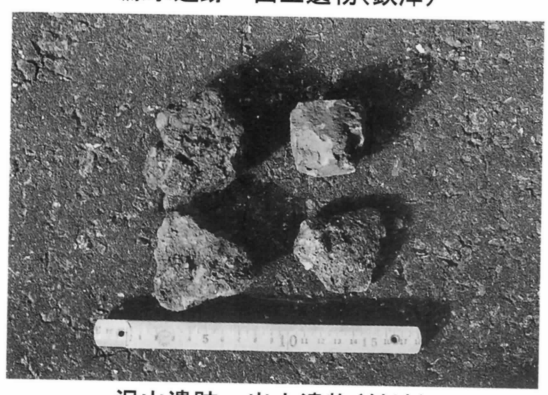
三十刈遺跡・出土遺物(鉄滓)

渋梨の沢遺跡・出土遺物(鉄滓)

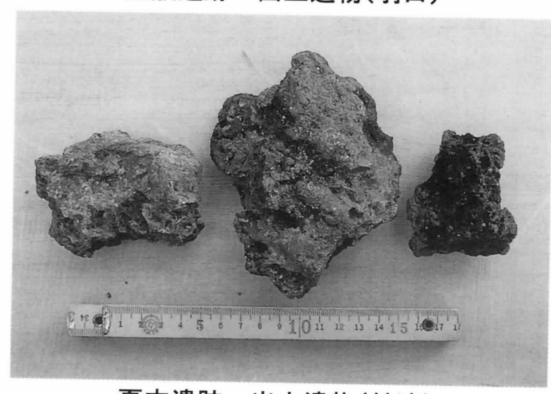
柾内遺跡・出土遺物(鉄滓)

源水遺跡・出土遺物(鉄滓)

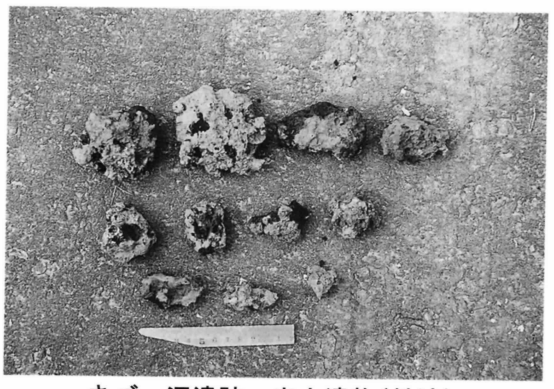
屋敷遺跡・出土遺物(羽口)



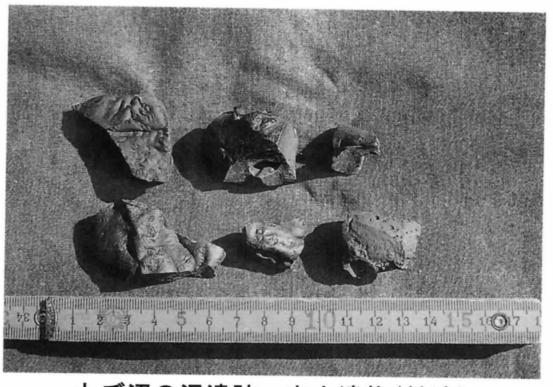
沢山遺跡・出土遺物(鉄滓)



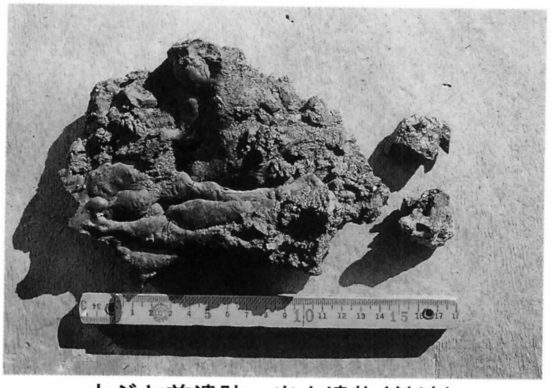
夏本遺跡・出土遺物(鉄滓)



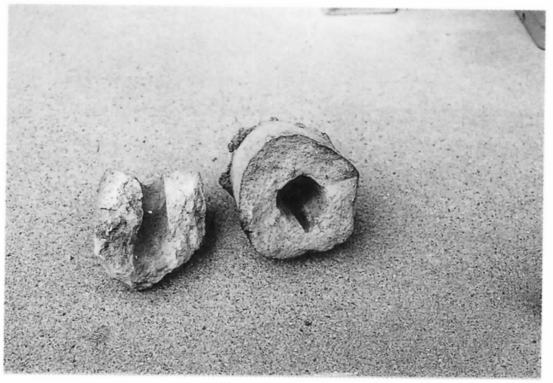
きづァ沼遺跡・出土遺物(鉄滓)



カヂ沼の沢遺跡・出土遺物(鉄滓)



カジヤ前遺跡・出土遺物(鉄滓)

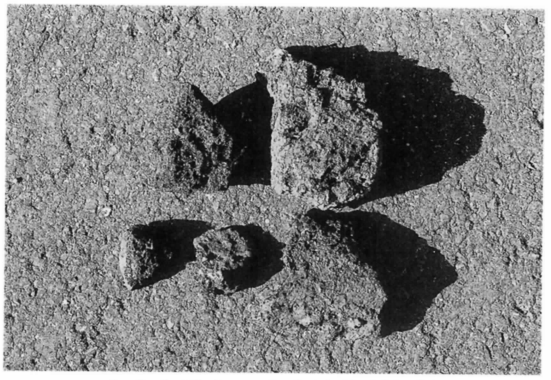


鬼打遺跡・出土遺物(羽口)

山岸沢遺跡・出土遺物(鉄滓)

高清水遺跡・出土遺物(鉄滓)

張山遺跡・出土遺物(鉄滓)



上の山鉄山・出土遺物(鉄滓)

岩手県文化財調査報告書第122集

岩手の製鉄遺跡

―― 岩手県内重要遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ ――

発行年月日　平成18年３月31日

発　　行　岩手県教育委員会
028-8570　盛岡市内丸10-1

編　　集　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課

印　　刷　川嶋印刷株式会社